

仁愛女子短期大学
自己点検・評価報告書

平成 23 年 5 月

仁愛女子短期大学

目次

自己点検評価報告書

1. 自己点検・評価の基礎資料.....	1
2. 自己点検・評価報告書の概要.....	16
3. 自己点検・評価の組織と活動.....	18
4. 提出資料・備付資料一覧.....	20
基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果.....	24
基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果.....	25
基準Ⅰ-A 建学の精神.....	25
基準Ⅰ-A-1 建学の精神が確立している.....	26
基準Ⅰ-B 教育の効果.....	28
基準Ⅰ-B-1 教育目的・目標が確立している.....	28
基準Ⅰ-B-2 学習成果を定めている.....	29
基準Ⅰ-B-3 教育の質を保証している.....	30
基準Ⅰ-C 自己点検・評価.....	31
基準Ⅰ-C-1 自己点検・評価活動等の実施体制が確立し、向上・充実に向けて努力している.....	31
基準Ⅱ 教育課程と学生支援.....	33
基準Ⅱ-A 教育課程.....	35
基準Ⅱ-A-1 学位授与の方針を明確に示している.....	36
基準Ⅱ-A-2 教育課程編成・実施の方針を明確に示している.....	38
基準Ⅱ-A-3 入学者受け入れの方針を明確に示している.....	52
基準Ⅱ-A-4 学習成果の査定(アセスメント)は明確である.....	52
基準Ⅱ-A-5 学生の卒業後評価への取り組みを行っている.....	67
基準Ⅱ-B 学生支援.....	67
基準Ⅱ-B-1 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用している.....	70
基準Ⅱ-B-2 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に行っている.....	75
基準Ⅱ-B-3 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて学生の生活支援を組織的に行っている.....	76
基準Ⅱ-B-4 進路支援を行っている.....	78
基準Ⅱ-B-5 入学者受け入れの方針を受験生に対して明確に示している.....	81
基準Ⅲ 教育資源と財的資源.....	82
基準Ⅲ-A 人的資源.....	82
基準Ⅲ-A-1 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて教員組織を整備している.....	84
基準Ⅲ-A-2 専任教員は、学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて教育研究活動を行っている.....	84
基準Ⅲ-A-3 学習成果を向上させるための事務組織を整備している.....	85

基準Ⅲ-A-4 人事管理が適切に行われている	85
基準Ⅲ-B 物的資源.....	86
基準Ⅲ-B-1 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて校地、校舎、施設設備、その他の物的資源を整備、活用している	86
基準Ⅲ-B-2 施設設備の維持管理を適切に行っている	88
基準Ⅲ-C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源	89
基準Ⅲ-C-1 短期大学は、学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて学習成果を獲得させるために技術的資源を整備している.....	89
基準Ⅲ-D 財的資源	91
基準Ⅲ-D-1 財的資源を適切に管理している	92
基準Ⅲ-D-2 量的な経営判断指標等に基づき実態を把握し、財政上の安定を確保するよう計画を策定し、管理している	93
選択的評価基準 3. 地域貢献の取り組みについて	95
基準(1) 地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等を実施している..	95
基準(2) 地域社会の行政、商工業、教育機関及び文化団体等と交流活動を行っている....	96
基準(3) 教職員及び学生がボランティア活動等を通じて地域に貢献している.....	98

自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、飯田女子短期大学との相互評価のために、仁愛女子短期大学の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

平成 23 年 5 月 31 日

理事長

禿 了修

学長

禿 正宣

ALO

内山 秀樹

1. 自己点検・評価の基礎資料

(1) 学校法人及び短期大学の沿革

仁愛女子短期大学は、学園の建学の精神である「仁愛兼済」^{じんあいけんさい}をベースとした有為の女性を育成する女子の高等教育機関として、昭和40年(1965年)に学校法人福井仁愛学園によって開設されたものである。現在、生活科学学科(生活環境専攻・生活情報専攻・食物栄養専攻)、幼児教育学科の2学科3専攻を設置する、入学定員290名の短期大学である。

学園の創立は、明治31年(1898年)の婦人仁愛会教園まで遡ることができる。学園名として「仁愛」の語は、仏典「無量寿経」の一節、「仁愛兼済」(仁と愛を兼ねて済^{すく}う)からとられたものである。その基本とするところは、我が国への仏教伝来に大きな役割を果たされた聖徳太子が仏教精神に基づいて取り組んだとされる教育と福祉に関する四箇院の事業に倣い、当時の福井の地においてその一端たりとも実現したいという、聖徳太子を深く讃仰していた創立者の願いに拠っている。

本学園は創立以来110年余りにわたり、聖徳太子と浄土真宗の宗祖親鸞の教えを基盤とした教育理念のもと、教育制度の変遷に応じた学校を設置してきたが、現在は短期大学のほか、

- ・ 仁愛大学大学院人間学研究科(修士課程)臨床心理専攻
仁愛大学人間学部(心理学科・コミュニケーション学科)
仁愛大学人間生活学部(健康栄養学科・子ども教育学科)
- ・ 仁愛女子高等学校(普通科・音楽科)
- ・ 仁愛女子短期大学附属幼稚園

を併設している。

■ 学校法人及び短期大学の沿革

年 月	沿 革
明治31年(1898)4月	福井市毛矢町に婦人仁愛会教園(修業年限3年)を創立
明治31年(1898)11月	福井市宝永4丁目(現在の仁愛女子高等学校所在地)に移転
明治34年(1901)4月	仁愛女学館に改称
明治38年(1905)4月	仁愛女学校に改称
大正13年(1924)1月	高等女学校令による福井仁愛高等女学校(修業年限4年)を設立
昭和23年(1948)4月	仁愛学園女子高等学校認可 女子中学校併設
昭和26年(1951)3月	私立学校法による学校法人福井仁愛学園発足
昭和28年(1953)4月	高等学校に専攻科設置(短大設置の端緒となる)
昭和31年(1956)3月	高等学校を「仁愛女子高等学校」に改称 女子中学校廃止
昭和40年(1965)4月	仁愛女子短期大学開学(家政科) 初代学長に禿了信就任
昭和41年(1966)4月	短期大学保育科開設並びに同附属幼稚園開園
昭和47年(1972)4月	短期大学音楽学科開設
昭和57年(1982)4月	短期大学国文学科開設 武生市(現越前市)大手町に家政学科を移転し、仁愛女子短期大学武生キャンパス開設
平成10年(1998)10月	福井仁愛学園創立100周年記念式典を挙行
平成13年(2001)4月	短期大学生活科学学科を福井キャンパスに移転 武生キャンパスに仁愛大学(人間学部)開学
平成14年(2002)5月	短期大学国文学科を廃止
平成17年(2005)4月	仁愛大学に大学院人間学研究科(心理学専攻)開設
平成17年(2005)10月	仁愛女子短期大学開学40周年、同附属幼稚園開園40周年記念式典挙行
平成19年(2007)3月	平成18年度財団法人短期大学基準協会による第三者評

年 月	沿 革
	価の結果、適格と認定
平成 20 年(2008)10 月	福井仁愛学園創立 110 周年記念式典を挙
平成 21 年(2009) 4 月	短期大学生生活科学学科食物栄養専攻の入学定員を 10 名減じ 40 名に、幼児教育学科の入学定員を 50 名減じ 100 名に変更 仁愛大学に人間生活学部を開設
平成 22 年(2010) 3 月	短期大学生生活科学学科調理科学専攻廃止
平成 23 年(2011) 3 月	短期大学専攻科食物栄養専攻廃止
平成 23 年(2011) 4 月	短期大学幼児教育学科の入学定員を 20 名増の 120 名に変更、音楽学科(入学定員 30 名)は学生募集停止 仁愛大学大学院人間学研究科臨床心理学専攻に改称

(2) 学校法人の概要

- 学校法人が設置するすべての教育機関の名称、所在地、入学定員、収容定員及び在籍者
平成 22 年 5 月 1 日現在

学校名	所 在 地	学部・学科名	入学定員	収容定員	在籍者数
仁愛大学	越前市大手町 3-1-1	大学院人間学研究科 人間学部 人間生活学部	12 190 120	24 800 ※ ¹ 240	20 817 252
仁愛女子短期大学	福井市天池町 43-1-1	生活科学学科 幼児教育学科 音楽学科 専攻科食物栄養専攻 専攻科音楽専攻	170 100 30 — 10	340 200 60 ※ ² 10 20	327 223 23 9 20
仁愛女子高等学校	福井市宝永 4-9-24	普通科 音楽科	420 25	1,260 75	1,159 58
仁愛女子短期大学 附属幼稚園	福井市天池町 43-1-1		50	230	190

※1 平成 21 年 4 月人間生活学部を開設し、現在は学年進行中である。

※2 平成 22 年 4 月専攻科食物栄養専攻は、10 名の学生募集停止を行った。

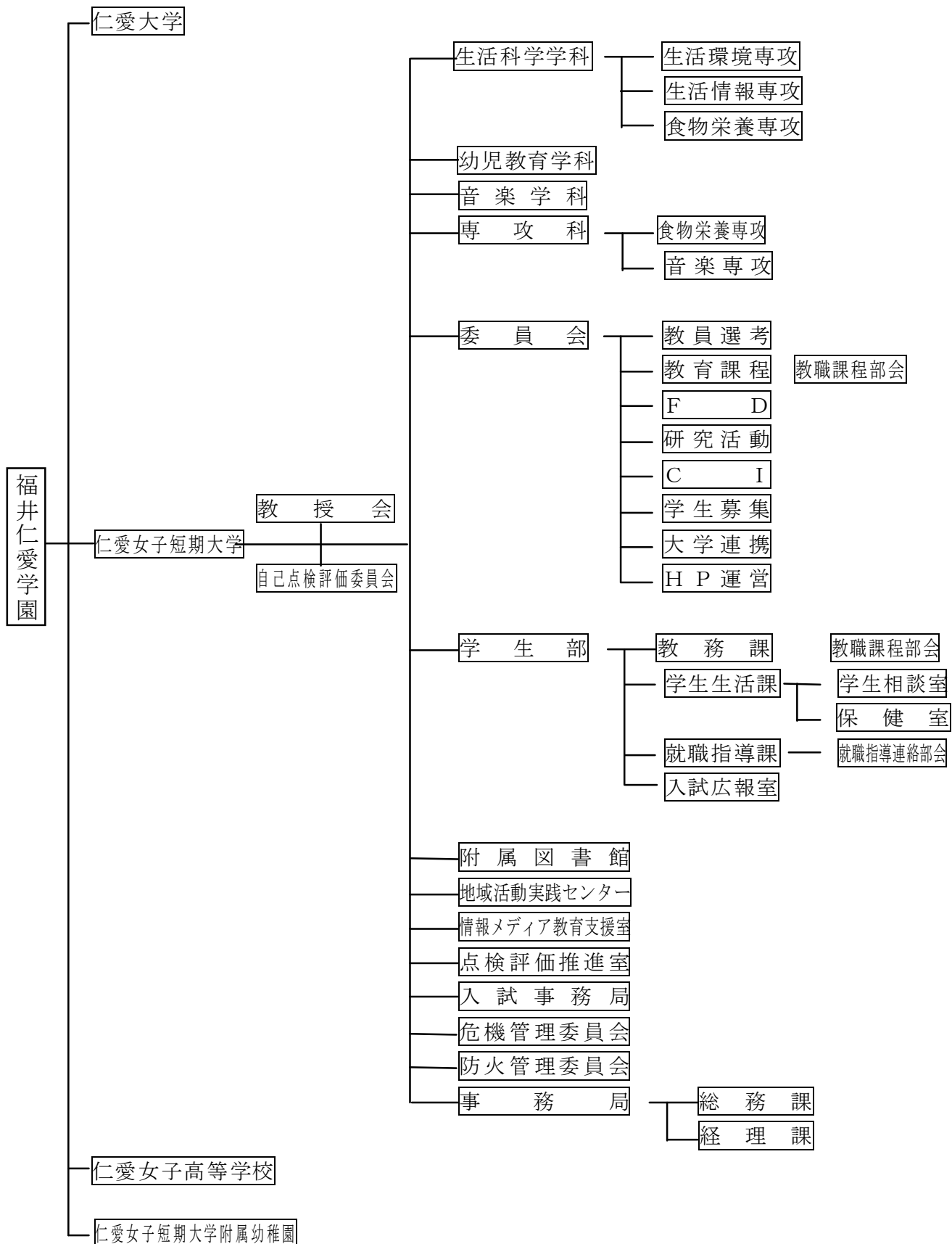
(3) 学校法人・短期大学の組織図

- 評価実施年度 5 月 1 日現在の専任教員数、非常勤教員数、専任事務職員数、非常勤事務職員数
平成 22 年 5 月 1 日現在

学校名	学部・学科名	教員		事務職員	
		専 任	非常勤	専 任	非常勤
仁愛大学	大学院人間学研究科 人間学部 人間生活学部	1(16) 35 35	5 41 22	30	3
仁愛女子短期大学	生活科学学科 幼児教育学科 音楽学科	21 11 5	54 26 42	22	28
仁愛女子高等学校		60	81	7	7
仁愛女子短期大学附属幼稚園		12	6	0	1

■ 組織図

平成 22 年 4 月 1 日現在



(4) 立地地域の人口動態・学生の入学動向・地域社会のニーズ

■ 立地地域の人口動態(短期大学の立地する周辺地域の趨勢)

福井県の人口の推移

	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
福井県	818,975 人	816,198 人	812,479 人	808,589 人	806,470 人
増加率	△0.32%	△0.34%	△0.46%	△0.48%	△0.26%

福井県の高校3年生女子生徒数の推移(福井県学校基本調査)

	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
高校 3 年生 女子生徒数	4,160 人	3,978 人	3,924 人	3,724 人	3,724 人
前年比	99.57% (-0.43%)	95.63% (-0.37%)	98.64% (-0.36%)	94.90% (-5.10%)	100% (±0.00%)

■ 学生の入学動向(過去の実績と未来の予測、学生の出身地別人数及び割合)

地 域 区 分	平成 19 年度		平成 20 年度		平成 21 年度		平成 22 年度	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
福井市	146	36.0%	138	34.6%	131	43.4%	113	40.9%
福井市隣接地域	89	22.0%	107	26.8%	65	21.5%	63	22.8%
奥越地域	21	5.3%	21	5.3%	27	8.9%	20	7.2%
丹南地域	111	27.4%	103	25.8%	58	19.2%	63	22.8%
嶺南地方	10	2.5%	14	3.5%	10	3.3%	9	3.3%
(県内 計)	377	93.1%	383	96.0%	291	96.4%	268	97.1%
富山県	16	2.0%	3	0.8%	2	0.7%	3	1.1%
石川県	8	3.9%	10	2.5%	7	2.3%	4	1.4%
その他県外	4	1.0%	3	0.8%	2	0.7%	1	0.4%
(県外 計)	28	6.9%	16	4.0%	11	3.6%	8	2.9%
入学生合計	405	100.0%	399	100.0%	302	100.0%	276	100.0%

【地域区分】

福井市隣接地域 …… 坂井市、あわら市、永平寺町

奥越地域 …… 大野市、勝山市

丹南地域 …… 越前市、鯖江市、越前町、南越前町、池田町

嶺南地方 …… 敦賀市、美浜町、若狭町、小浜市、おおい町、高浜町

■ 地域社会の産業の状況

福井県の主な地場産業としては、合繊織物を中心として総合産地を形成する繊維産業をはじめ、眼鏡、漆器、和紙などが挙げられる。加えて、産業の高度化、活性化の拠点として、テクノポート福井(福井臨海工業地帯)の建設により、ここでは、アルミ加工、機械・金属、化学などの業種に加え、情報通信関連分野など先端技術と結びついた産業を展開している。

『福井県の工業(平成21年工業統計調査結果報告書)』によると、事業所数(従業者4人以上の事業所)の内訳を産業別にみると、繊維(構成比26.6%)が最も多く、眼鏡・漆器等(構成比12.7%)、食料品(構成比9.9%)の順となり、従業員数(従業者4人以上の事業所)を産業別の内訳でみると、繊維(構成比23.0%)が最も多く、電子・デバイス(構成比13.1%)、眼鏡・漆器等(構成比8.2%)の順となり、いずれも繊維、眼鏡、漆器などの地場産業が多くを占めている。

一方、福井県には15基の原子力発電所があり、その原子力発電量は全国の25%強を賄っており、特に関西経済圏へのエネルギー供給基地となっている。

なお、福井県は日本海に面し、肥沃な越前平野また岐阜県、京都府境には山地が広がっていることから、豊かな農村水産業も盛んである。

■ 地域社会のニーズ

福井県は、繊維や眼鏡枠、漆器などの地場産業の関係からも伝統的に共働き率が高く、『平成19年就業構造基本調査 福井県の概要』によると夫婦のいる世帯のうち、夫婦とも有業(共働き世帯)の占める割合は59.9%(全国1位)となっている。それに伴って、従来より、保育所・児童館等の施設の整備の充実がなされてきた。

特に近年の出生数は低下傾向にあるものの、育児休業の普及による離職率の低下や核家族化の進行によって、保育所においては、0歳児から2歳児までの保育需要が増加してきている。またこれらのことにより本学に寄せられている保育士の求人情数及び求人数が急増してきており、保育士養成の需要の高まりが今後も予測される。

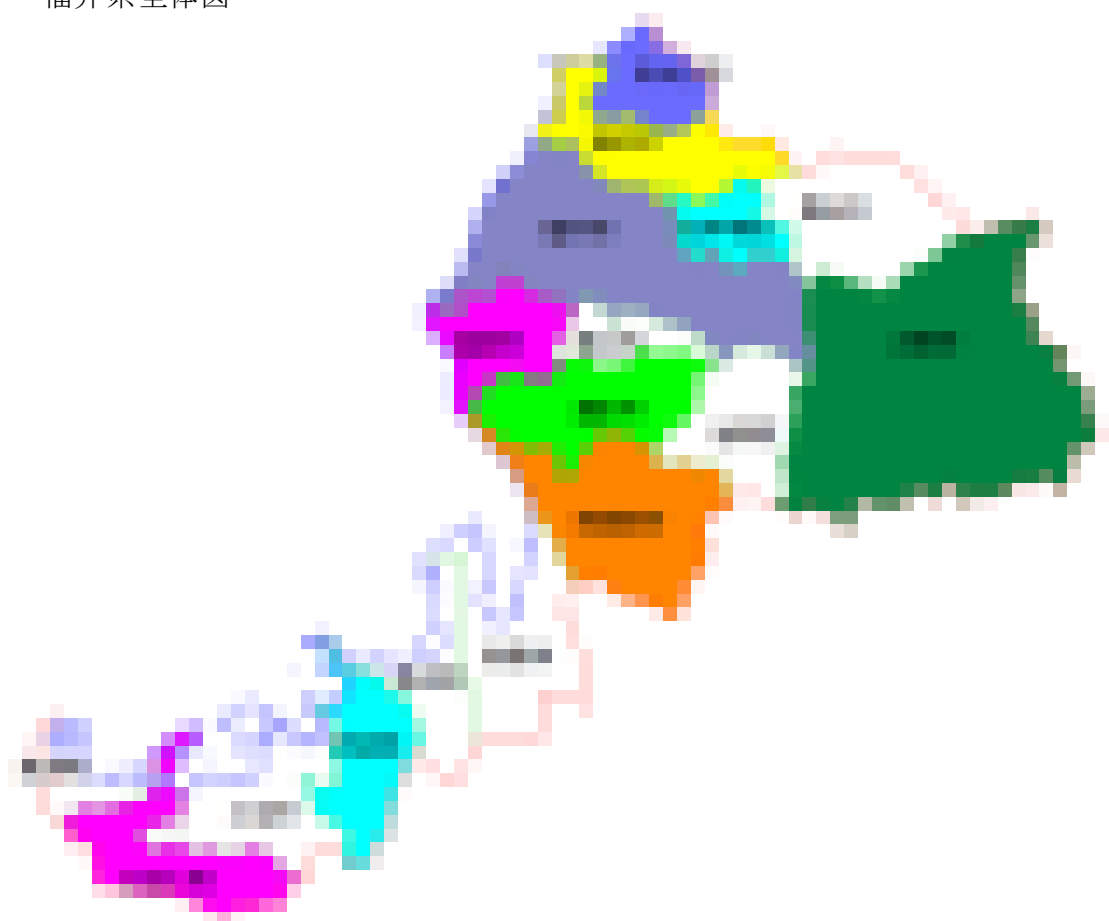
また、福井県は全国で有数の長寿県であり、これを更に維持していくため、全国に先駆けて平成15年に「福井元気宣言」の中で健康長寿を掲げている。また、平成17年6月の「食育基本法」の制定を受け、福井県においては「健康長寿ふくいの食育活動マニュアル」を作成し、「食を通じた豊かな人間性を育む」ための活動を、県を挙げて積極的に推進しているところである。

本学の生活科学学科食物栄養専攻は、この食育を推進する活動の核となるべき栄養士を養成する施設として、食の専門家となり得る有能な人材を今後も輩出していく。

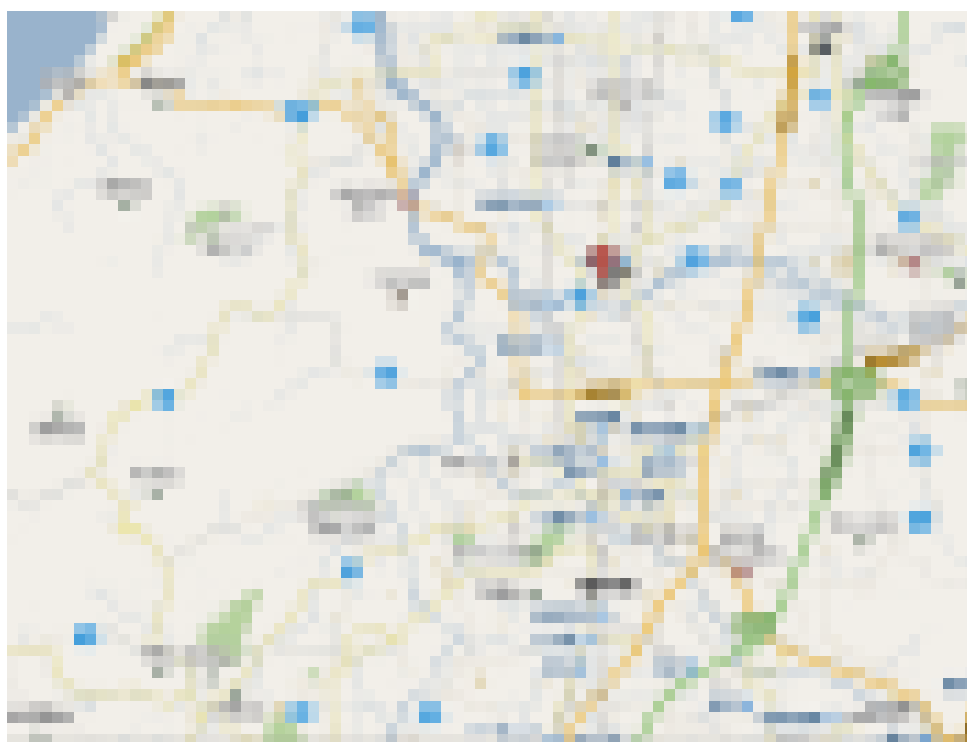
■ 短期大学所在の市区町村の全体図

福井県は、人口80万人で、北陸地方の最南端に位置し、関西圏とは隣接した地理的環境にある。JR北陸線の北陸トンネルを境にして、嶺北・嶺南の2地方に分かれており、本学の立地する県庁所在地福井市は、嶺北地方の北部に位置しており、人口、産業等も嶺北部に中心がある。

福井県全体図



大学周辺図



(出典: GoogleMap)

(5) 課題等に対する向上・充実の状況

① 前回の第三者評価結果における三つの意見の「向上・充実のための課題」で指摘された事項への対応について

改善を要する事項（向上・充実のための課題）	対策	成果
研究業績面で、教員間に差がみられる。特に、若手教員の活性化が望まれる。	科研費や外部研究費への応募を奨励すると共に、本学の共同研究費の助成金や学園後援会特別助成金等の助成金の応募も奨励して研究活動の活発化を図る。	平成 21 年 4 月併設する仁愛大学の新学部開設に伴い、短大の定員変更があり、専任教員は 50 名から 37 名へと減少した。また、新任の教員も多い。しかし、研究紀要の投稿や研究活動はそれほど減少せず活発に行われている。下記集計表のように若手教員 20 人（内 8 人は 21 年度以降に着任）であるが、学会発表こそ少ないが、他では活動していると言える。

教員の研究実績表(平成 19 年～22 年)

学科名	氏名	職名	研究業績					国際的 活動の有無	社会的 活動の有無	備考 (着任年度)
			著作数	論文数	学会等 発表数	展覧会 演奏会等	その他			
	禿 了滉	学園長	2	0	0	0	0	無	有	
	禿 正宣	学長	0	0	0	0	0	無	有	
	齋藤慶四郎	副学長	0	0	0	0	0	無	有	
	水岸 誠	副学長	1	0	0	0	0	無	無	
生活科学学科	内山秀樹	教授	2	1	0	0	0	無	有	
	大西新吾	教授	3	1	0	0	0	無	無	
	岸松静代	教授	1	7	6	0	0	有	有	
	島田貢明	教授	0	1	0	0	0	無	有	
	種村安子	教授	0	0	0	0	0	無	有	平成 21
	西畑敏秀	教授	0	0	0	0	0	無	有	平成 21
	藤原正敏	教授	2	2	4	0	0	有	有	
	三谷勝己	教授	1	3	2	0	0	無	有	
	北岡一道	准教授	1	6	0	0	0	無	有	
	田中洋一	准教授	0	3	13	0	0	無	有	
	内藤 徹	准教授	0	5	2	0	0	無	有	
	牧野みゆき	准教授	2	6	10	0	0	無	有	

学 科 名	氏名	職名	研究業績					国際的活動の有無	社会的活動の有無	備考 (着任年度)
			著作数	論文数	学会等発表数	展覧会演奏会等	その他			
	桑野洋子	講師	0	0	3	0	0	無	有	
	平塚紘一郎	講師	0	2	2	0	0	無	無	平成 21
	前田博子	講師	0	0	0	0	0	無	有	平成 22
	藤野和美	助手	0	0	0	0	0	無	無	平成 22
	森 恵見	助手	0	0	4	0	0	無	有	平成 22
	百木華奈子	助手	0	3	3	0	0	無	有	
幼 児 教 育 学 科	西尾 章	教授	0	0	0	0	0	無	無	
	平岡芳美	教授	0	0	0	0	1	無	有	
	三和 優	教授	0	0	0	0	1	無	有	
	乙部貴幸	准教授	0	3	11	0	0	有	有	
	松川恵子	准教授	3	5	4	0	7	無	有	
	青井夕貴	講師	1	1	2	0	0	無	有	平成 21
	長谷川和子	講師	0	0	0	5	1	無	有	
	前田敬子	講師	0	4	1	0	0	無	有	平成 21
	増田 翼	講師	3	1	0	0	0	無	無	平成 22
音 楽 学 科	大久保功治	教授	0	0	0	15	21	有	有	
	倉田佳代子	教授	0	0	0	15	0	無	有	
	中野研也	准教授	0	0	0	9	0	有	無	
	河野久寿	講師	0	0	0	2	38	無	有	平成 20
	木下由香	講師	0	0	0	23	0	無	有	
	野尻恵美子	講師	1	5	5	0	0	無	有	

若手教員(准教授～助手)の研究業績の比較

調査年度	若手教員数	研究業績				
		著作数	論文数	学会等発表数	展覧会演奏会等	その他
H15～H18	26 人	13(50%)	48(185%)	113(435%)	69(265%)	29(112%)
H19～H22	20 人	11(55%)	44(220%)	60(300%)	39(195%)	46(230%)

[注] 表中の「その他」は、学会以外の専門雑誌等への掲載論文等や、作品発表、作曲・編曲、指揮等が含まれる。

② 上記以外で、改善を図った事項について

改善を要する事項	対策	成果
----------	----	----

留意事項は、なし	----	----
----------	------	------

- ③ 過去 7 年間に、文部科学省の設置計画履行状況等調査において留意事項が付された短期大学は、留意事項及びその履行状況を記述する。

仁愛大学人間生活学部健康栄養学科、子ども教育学科の平成 21 年度学部増設に係る履行状況等調査の結果（平成 22 年 1 月 29 日付 21 文科高第 556 号）、以下の留意事項が付された。

「入学定員比の平均が 0.7 倍未満となっていることから、今後の定員充足の在り方について検討すること。（仁愛女子短期大学 音楽学科）」

この留意事項に対し、音楽学科の募集方法や教育内容の見直しによる定員割れの回復は困難で、平成 23 年度からは学生募集を停止のうえ廃止することとした。また、音楽学科の定員の一部を幼児教育学科に振り替えて（音楽学科 30 名⇒幼児教育学科 20 名）、本学全体の定員規模の維持を図ることとした。

（「募集停止の報告」及び「収容定員に係る学則変更届出」は、平成 22 年 7 月 10 日付文部科学省に手続き済み）

(6) 学生データ

① 入学定員、入学者数、入学定員充足率、収容定員、在籍者数、収容定員充足率

学科等の名称	事項	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	備考
生活科学学科	a. 入学定員	215	215	170	170	170	
	b. 入学者数	213	221	177	155	145	
	充足率(b/a)	99%	102%	104%	91%	85%	
	c. 収容定員	430	430	385	340	340	
	d. 在籍者数	431	430	398	327	302	
	充足率(d/c)	100%	100%	103%	96%	88%	
生活科学学科 生活環境専攻	a. 入学定員	40	40	40	40	40	
	b. 入学者数	30	34	39	34	36	
	充足率(b/a)	75%	85%	97%	85%	90%	
	c. 収容定員	80	80	80	80	80	
	d. 在籍者数	68	64	73	71	71	
	充足率(d/c)	85%	80%	91%	88%	88%	
生活科学学科 生活情報専攻	a. 入学定員	90	90	90	90	90	
	b. 入学者数	100	98	97	76	69	
	充足率(b/a)	111%	108%	107%	84%	76%	
	c. 収容定員	180	180	180	180	180	
	d. 在籍者数	189	198	197	170	145	
	充足率(d/c)	105%	110%	109%	94%	80%	
生活科学学科 調理科学専攻	a. 入学定員	35	35	募集停止	廃止		
	b. 入学者数	26	38	—			
	充足率(b/a)	74%	108%	—			
	c. 収容定員	70	70	35			
	d. 在籍者数	60	63	38			
	充足率(d/c)	85%	90%	108%			

学科等の名称	事項	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	備考
生活科学学科 食物栄養専攻	a.入学定員	50	50	40	40	40	
	b.入学者数	57	51	41	45	40	
	充足率(b/a)	114%	102%	102%	112%	100%	
	c.収容定員	100	100	90	80	80	
	d.在籍者数	114	105	90	86	86	
	充足率(d/c)	114%	105%	100%	107%	107%	
幼児教育学科	a.入学定員	150	150	100	100	120	
	b.入学者数	159	153	110	110	136	
	充足率(b/a)	106%	102%	110%	110%	113%	
	c.収容定員	300	300	250	200	220	
	d.在籍者数	314	310	260	223	246	
	充足率(d/c)	104%	103%	104%	111%	111%	
音楽学科	a.入学定員	30	30	30	30	募集停止	
	b.入学者数	33	25	15	11	—	
	充足率(b/a)	110%	83%	50%	36%	—	
	c.収容定員	60	60	60	60	30	
	d.在籍者数	59	57	37	23	8	
	充足率(d/c)	98%	95%	61%	38%	26%	

②卒業者数(人)

区分	平成19年度 (H18入学生)	平成20年度 (H19入学生)	平成21年度 (H20入学生)	平成22年度 (H21入学生)	平成23年度 (H22入学生)
生活科学学科	211	204	219	168	
生活環境専攻	37	29	33	35	
生活情報専攻	84	96	100	85	
調理科学専攻	34	25	38	—	—
食物栄養専攻	56	54	48	40	
幼児教育学科	155	155	147	111	
音楽学科	23	32	21	11	

③就職者数(人)

区 分	平成19年度 (H18入学生)	平成20年度 (H19入学生)	平成21年度 (H20入学生)	平成22年度 (H21入学生)	平成23年度 (H22入学生)
生活科学学科	183	170	185	146	
生活環境専攻	31	24	28	30	
生活情報専攻	73	82	78	80	
調理科学専攻	31	23	34	—	—
食物栄養専攻	48	41	45	36	
幼児教育学科	151	150	140	107	
音楽学科	10	14	9	4	

④進学者数(人)

区 分	平成19年度 (H18入学生)	平成20年度 (H19入学生)	平成21年度 (H20入学生)	平成22年度 (H21入学生)	平成23年度 (H22入学生)
生活科学学科	19	19	10	8	
生活環境専攻	4	1	1	3	

生活情報専攻	7	5	6	1	
調理科学専攻	1	1	1	-	-
食物栄養専攻	7	12	2	4	
幼児教育学科	0	2	6	2	
音楽学科	12	17	11	5	

⑤休学者数(人)

区 分	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
生活科学学科	1	1	1	0	2
生活環境専攻	0	0	1	0	2
生活情報専攻	0	0	0	0	0
調理科学専攻	0	0	0	-	-
食物栄養専攻	1	1	0	0	0
幼児教育学科	0	0	2	0	0
音楽学科	0	1	0	0	0

⑥退学者数(人)

区分	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
生活科学学科	11	3	7	2	
生活環境専攻	1	1	3	1	
生活情報専攻	5	1	3	1	
調理科学専攻	1	0	0	-	-
食物栄養専攻	4	1	1	0	
幼児教育学科	2	5	0	2	
音楽学科	2	4	4	4	

⑦専攻科の入学者数・修了者数 (人)

区 分		平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
食物 栄養	入学者数	8	7	10	募集停止	廃止
	修了者数	9	8	7	8	
音楽	入学者数	6	9	12	8	5
	修了者数	13	5	9	12	

(7)短期大学設置基準を上回っている状況・短期大学の概要

大学の設置等に係る提出書類の「基本計画書」(「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引き」を参照)内の量的数値及び質的な事項について記述する(評価実施年度の5月1日現在)。

①教員組織の概要(人)

学科等名	専任教員数					設置基準で定める教員数		助手	非常勤教員	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	〔イ〕	〔ロ〕			
生活科学学科	8	4	3	0	15	12(6)	5(2)	3	33	
幼児教育学科	3	3	4	0	10	8(3)		0	16	

音楽学科	2	1	2	0	5	5(2)		0	40	
学科所属でない者	4	0	0	0	4			0	14	
(合計)	17	8	9	0	34	30(13)		3	103	

[注]

1. 上表の〔イ〕とは、短期大学設置基準第22条別表第1のイに定める学科の種類に応じて定める教員数(昼間又は夜間において授業を行う学科が通信教育をあわせ行う場合には、短期大学通信教育設置基準第9条第2項に定める教員数を含む)をいう。ただし、通信教育学科のみを置く短期大学の場合は、短期大学通信教育設置基準第9条第1項別表第1に定める教員数をいう。
2. 上表の〔ロ〕とは、短期大学設置基準第22条別表第1のロに定める短期大学全体の入学定員に応じて定める教員数をいう。なお、昼間又は夜間において授業を行う学科が通信教育をあわせ行う場合には、短期大学通信教育設置基準第9条第2項に定める教員数を加算する。
3. 上表の〔イ〕及び〔ロ〕の欄の()には、短期大学設置基準第22条別表第1のイの備考第1号に定める教授数を記入する。通信教育学科のみを置く短期大学の場合は、短期大学通信教育設置基準第9条第1項別表第1備考第2号に定める教授数を記入する。
4. 上表の助手とは、助手として発令されている教職員をいう。
5. 備考欄には、当該学科の種類(短期大学設置基準第22条別表第1のイにいう「学科の属する分野の区分」)を記載する。

②教員以外の職員の概要(人)

	専任	兼任	計
事務職員	18	0	18
技術職員	0	0	0
図書館・学習資源センター等の専門事務職員	3	28	31
その他の職員	1	2	3
計	22	30	52

③校地等(㎡)

校地等	区 分	専用 (㎡)	共用 (㎡)	共用する他の 学校等の専用 (㎡)	計(㎡)	基準面 積(㎡) [注]	在学生 一人当 たりの 面積 (㎡)	備考 (共有 の状況 等)
	校舎敷地	22,755	0	0	22,755	6,000	78	
	運動場用地	21,275	0	0	21,275			
	小計	44,031	0	0	44,031			
	その他	887	0	0	887			
	合計	44,918	0	0	44,918			

[注]短期大学設置基準上必要な面積

④校舎(㎡)

区分	専用 (㎡)	共用 (㎡)	共用する他の学校 等の専用(㎡)	計(㎡)	基準面積 (㎡)[注]	備考(共有 の状況等)
----	-----------	-----------	---------------------	------	----------------	----------------

校舎	14,382	0	0	14,382	5,900	
----	--------	---	---	--------	-------	--

[注]短期大学設置基準上必要な面積

⑤教室等(室)

講義室	演習室	実験実習室	情報処理 学習室	語学 学習施設	学習支援室
16	13	44	3	1	4

⑥専任教員研究室(室)

専任教員研究室
56

⑦図書・設備

学科・ 専攻課程	図書 [うち外国 書]	学術雑誌 [うち外国書](種)	電子ジャー ナル[う ち外国書]	視聴覚資料 (点)	機械・器 具(点)	標本 (点)
	(冊)					
全 学	87,104 [10,572]	120[10]	0	4,792	0	0

図書館	面積(m ²)	閲覧席数	収納可能冊数
	790	118	63,300
体育館	面積(m ²)	体育館以外のスポーツ施設の概要	
	1,097	ダンススタジオ 258.9 m ²	

(8)短期大学の情報の公表について

①教育情報の公表について

	事項	公表方法等
1	大学の教育研究上の目的に関すること	短期大学ホームページ→大学概要 →「教育情報の公表」 <a href="http://www.jin-ai.ac.jp/about/dis
closure.html">http://www.jin-ai.ac.jp/about/dis closure.html
2	教育研究上の基本組織に関すること	上記に同じ
3	教員組織、教員の数並びに各教員が有する学 位及び業績に関すること	上記に同じ
4	入学者に関する受け入れ方針及び入学者の	上記に同じ

	事項	公表方法等
	数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事	
5	授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関する事	上記に同じ
6	学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関する事	上記に同じ
7	校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関する事	上記に同じ
8	授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関する事	上記に同じ
9	大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関する事	上記に同じ

②学校法人の財務情報の公開について

事項	公開方法等
財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書及び監査報告書	仁愛学園ホームページ→事業概要→「事業報告書・財務状況」 http://www.jin-ai.jp/report.html

(9)各学科・専攻課程ごとの学習成果について

■ 学習成果の規定

生活科学学科では、学習成果を仁愛兼済の建学精神を基盤として生活に関する科学的理解を深め、生活環境、生活情報、食物栄養の専門的知識と技能を修得し心豊かで有能な人材となると規定している。そのために各専攻で開設している免許・資格関連科目などを履修し、それを修得して社会に役立つ人材となることである。

幼児教育学科では、学習成果を仁愛兼済の概念を基に、幼児の理解及びその指導に関する専門的知識と技能を修得し、心豊かで有能な人材となると規定している。教養科目10単位以上、専門科目54単位以上取得した者に対して、卒業が認定される。各科目は、講義概要に掲載されている授業計画に従い、ねらいに達成したと評価された場合、成績評価がC以上(合格)となり、単位が認定される。更に、保育者としての人材になる為に、保育士資格、幼稚園教諭2種免許の関連科目を履修し、専門職として、保育所、幼稚園、施設などに就職して、社会に役立つ人材となることである。

音楽学科では、仁愛兼済の建学の精神を基盤とし、幅広い音楽的教養と豊かな音楽能力を身に付け、演奏や音楽療法及び、デジタル音楽の専門知識と技能を修得することを学習成果として規定している。更に、学外における音楽活動実践プログラムを学科カリキュラムに位置づけ、地域社会の音楽文化のリーダーとして活躍できる人材の育成を目的としている。

■ どのように学習成果の向上・充実を図っているか

生活科学学科では生活環境、生活情報、食物栄養専攻で開設している免許・資格取得に向け、クラスアドバイザーや教科教員の指導のもとに各専攻の特徴を生かした人材育成に努めている。2年次には学習成果を学内外に卒業研究成果として発表している。

幼児教育学科では、保育士資格、幼稚園教諭2種免許につながる単位を取得できるように、MH、AH、オフィスアワーなどで、クラスアドバイザーなどを中心にして、学習の支援を行っている。保育者としての資質向上の為、レクリエーション・インストラクター・リトミック資格取得も推奨している。平成23年度入学生から、選択履修プログラムをカリキュラムの中に入れ、より得意な専門を持った保育者養成を行う。更に、さまざまな講座の開催、ボランティア活動の推奨、「こどものくに」「幼児教育学科学外発表会」などの学生を中心とした企画、運営に対して支援し、学習成果の向上・充実に努めている。

音楽学科においては、音楽家としての基礎能力科目(理論・ソルフェージュ)・高度な演奏能力を養成する実技科目、音楽表現能力を側面から支える音楽文化講座科目、実践的な演奏活動を体験する学外演奏実践科目、音楽療法士養成のための専門科目、デジタル音楽に関する専門科目等、学生の専門能力の向上を目的とした教育課程を体系的に編成し、個々の学生の音楽能力に即したきめ細かな指導を実践すると同時に、音楽基礎科目においては能力複数クラスやアシスタント制を導入し、確実な学習成果の向上・充実に努めている。

(10) オフキャンパス、遠隔教育、通信教育のその他の教育プログラム

該当なし

(11) 公的資金の適正管理の状況

平成19年2月15日文部科学大臣決定の「研究機関における公的研究費の管理・監査ガイドライン」の制定により、不正対策に関する体制整備等の報告様式が改訂され、各研究機関は、自己評価の実施とその結果の報告が求められることとなった。

本学では、これまで不正があった場合の通報関係窓口の設定、不正行為の調査についての規程はあったが、本来の実施基準に沿ったものは整備されていなかった。今回、ガイドラインに示された事項を参考に、本学に即した内容としたうえで、形式的な体制整備ではなく、不正発生のリスク低減に繋がる取り組みとなるよう検討を重ね、平成23年4月1日施行の「仁愛女子短期大学における公的研究費等の不正使用等防止に関する規程」を制定するに至った。

(12) その他

特になし

2. 自己点検・評価報告書の概要

短期大学評価基準の四つの基準の内、今回はⅣを除く、ⅠからⅢについて点検・評価を実施した。概要は以下のとおりである。

【基準Ⅰ】建学の精神と教育の効果

学園創立以来の「仁愛兼済」の語を核とした建学の精神及び本学の教育理念に基づき、各学科等における教育研究目標は学則上に明記されている。

また、具体的な展開としての授業やAHなどの全学的な行事、各学科等における行事も教育計画に従い実施されている。

教育の効果に関しても、成績評価、卒業認定等については厳格に運用されており概ね問題はないと判断される。ただ、学習成果の評価、査定方法については各学科・専攻の特質を踏まえながら引き続き研究をしていく必要がある。

点検評価の手法については、より PDCA サイクルの視覚性を向上させ、また評価根拠等の関連性を明確にする方法に改められるなどのほか、他大学の事例研究など、より良い自己点検評価へ向けた努力がなされている。今後はさらに改善をはかり、課題の洗い出し、学内での共有が促進されるよう努める。

【基準Ⅱ】教育課程と学生支援

A 教育課程

学位授与は、卒業要件として学則に規定され、教養科目10単位以上、専門科目54単位以上、合計64単位以上を修得した者に対し、学位規程に基づき行われている。

個々の科目の成績評価は A,B,C,D,E の5段階評価とし、その評価の方法については『講義概要』にて授業のねらい、授業計画等と共に明示されている。成績評価をもとに、『講義概要』を用いた履修指導と併せ、クラスアドバイザーが学生の学習成果の把握と指導に当たっている。

学習成果の点検については、各学科において会議を定期的に行うとともに、卒業認定会議において、免許資格の取得状況を含め全教員が全学生の成果を点検している。

教育課程編成・実施の方針については、学位の授与方針に基づいて教員の配置等が適切かどうかを、各学科会議、教育課程委員会などで定期的に行っている。

また、入学者受け入れの方針は、建学の精神及び教育理念に基づき、各学科・専攻ごとに、各試験区分の受け入れ方針についても学生募集要項に明示している。

卒業後評価への取り組みとして、就職した事業所（公務員として採用されたものを除く201 事業所）に「卒業生に関するアンケート」調査を行い、結果は就職指導連絡部会において報告し、各学科の学習成果の点検に活用している。

B 学生支援

学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて、教員は講義概要で全ての科目の学習目標を明示し、学習内容・成果を向上させるために、授業に取り組んでいる。

FD 委員会が中心となって全学的に授業評価アンケートを実施し、各教員が結果を分析し授業の改善に利用している。また、各学科では、非常勤講師との懇話会などの開催や専攻会議等で授業内容等を検討し、教員間の意思の疎通、協力体制を密にしている。

また、附属図書館や情報メディア教育支援室は、教員との協力により、利便性を向上させつつ、学習成果の獲得に向けた適切な人員の配置と学内のコンピュータ設備の有効活用等により、学習の支援に努めている。

入学時の学科・専攻別ガイダンスにて、カリキュラムや受講登録などの2か年の学修に関する説明を行い、各学期開始時にもクラスアドバイザーが次学期に向けての全体説明

及び個別の指導等を行っているほか、学生部においても、事務職員が学生の相談に応じ、きめ細かい学習支援体制をとっている。平成 22 年度からは、電子システム『学生カルテ』により情報共有が可能となり、よりきめ細かな学習支援が可能となった。なお、留学生は受入れ制度は設けているが在学学生はいない。

学生の生活支援については、クラスアドバイザー(教員)と学生部職員が密接な連携をとりながら、学生の学習・生活・進路の支援にあたっている。職員は、外部研修会等に参加などにより、学生と関わる上での能力向上のための努力をし、定期的に連絡会をもち情報共有につとめている。

入学者受け入れの方針は、募集要項及び入試ガイド等で明確に示しており、問合せには入試広報室が対応している。入試・広報の方針は学生募集委員会が立案し、入試実施については、入試事務局を編成し、公正かつ正確な入試業務に努めている。なお、入学予定者に対しては、「入学手續のご案内」・「ウォーミングアップ BOOK」・「入学生のみなさんへ」を送付し、入学までの情報提供を行っている。

【基準Ⅲ】 教育資源と財的資源

人的資源については、設置基準、各種養成課程の基準を満たす教員組織が編成されており、必要に応じて補助職員も配置されている。教員の採用・昇格手続きについては、教員選考委員会を経て規程に即して適正に行われている。教育研究活動についても研究室や研修時間の確保のほか、共同研究費などの教員への支援策も準備されている。教育研究支援のための事務組織は、事務局、学生部を中心として連携して取り組まれている。

物的資源についても、校地・校舎等の施設基準を十分に満たしているほか、ICT 利用の教育資源も整備されている。その維持管理についても適切に行われているが、定員規模の減少や施設の老朽化への対処について、今後の計画が必要となっている。

財的資源についても、大学の学部増と音楽学科の定員未充足により帰属収入は減少しているが、理事会で決定される事業計画と予算に基づき適切に執行され、客観的な財務状況の把握にも努めている。

3. 自己点検・評価の組織と活動

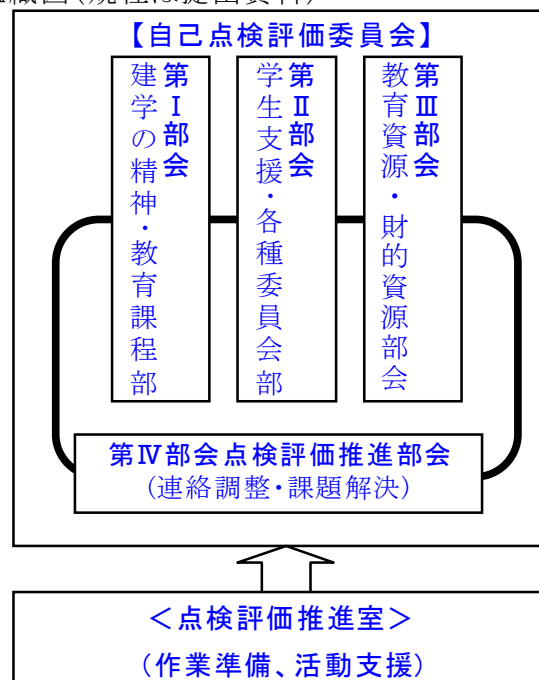
■ 自己点検・評価委員会(担当者、構成員) 平成22年度

No.	役職	氏名	所属	備考
1	委員長	禿 正宣	学長	
2	委員	禿 了滉	学園長	
3	〃	齋藤 慶四郎	副学長	
4	〃	水岸 誠	副学長	
5	〃	三谷 勝己	生活科学学科長	
6	〃	平岡 芳美	幼児教育学科長	
7	〃	大久保 功治	音楽学科長	
8	〃	島田 貢明	学生部長	
9	〃	三和 優	図書館長	
10	〃	内藤 徹	FD委員長	
11	〃	岸松 静代	研究活動委員長	
12	〃	水岸 誠 (西尾 章)	地域活動実践センター長	2011/1 着任 ()内は前任
13	〃	吉川 敏通	事務長	
14	〃	内山 秀樹	点検評価推進室長	

■ 点検評価推進室

No.	役職	氏名	所属	備考
1	室長(ALO)	内山秀樹	生活科学学科生活環境専攻	
2	副室長	中野研也	音楽学科	
3	委員	田中洋一	生活科学学科生活情報専攻	
4	〃	前田敬子	幼児教育学科	
5	〃	熊木雅代	総務課長	

■ 自己点検・評価の組織図(規程は提出資料)



〔自己点検評価組織図〕

■ 組織が機能していることの記述(根拠を基に)

自己点検活動の準備、支援をする組織として、ALO を室長とし、各学科から選出されたスタッフ4名で構成する「自己点検評価推進室」を設け、その上に自己点検評価活動方針の検討、自己点検評価 PDCA シート、自己点検評価活動方針に対する了承、報告書内容についての了承を行う組織として、各学科長、主要な部署の責任者で構成する「自己点検評価委員会」を設けている。

さらに、活動に実効性を持たせるために、自己点検評価委員会に第Ⅰ部会～第Ⅳ部会を設け、自己点検評価結果や報告書内容についての具体的な検討を行っている。

本年度の各組織の活動状況は表の通りである。

■ 自己点検・評価報告書完成までの活動記録

年月日	活動項目	概要	備考
2010/9/8	平成 22 年度 第 1 回自己点検 評価委員会	・中間点検評価の結果報告と点検評価シ ステムの問題・課題について ・新基準について	
2010/12/8	第 2 回自己点検 評価委員会	・短期大学評価の新基準の内容について ・相互評価実施方針等について ・H22 年度自己点検評価報告書作成につ いて	
2011/2/15	第 1 回第Ⅲ部会	・自己点検・評価作業状況報告 ・自己点検・評価作業(PDCA シート)の課題の 整理	基準 Ⅲ、Ⅳ
2011/2/16	第 1 回第Ⅰ部会	・自己点検・評価作業状況報告 ・自己点検・評価作業(PDCA シート)課題整理 ・報告書執筆について ・今後のスケジュール	基準 Ⅰ、Ⅱ -A
2011/2/17	第 1 回第Ⅱ部会	同上	基準Ⅱ -B
2011/2/18	第 1 回第Ⅳ部会	同上	調整・課題 解決
2011/3/14	第 2 回第Ⅲ部会	・自己点検・評価作業状況の確認 ・自己点検・評価報告書執筆進捗状況確認 ・今後のスケジュール	
2011/3/16	第 2 回第Ⅰ部会	同上	
2011/3/17	第 2 回第Ⅱ部会	同上	
2011/3/17	第 2 回第Ⅳ部会	・飯田女子短大との事前打合せについて	
2011/3/30	第 3 回自己点検 評価委員会	・H22 年度自己点検評価報告書について ・平成 23 年度教育計画の報告会について ・今後のスケジュール	
2011/4/21	第 3 回第Ⅰ部会 ～第Ⅳ部会	・H22 年度自己点検評価報告書内容確認 ・今後のスケジュール	
2011/5/10	第 4 回第Ⅳ部会	・H22 年度自己点検評価報告書内容確認	
2011/6/7	第 5 回第Ⅳ部会	同上	
2011/6/8	平成 23 年度第 1 回自己点検評価 委員会	・H22 年度自己点検評価報告書最終確認 ・今後のスケジュール	

4. 提出資料・備付資料一覧

記述の根拠となる資料等	提出資料	備付資料
基準Ⅰ：建学の精神と教育の効果		
A 建学の精神		
建学の精神・教育理念についての印刷物	◎	
創立記念、周年誌等		○
B 教育の効果		
教育目的・目標についての印刷物	◎	
学生が獲得すべき学習成果についての印刷物	◎	
C 自己点検・評価		
自己点検・評価を実施するための規程	◎	
過去3年の間にまとめた自己点検・評価報告書		○
第三者評価以外の外部評価についての印刷物		○
基準Ⅱ：教育課程と学生支援		
A 教育課程		
学位授与の方針に関する印刷物	◎	
教育課程編成・実施の方針に関する印刷物	◎	
入学者受け入れ方針に関する印刷物	◎	
カリキュラムに対応した授業科目担当者一覧(教員名、担当授業科目、専門研究分野)	◎	
シラバス	◎	
単位認定の状況表(評価実施年度の前年度に卒業した学生が入学時から卒業までに履修した科目について)		○
学習成果を表す量的・質的データに関する印刷物		○
B 学習支援		
学生便覧等(学則を含む)、学習支援のために配付している印刷物	◎	
学生支援の満足度についての調査結果		○
就職先からの卒業生に対する評価結果		○
卒業生アンケートの調査結果		○
短期大学案内・募集要項・入学願書	◎	
入学志願者に対する入学までの情報提供のための印刷物等		○
入学手続者に対する入学までの学習支援のための印刷物等		○
学生の履修指導(ガイダンス、オリエンテーション)等に関する資料		○
学生支援のための学生の個人情報記録する様式		○
進路一覧表等の実績(過去3年)についての印刷物		○
GPA等成績分布		○
学生による授業評価票及びその評価結果		○

記述の根拠となる資料等	提出資料	備付資料
社会人受け入れについての印刷物等		○
海外留学希望者に向けた印刷物等		○
FD 活動の記録		○
SD 活動の記録		○
基準Ⅲ：教育資源と財的資源		
A 人的資源		
教員の個人調書(専任教員については教員履歴書、過去 5 年間の業績調書。非常勤教員については過去 5 年間の業績調書) [大学の設置等に係る提出書類内の様式を準用する(「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引き」を参照)]		○
教員の研究活動について公開している印刷物等(過去 3 年)		○
専任教員等の年齢構成表		○
科学研究費補助金等、外部研究資金の獲得状況一覧表		○
研究紀要・論文集(過去 3 年)		○
事務職員の一覧表(氏名、最終学歴)		○
B 物的資源		
校地、校舎に関する図面(全体図、校舎等の位置を示す配置図、用途(室名)を示した各階の図面、校地間の距離、校地間の交通手段等)		○
図書館、学習資源センターの概要(平面図、蔵書数、学術雑誌数、AV 資料数、座席数等)		○
C 技術的資源		
学内 LAN の敷設状況		○
マルチメディア教室、コンピュータ教室等の配置図		○
D 財的資源		
資金収支計算書・消費収支計算書・貸借対照表の概要(過去 3 年)	◎	
資金収支計算書・消費収支計算書(過去 3 年)	◎	
貸借対照表(過去 3 年)	◎	
中・長期の財務計画	◎	
事業報告書(過去 1 年)	◎	
事業計画書／予算書(評価実施年度)	◎	
寄附金・学校債の募集についての印刷物等		○
財産目録及び計算書類(過去 3 年)		○
教育研究経費(過去 3 年)の表		○

基準Ⅳ：リーダーシップとガバナンス		
A 理事長のリーダーシップ		
理事長の履歴書		
記述の根拠となる資料等	提出資料	備付資料
現在の理事・監事・評議員名簿（外部役員の場合は職業・役職等を記載）		
理事会議事録（過去３年）		
寄附行為		
諸規程集 組織・総務関係 組織規程、事務分掌規程、稟議規程、文書取扱い（授受、保管）規程、公印取扱規程、個人情報保護に関する規程、情報公開に関する規程、公益通報に関する規程、情報セキュリティポリシー、防災管理規程、自己点検・評価に関する規程、SDに関する規程、図書館規程、各種委員会規程 人事・給与関係 就業規則、教職員任免規程、定年規程、役員報酬規程、教職員給与規程、役員退職金支給規程、教職員退職金支給規程、旅費規程、育児・介護休職規程、懲罰規程、教員選考基準 財務関係 会計・経理規程、固定資産管理規程、物品管理規程、資産運用に関する規程、監査基準、研究費（研究旅費を含む）等の支給規程、消耗品及び貯蔵品管理に関する規程 教学関係 学則、学長候補者選考規程、学部（学科）長候補者選考規程、教員選考規程、教授会規程、入学者選抜規程、奨学金給付・貸与規程、研究倫理規程、ハラスメント防止規程、紀要投稿規程、学位規程、研究活動不正行為の取り扱い規程、公的研究費補助金取り扱いに関する規程、公的研究費補助金の不正取り扱い防止規程、教員の研究活動に関する規程、FDに関する規程		
B 学長のリーダーシップ		
学長の履歴書・業績調書		
教授会議事録（過去３年）		
委員会等の議事録（過去３年）		
C ガバナンス		
監事の監査状況（過去３年）		
評議員会議事録（過去３年）		
選択的評価基準 3. 地域貢献の取り組みについて		
地域活動に関する記録・印刷物		○

※ 今回の飯田女子短期大学との相互評価においては、基準Ⅳは評価の対象外としているため、提出資料・備付資料ともに準備しない

自己点検評価報告書

基準 I 建学の精神と教育の効果

(a)要約

学園創立以来の「仁愛兼済」の語を核とした建学の精神及び本学の教育理念は、引き続き堅持されており、これに基づいた各学科等における教育研究目標も学則上に明記されているほか、各種の媒体と通して学内外に表明し、また共有のための努力が行われている。

また、具体的な展開としての授業やAHなどの全学的な行事、各学科等における行事も教育計画に従い実施されている。

教育の効果に関しても、成績評価、卒業認定等については厳格に運用されており概ね問題はないと判断される。ただ、学習成果の評価、査定方法については各学科・専攻の特質を踏まえながら引き続き研究をしていく必要がある。

点検評価の手法については、より PDCA サイクルの視覚性を向上させ、また評価根拠等の関連性を明確にする方法に改められるなどのほか、他大学の事例研究など、より良い自己点検評価へ向けた努力がなされている。

(b)行動計画

- ・建学の精神の理解、周知等に関しては、従来の取組を引き続き継続していく。
- ・学習成果の評価及び査定のあり方については、各学科の教育研究目的を踏まえつつ、さらに検討を行っていく。
- ・自己点検・評価については、今年度導入された、PDCA サイクルを明確に意識した手法をさらに改善をはかり、課題の洗い出し、学内での共有が促進されるよう努める。

基準 I-A 建学の精神

(a)要約

「仁愛兼済」という語に代表される建学の精神は確立されており、これをもとに本学の目的及び各学科・専攻の教育研究目的に展開されて、学則等に明示されている。建学の精神の周知を図るために、学生、教職員に対して「学生のしおり」などの出版物にその背景を含めて解説しているほか、外部に対しても、「キャンパス・ガイド」などの印刷物、公式ホームページにおいて周知されている。学内には、建学の精神を表現した石碑やモニュメントを設置し視覚的にも恒常的に触れるようにしているほか、毎朝一時間目に「朝の礼拝」の時間を設置し、讃仏歌とともに、建学の精神に基づく行動規範ともいえる「今日一日の慎み」を唱和するなど、仏教的精神に基づく教育環境が維持されている。

さらに、教育課程としても、その理解をすすめるため、教養科目の必修科目として、講義科目「人間と仏教Ⅰ」及び演習科目「人間と仏教Ⅱ」とをおき、「人間と仏教Ⅱ」においては、アッセンブリ・アワー(AH)を主として仏教行事を含む講演会や、各学科企画のほか、学期ごとの学生生活の各自の目標設定・点検評価を指導している。また、AHの企画運営についてはCI委員会が組織されており、これにクラス・アドバイザーなど教員も参加、協力して実施され、全学的な建学の精神の理解を促進する機会となっており共有が図られている。

(b)改善計画

- ・建学の精神の理解、周知等に関しては、従来の取組を引き続き継続していく。

基準 I -A-1 建学の精神が確立している

(a)現状

福井仁愛学園は、創立者が2年間の欧米視察の結論として得た、宗教的情操の深さと女子の教養の高さが日本の将来を左右するという信念と、特に女子教育がきわめて軽視されていた当時の状況の憂いから、女子教育機関として1898(明治31)年に発足したものである。その基盤には、聖徳太子の四箇院事業、中でも教育事業としての敬田院の精神を体する教育機関の実現という願いが込められている。

学園名の「仁愛」は、仏説無量寿経の経文中の「仁愛兼済」から採られたものであり、仁(つながり合い、支え合う人間関係)と愛(人間のみならずすべてのいのちの連携)の自覚と、兼済(その自覚に基づく济い合いの実践の展開)という精神を表現したものである。

この精神のもと、本学園の設置する各学校においても「仁愛」を学校名に冠し、

すべてのいのちの尊厳と連帯に目覚め、美しい世をひらく灯となる人材

仁愛(自覚)

兼済(実践)

の育成をめざしている。

本短期大学は、1965(昭和40)年、この建学の精神をベースとした教養と、实际的な専門能力を有して社会の発展に貢献する女性の育成を目的とした、地域に立脚する高等教育機関として開設されたものである。「仁愛兼済」の建学の精神に基づき、「仁愛」については「四つのつながり—四恩」の自覚に力点を置き、「兼済」としては修六和敬・常行法施・志勇精進・心不退弱・為世灯明の経文に基づく、「三つの実践—和敬・精進・反省」を掲げて、美しい世をひらく使命感と実践力を身につけた人材を養成することを本学の教育理念としている。

本学の建学の精神の周知については、学内においては、以下の方法により行われている。

- ・冊子、印刷物による周知及び解説(「学生のしおり」、「規程集(職員のしおり)」など)
- ・副読本教材「和」の配布
- ・教養科目における教育課程の設定(「人間と仏教Ⅰ」、「人間と仏教Ⅱ」)
- ・卒業式等、公式行事における仏式儀式の導入
- ・石碑ほか、モニュメントなどを配置した学内の環境設定、など

また、学外に対しては

- ・紹介パンフレットにおける建学の精神に関する記事
- ・公式ホームページ(短期大学及び学園)での解説

また、これらの周知に加えて、その精神、理念の共有を図るために、

- ・建学の精神を解説した内容を含む「学生のしおり」「職員のしおり」を全員に配布している。
- ・学生については、必修科目である「人間と仏教Ⅰ」における学園長講義、「人間と仏教Ⅱ」に含まれる各種の集会(教員も参加)を実施している。
- ・事務職員についても、SD 研修会に理事長、学園長の建学の精神の確認に関する講話を通して確認する機会としている。さらに、毎年度、短期大学全体としての事業計画とともに、各組織を挙げて「教育計画」を立案する中で、建学の精神を確認し、点検するとともに、それを基本とした具体的な教育活動を計画している。

(b)課題

建学の精神に関わる科目(人間と仏教Ⅱ)の評価方法の改善が必要である。

<基礎資料>1. (1) ■学校法人及び短期大学の沿革

表 I -A-1 平成22年度 AH 一覧

実施日	対 象	内 容
4 月 21 日	1回生	降誕会:学園長講話及び「讃仏歌を歌おう」(講師:仁愛大学 坪田信子教授)
4 月 28 日	2回生	降誕会:学園長講話及び講演「日々の努力が自分をつくる」 (講師:仁愛女子短期大学同窓会会長 渡邊友子氏)
5 月 12 日	全学	開学記念「地域ボランティア」
7 月 14 日	学科毎	建学の精神に関する学科企画 I
10 月 13 日	学科毎	建学の精神に関する学科企画 II
11 月 17 日	2回生	成道会:学園長講話及びマナー講座「言葉は心のコミュニケー ション」(講師:栗田隆司氏)
12 月 1 日	1回生	成道会:学長講話及び学生意見発表
12 月 15 日	2回生	讃仰会・追弔会:学園長講演
1 月 12 日	1回生	讃仰会・追弔会:学園長講話及び講演「薬物乱用防止教室・ 薬物の怖さを知ろう」(講師 梅田文人氏)

※1 AH

アッセンブリ・アワーと呼んでいる、学生が一同に会する時間のことである。「人間と仏教Ⅱ」の授業として実施され、仏教行事を中心として CI 委員会によって年間計画がたてられている。

※2 MH

ミーティング・アワーと呼んでおり、毎月一回、学科・専攻またはクラスごとに催され、クラスアドバイザーからの連絡、学習の確認、意見交換などが行われる。

※3 「人間と仏教Ⅰ・Ⅱ」

本学の建学の精神及びその背景となる仏教に関する知識を深めるために設定されている教養科目で、いずれも必修科目である。「人間と仏教Ⅰ」は半期の講義科目、「人間と仏教Ⅱ」は2カ年の在学期間を通して計画される演習科目となっている。

<提出資料>「学生便覧」「講義概要」

<備付資料>「職員のしおり」

基準 I-B 教育の効果

(a)現状

各学科・専攻の教育目的・目標は、建学の精神を踏まえて定められ、学則上にも明記されている。またこれを実現していく上にベースとなる建学の精神に関する教育指導も教育課程としての設定をはじめ、AH、MH などの諸活動を通して理解を深める活動が行われており、その上で各学科専攻の教育目的に沿った教育課程の編成ほか、指導上の取り組みが行われている。

学習成果に関しては、主として資格・免許を基本とした目標設定がされ、またその評価についても学科等で点検されている。しかし、資格・免許課程とそうでない課程との差もあり、その「学習成果」の解釈等、並びに学内外への表明を含め今後さらに研究が必要。

また、教育の質保証に関しては、設置基準や資格養成基準への適合などについては適切に行われている。査定のありかたについても、学習成果の定め方と関連して、そのあり方について今後の研究が必要。

(b)改善計画

学習成果の設定ならびに測定、査定する仕組みの研究及びその公表のあり方について研究しその整備を図る。

<提出資料>「学則」「講義概要」

基準 I-B-1 教育目的・目標が確立している

(a)現状

本学の目的は、学則第1条で、「本学は、教育基本法並びに学校教育法に基づき、建学の精神に則り、深く専門の学芸を教授研究し、徳性の涵養に努め、教養豊かにして、社会の発展に貢献する健全有為な女性を育成することを目的とする」と明記されている。同、第3条では、各学科及び専攻課程の目的が以下のように挙げられている。

生活科学学科は、「生活に関する科学的理解を基礎とし、各専攻課程分野における専門的知識と技術の教授研究を通して、心豊かで有能な人材を育成する。」としている。幼児教育学科は、「幼児の理解及びその指導に関する専門的知識と技能の教授を通して、心豊かで有能な人材を育成する。」としている。音楽学科は、「幅広い音楽的素養を基礎とし、高度の演奏表現技法及び音楽の応用的能力の教授研究を通して、音楽文化を担う心豊かで有能な人材を育成する。」としている。また、卒業要件として、教養科目 10 単位以上、専門科目 54 単位以上、合計 64 単位以上を修得することが学則に明記されている。

生活科学学科は 3 専攻があり、生活環境専攻では色彩検定、福祉住環境コーディネーター、リビングスタイリスト、ファッションビジネス能力検定、ファッション販売能力検定などの資格が取得できるように、生活情報専攻では情報処理士、ビジネス実務士、ITパスポート、日商PC検定、日商簿記などの資格が取得できるように、また食物栄養専攻では栄養士免許、フードスペシャリスト資格が取得できるように教育目標が確立している。この内容は学生のしおり、募集要項、ホームページなどで示し、年 2 回の学科会議や自己点検・評価委員会などでPDCAシートをもとに検討している。

幼児教育学科では幼稚園教諭二種免許状を取得する者は、教育職員免許法等により 31 単位以上、保育士資格を取得する者は、児童福祉法施行規則により、60 単位以上修得しなければならない。さらに、レクリエーション・インストラクター資格の取得は、日本レクリエーション協会の規定に従い 6 単位以上、幼稚園・保育園のためのリトミック 2 級指導資格は、リトミック研究センターの規定によりその単位を修得する。目的・目標は、学生のしおり、

募集要項、短大のホームページ等で表明し、学生には、1, 2年次のオリエンテーション、ミーティングアワー(MH)などに、更に説明している。また、年2回学科会議等・自己点検委員会等で自己点検シートをもとに検討している。

音楽学科は、全日本音楽療法士養成協議会の定めるところに従い、所定の単位 41 単位を修得すれば音楽療法士(2 種)称号取得を、また、所定の単位71単位を修得すれば音楽療法士(1種)称号取得をすることができる。音楽専攻科に於いては、修了要件の専門科目46単位以上を修得し、独立行政法人「大学評価・学位授与機構」の定める所定の単位を修得し、学位審査に合格すれば、「芸術学」の学位を取得できる。学科・専攻課程の教育目的・目標については、学生のしおり、ホームページ等で表明すると同時に、年間学内外で行う多くの演奏活動(定期演奏会・サマーコンサート・分野別コンサート・地自治体コンサート・施設ボランティア演奏会)等において、その都度、社会に明示している。また教育目的・目標に関して、毎月の学科会議で検討すると同時に、自己点検委員会においても検討している。

(b)課題

生活科学学科では、上記の内容を実施するにあたりそのレベルアップができるよう努力しているが、結果に結びついていない。教員の意識統一と実施の一貫性について話し合う必要がある。

幼児教育学科では、全員の学生が幼稚園教諭二種免許、保育士資格の両方の免許を取得できるように必要な科目の単位取得の支援をしているが、数名の学生が成績不良で取得できない。全員の取得、更に質の高い保育者養成が課題である。

音楽学科では、学科募集停止による学生数の減少が現実問題としてある。それぞれの行事について、学科会議などで議論を行い、学生の学習意欲が低下しないような演奏会の形態などを、創意、工夫を行っていく必要がある。

基準 I -B-2 学習成果を定めている

(a)現状

全学科共通して、「仁愛兼済」の理念に基づき、教養科目として、「人間と仏教Ⅰ」「人間と仏教Ⅱ」を必修科目として全員修得する。また、朝の礼拝、「人間と仏教Ⅱ」の一部としてのアッセンブリアワー(AH)、ミーティングアワー(MH)などを設けている。MHでは、『充実した学生生活を送るために』で、学生が自己目標の設定と自己評価を半期ごとに行い、学習成果を自己査定するシステムを導入している。また、シラバス、学生募集要項、短大のホームページ等において学習成果を明確に示している。授業内容、取組みなど学習成果は成績評価として示している。

生活科学学科では、各専攻で学んだ専門知識、それを裏付ける免許・資格の取得および卒業研究、卒業制作展等の2年間に習得した問題解決能力、情報活用能力等の総合的な力を以て学習成果としている。

幼児教育学科では、「仁愛兼済」の精神の基、人間性豊かな保育者養成を目指している。保育士資格・幼稚園教諭免許・レクリエーションインストラクター資格・リトミック資格取得者数を量的に表し、就職率、就職先などと合わせて検討し、毎年学科会議等で検討している。また、10月には、地域社会の子どもと触れ合う「じんあいこどものくに」、学期末には、福井新聞社「風の森」で、「幼児教育学外発表会」を企画・開催し、学生の企画力、コミュニケーション能力、表現力を高めている。卒業研究発表会も学内で年2回(中間・完成)実施し、学習の成果を学内外に表明し、学科会議、就職委員会、教育課程委員会などで検討している。

音楽学科では、音楽学科専門科目において「音楽社会活動実践(必須科目)」「学外演奏Ⅰ(必須科目)・Ⅱ」「学外演奏実践Ⅰ(必須科目)・Ⅱ」を設け、学外での音楽活動を

授業科目として位置づけ、建学の精神の実践を目指している。授業内容に関しては、シラバス及び音楽学科レッスン・ノートにおいて学生に提示している。

学習成果に関しては、各種音楽コンクールの入賞者、財団法人音楽文化創造主催「音楽検定」の合格者、全国音楽療法士養成協議会「音楽療法士(2種)の称号」取得者、大学評価・学位授与機構における「学位」取得者などの人数により把握することが可能で、その結果については学科会議、専攻別会議などで検討し、次年度の目標につなげている。また、個々の授業形態に合わせた演奏会・発表会を学内外において開催し、学習成果を広く地域社会に表明しており、ホームページ等においても学科の活動として明示している。

(b)課題

生活科学学科では、設定した学習成果の達成率の低下傾向がみられ、この傾向をとめていかにして就職率アップにつなげていくかが課題である。

幼児教育学科では、保育士資格、幼稚園教諭免許の取得者 100%を目指しているが、近年若干低下傾向にある。また、キャリア教育の一つとして、「レクリエーション・インストラクター資格」「幼稚園・保育園のためのリミック2級指導資格」の取得を奨めているが、「レクリエーション・インストラクター」の取得希望者が減少傾向にある。このため、理論と実践を密接に関連させ、学生の学ぶ意欲とコミュニケーション能力を育て、保育実践能力及び表現力をより高めていくことが課題である。

音楽学科では、学科募集停止による学生数の減少が現実問題としてあるが、学生の学習意欲が低下しないような指導に鋭意努力し、コンクール、学位取得等の学習成果を充分に挙げ、演奏会などの行事においては教員相互の、創意、工夫をもって対応する。

<備付資料>「充実した学生生活を送るために」

基準 I-B-3 教育の質を保証している

(a)現状

本学においては学校教育法、短期大学設置基準、教育職員免許法、児童福祉法施行規則、栄養士法施行規則、全国音楽療法養成協議会規定等の関係法規に従い、毎年、カリキュラム内容や教員組織等について確認・検討を行い法令順守に努めている。年度末には各学科・専攻で取得可能な免許、資格の取得者の割合を調査し、次年度に向けた課題等を検討する学科会議を開催し、全教職員が問題意識を持ちながら、教育の質の向上・充実のための努力を行っている。また、全学的な取り組みとして、自己点検評価システムの中で教育の質保証のための取り組みを行っている。

特に、幼児教育学科では、幼稚園教諭免許は、教育職員免許法に従い、保育士資格は、児童福祉法施行規則に従い、科目、内容、教員等を毎年法令順守に努め、チェックしている。保育士資格は平成23年度入学生より、保育士養成課程の科目改正に合わせて、大幅な新カリキュラムを検討した。教養科目8単位以上を、本学では15単位開設する。必修科目は告示では51単位となっているが、本学では54単位を開設する。基礎技能の4単位を7単位とし、実践力の向上につなげるよう科目を多く開設する。選択必修科目は告示では9単位以上の選択で、開設単位数は19単位以上となっているが、本学では25単位開設し、学生ができるだけ多岐にわたる科目を選択できるようにした。また、専門性の実践力を高めるために、「選択履修プログラム」(音楽表現、造形表現、身体表現、言語表現の4プログラム)を導入することにした。

(b)課題

生活科学学科では、今日の生活科学(衣食住)に対する意識の多様化に伴う社会の

変化に応じていく必要がある。そのため、社会の要求に応えられる教育の質の保証に努める。

幼児教育学科では、平成23年度の厚労省・保育士養成の科目改正に合わせて、保育実践能力を重視した「新カリキュラム」「選択履修プログラム」の効果的な実施が課題となる。

音楽学科では、大学評価・学位授与機構における「学位」の取得、全国音楽療法士養成協議会「音楽療法士(2種)の称号」の取得、各種音楽コンクールの入賞などに向けた有効な指導を次年度も継続する。

基準 I-C 自己点検・評価

(a)現状

自己点検・評価の実施体制については、規程上及び実施組織の編成についても整備されている。実施に当たっては「自己点検評価実施要綱」を定め、これにより全教職員が活動に取り組む体制が整えられている。さらに、中間時期での点検・評価を導入し、前期末時点での点検結果を後期の活動に生かせるシステムに改めた。

また、現状から改善計画に至る PDCA サイクルの一覧性を高める仕組みを導入したことにより、成果を活用しやすく、教職員がさまざまな課題を容易に共有できることとなった。

(b)改善計画

新たに導入したシステムであることから、その手法についてさらに共通理解を深めて、点検・評価活動の標準化に努める。

前年度の点検・評価結果をタイムリーに公開できるよう努める。

基準 I-C-1 自己点検・評価活動等の実施体制が確立し、向上・充実に向けて努力している

(a)現状

「仁愛女子短期大学自己点検・評価に関する規程(平成4年7月6日制定)」において自己点検・評価に関する基本的事項を「仁愛女子短期大学自己点検評価実施要綱」で実施体制など具体的な実施に関する事項を整備している。平成22年度の自己点検・評価を実施するために、年度当初に実施体制を確立した。要項では全ての教職員はいずれかの部会に属しており、所属部署での自己点検・評価作業を経て、2～3回の部会と2回の自己点検評価委員会を経て自己点検・評価報告書を作成している。

自己点検・評価報告書等の公表に関しては、平成16、17年の公表以来なされていなかったが、平成21年度自己点検評価報告書より公表することとした。

日常的に自己点検・評価を行うために平成22年度より「自己点検・評価システム」を運用している。「自己点検・評価(PDCA)シート」をもとに日常的な自己点検を行い、前期終了時の中間時点で部署ごとに中間評価を行い、後期の工夫改善に取り組みに生かすこととしている。また、自己点検評価システムでは、当該年度の課題が次年度の課題や改善計画として計上されるようなPDCAサイクルシステムを確立している。

外部講師、内部講師による研修会を各々最低年1回開催し、教職員の自己点検評価に対する意識高揚に努めている。平成22年度は私学大学改革のパイオニアである金沢工業大学副学長を招き、対象とした教職員はほぼ全員の参加があった。これをふまえ、本学が学ぶべき点を各部署にリストアップすることを求めた。

自己点検・評価(PDCA)シート(Ver.1)※セル内改行:Alt+Enter

※C:評価の目安 5:150%～、4:110%以上、3:90～110%、2:～90%、1:実施せず、効果なし

基準:Ⅱ 教育課程と学生支援	テーマ:Ⅱ-A教育課程	区分:Ⅱ-A-1学位授与の方針を明確に示しているか?		部署:生活科学学科長	No.
(a)現状 観点に対する取り組みの現状を客観的に (年度末)	P:(b)課題・改善計画 問題・課題、目標などを具体的に (前年度末)	D:実施内容・結果 結果、成果を定性的、定量的に (8、2月)	C:評価 ※5段階 (8、2月)	A:工夫・改善 評価2以下の項目について記述 (8、2月)	根拠データ 資料 (逐次)
(1)学科・専攻課程の学位授与の方針は、それぞれの学習成果に対応しているか? ①学科・専攻課程の学位授与の方針は、卒業の要件、成績評価の基準、資格取得の要件を明確に示しているか? 以下、状況、取り組みを具体的に記述・・・ (2)学科・専攻課程の学位授与の方針を学則に規定しているか? 以下、状況、取り組みを具体的に記述・・・ (3)学科・専攻課程の学位授与の方針を学内外に表明しているか? 以下、状況、取り組みを具体的に記述・・・ (4)学科・専攻課程の学位授与の方針は、社会的(国際的)に通用性があるか? 以下、状況、取り組みを具体的に記述・・・ (5)学科・専攻課程の学位授与の方針を定期的に点検しているか? 以下、状況、取り組みを具体的に記述・・・	以下課題・改善計画を記述・・・ Step2: (b)課題・改善計画を記述 次年度の P:課題・改善計画	以下、Pの結果を記述・・・ D 実施内容・結果(8,2月) 定性的、定量的資料で客観的に記述	C 1 ↓ 5 五段階評価	以下、Dに対する工夫、改善を記述・・・ A 工夫改善(8,2月) 次年度のPに移行	Q,Vシートの対象資料No.表No.など 参照データの所在

次年度はシートをコピーしてAをPに移行

図 I-C-1 自己点検・評価(PDCAシート)

(b)課題

研修会等を通じて、日常的な取り組み成果のストックや点検評価の重要性に対する認識をより一層高めるとともに、自己点検評価システムについての理解と認識を一層高め、それぞれの部署のバイブルとなるよう内容を充実する必要がある。

自己点検評価報告書については、完成後速やかに公表する。

中間点検評価は全部署で実施しているが、その結果を次の改善に確実につなげるよう促す。

<基礎資料>P.18 3.自己点検・評価の組織と活動

<提出資料>「仁愛女子短期大学自己点検・評価に関する規程」

「平成22年度仁愛女子短期大学自己点検・評価実施要領」

<備付資料>「自己点検・評価報告書(平成19、20、21年度)」

「平成12年度相互評価報告書」

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

(a) 要約

A 教育課程

学位授与の方針は、学則で規定し学生のしおりに明記されている。卒業要件として教養科目10単位以上、専門科目54単位以上、合計64単位以上の修得を要することとなっている。成績評価はA,B,C,D,Eの5段階評価である。この内容は入学時よりMHなどを通して学生に説明している。各学期末のMHの時間では、クラスアドバイザーから成績評価及び単位取得状況を学生に通知し、各自の学習成果の把握をさせている。各学科においては、学習成果に沿った就職ができていて、特に取得資格を活かした就職が本学の特徴となっている。学習成果の点検については、各学科において会議を定期的に行うとともに、卒業認定会議において、免許・資格の取得状況を含め全教員が全学生の学習成果を点検している。

教育課程の編成及び実施の方針については、学位の授与方針に基づいて教員の配置等が適切であるかどうかを、各学科会議、教育課程委員会などで定期的に点検している。点検の内容は、(1)各学科の教育課程において講義、演習、実験、実習をわかりやすく体系的に学べるよう編成しているかどうか、(2)シラバスには授業のねらい、授業計画、評価方法、教材、参考図書が明示されているかどうかである。なお、音楽学科では、特に実技科目において、個々の学生の到達度目標(グレード)を設け、学生が得べき学習成果を具体的、且つ明確に示している。

入学者受け入れの方針としては、各学科における受け入れ方針に加えて各試験区分の受け入れ方針についても学生募集要項に明示している。音楽学科については平成23年度の学生募集を停止したので、この記述は行わない。

各学科の教育課程における学習成果の査定(アセスメント)は、免許・資格の取得者数として数値化して実施している。取得率は2年間でいずれも高率であり、学習成果の達成が一定期間で可能であることを示している。また就職率も高く社会的にも認められている。

学生の卒業後の評価への取り組みとしては、卒業学生が就職した事業所(公務員として採用されたものを除く201事業所)にアンケートを依頼している。得られた結果は、就職指導連絡部会に報告し、全教職員が結果を情報共有するとともに各学科の点検に活用している。

B 学生支援

学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて、教員は講義概要で全ての科目の学習目標を明示し、学習内容・成果を向上させるために、授業に取り組んでいる。FD委員会が中心となって全学的に授業評価アンケートを実施し、各教員が結果を分析し授業の改善に利用している。また、各学科では、非常勤講師との懇話会などの開催や専攻会議等で授業内容等を検討し、教員間の意思の疎通、協力体制を密にしている。

SDに関しては事務長が中心となり事務職員の業務能力を高めるための研修会や情報共有のための連絡会を定期的に行っている。

附属図書館は教員の協力を得ながら学生の学習支援と利便性を向上するために様々な努力をしている。情報メディア教育支援室は、各学科の学習成果の獲得に向けて人員の配置と学内のコンピュータ設備の有効活用により学生の支援に努めている。

学科・専攻の学習成果の獲得に向けた学習支援については、入学時に学科全体のガイダンス・専攻別ガイダンスで各種印刷物を配布して、カリキュラムや受講登録などの学生生活全般に関する詳細な説明を行う。また、各学期開始時にはクラスアドバイザーが次学期に向けての全体説明及び個別の指導等を行っている。加えて、学生部窓口においても、担当職員が常時学生の相談に応じ、きめ細かい学習支援体制をとっている。基礎学力不

足の学生に対しては各教員が担当科目ごとに個別に指導している。平成 22 年度からは、電子システム『学生カルテ』により情報共有が可能となり、きめ細かな学習支援が可能となった。なお、留学生は受入れ制度は設けているが在學生はいない。

学生の生活支援については、クラスアドバイザー制度があり、学生の学習・生活・進路の支援にあたっている。また、学生生活課の職員は学生会・課外活動への指導助言、学内環境の整備、学校指定マンション及び各種奨学金の受付等、学生生活のアンケート調査等を行い支援環境の充実に努めている。学生の健康管理は、保健室・学生相談室を設置し、研修会の開催や非常勤カウンセラーとの連携による学生支援を行っている。社会人入学生に対しては、授業料等の減免措置があるが、長期履修生の受け入れ体制はない。障がい者の受け入れについては、必要に応じて支援する体制を整えている。

学生への就職支援については、就職指導課が中心となり各種資格講座・インターンシップの実施に加え、面談による「個別対応」の徹底を行っており、特に今年度は面接対策講座、専門スタッフ 1 名の増員及び「就活ハンドブック A5 版」の制作などで支援を強化した。本学卒業生の評価については、就職先企業へのアンケートを実施し全学的に情報共有と結果の検討を行っている。

入学者受け入れの方針については、募集要項及び入試ガイド等で受験生に対して明確に示している。受験の問い合わせには、入試広報室が窓口となって対応しており、全学的な組織として学生募集委員会を設置し、入試事務については、入試事務局を組織し公正かつ正確な入試業務の実施に努めている。入学手続者への情報提供としては、「入学手続のご案内」・「ウォーミングアップ BOOK」・「入学生のみなさんへ」を送付し、入学式後に学科別ガイダンス及び新入生オリエンテーションを行い詳細に説明している。

(b)改善計画

A 教育課程

学位授与の方針については、生活科学学科では、就職指導課と連携を深め、就職が困難な時代におけるキャリア支援教育のさらなる充実が必要である。幼児教育学科では、保育者としての人間性の向上と豊かな専門知識を身につけた保育者の養成を行う。音楽学科では、今年度より募集停止を決定したところであるが、今後とも在學生に対する指導などを怠ることなく実施していく。

入学者受け入れについては入試広報室と連携をとりながら、定員充足に向けての入試制度の検討を行う。

学習成果の査定(アセスメント)については、生活科学学科では、学習成果を専攻ごとに評価し、社会的に評価を高め就職に結びつくよう努力する。幼児教育学科では、専門職の就職率は100%に近い値なので、保育者としての質を高めていく。音楽学科では、音楽コンクール入賞、音楽検定合格、学位取得などの努力を継続する。

B 学生支援

授業アンケート結果の教員(非常勤教員含む)へのフィードバックをスムーズにするために、教員対象のアンケート項目の再検討、教養科目に於ける複数教員で担当している科目の充実があげられる。学習成果の獲得に向けた資源の有効活用については、蓄積された教育資産の有効活用及び附属図書館主催の講座への学生参加数の増加が課題である。学生支援については毎年増えてきている質的多様な学生への対応及び基礎学力が不足している学生の学習支援体制を検討する必要がある。

学生生活の支援については、学生生活調査アンケートなど学生の意見を反映させ、なお一層の改善、努力をして行きたい。就職支援については更なる厳しい就職戦線にあつて、情報提供の方法、事業所対策、就職試験対策などが課題である。

学生募集においては、これまで同様受験生とのマッチングを図るため、入学者受け入れ方針の周知を行って行きたい。これに加え、本学で学びたいという意欲のある学生を募

集するため、入学後の教育課程や卒業後の進路についての周知にも力を入れたい。

基準Ⅱ-A 教育課程

(b) 要約

学位授与の方針としては、本学の建学の精神並びに教育理念を理解し、幅広い教養と生活科学に関する専門的知識と技能を修得し、心豊かでかつ社会に貢献できる能力を身につけたと認められる者に、生活科学学科では「短期大学士(生活科学)」、幼児教育学科では「短期大学士(幼児教育)」、音楽学科では「短期大学士(音学)」の学位を授与する。学位の認定にあったっては、卒業要件として教養科目10単位以上、専門科目54単位以上、合計64単位以上の修得を要する。成績評価は A,B,C,D,E の5段階評価で、学則で規定し学生のしおりに明記されている。この内容は入学時から MH などを通して学生に説明し、各学期末には MH の時間を設けて、成績を学生に通知し各自の学習成果の把握と指導を実施している。

生活科学学科では、毎年度の就職率は90%以上を達成してきており、社会の人材養成の要求を考慮したカリキュラムで教育をしてきており、社会的には通用性があるといえる。学位授与の方針は定期的に点検している

幼児教育学科では、毎年、幼稚園教諭・保育士の専門職として、100%に近い数値で就職している。この現状から社会的に通用性があると考え。教育職員免許法や児童福祉法施行規則等の改正に伴い、更に保育者としての人間性、専門性の向上のために、より有効なカリキュラムの配置や、内容などを定期的に点検している。

音楽学科では、今年度より募集停止を決定したところであるが、今後とも音楽療法士(2種)称号取得者への指導、独立行政法人「大学評価・学位授与機構」学位審査受験者への指導など、怠ることなく実施している。

教育課程編成・実施の方針としては、生活科学学科では幅広い教養と生活科学に関する専門的知識と技能を修得するため、教育課程は講義と同等の演習、実験、実習を開講しわかりやすく体系的に学べるよう編成して、学位授与の方針に対応している。学生に説明を実施する際にはシラバスを用い、そこには授業のねらい、授業計画、評価方法、教材、参考図書が明示されている。生活環境専攻専門科目については、基礎・プロダクト(製品)・ビジュアル(視覚)・ファッション・環境の分野で講義、演習を開講。生活情報専攻専門科目については、専攻必修科目群で ICT の基礎を学んだ上、希望の就職分野に合わせて、自由に選択できるような教育課程を編成している。食物栄養専攻専門科目については、栄養士法施行規則に定める科目に準拠し、講義と実験・実習をバランスよく開講している。

幼児教育学科では、幅広い教養と幼児教育並びに保育に関する専門的知識と技能の修得のため、保育士資格、幼稚園教諭2種免許状等の取得のための教育・教職課程が設置されている。保育者としての教養・専門性をより身につけるために、教養科目・専門科目、演習・講義・実習、科目の配置等にスムーズに専門性等を体得できるように編成し、乳幼児の理解、実践に直結する授業内容を編成している。平成23年度入学生からは、授業科目の名称をより分かりやすいように改正する。また、教務課と常時連携し、適正な教員配置となっている。毎年、学科会議、教育課程委員会などで定期的に実施している。

音楽学科では、音楽専門科目 68 科目、100 単位を開講しており、演奏コース・音楽療法コース・デジタル音楽創作コース及び専攻科音楽専攻の3分野、1専攻に分かれて、夫々の学習成果・学習意欲に応じた授業科目を編成している。特に実技科目においては、個々の学生の到達度目標(グレード)を設け、学生が得るべき学習成果を具体的、且つ明確に示している。

入学者受け入れの方針としては、生活科学学科では「人々の生活について科学的な

理解を深めながら、生活環境、生活情報、食物栄養において専門的な知識技能を学ぶ意欲のある人」と募集要項で明示している。

幼児教育学科では、「子どもが好きで、幼児の保育や教育、福祉に関心があり、幅広い視野と実践をそなえた保育士や幼稚園教諭を目指す人」と学生募集要項に明示している。

音楽学科については平成23年度の学生募集を停止したので、この記述は行わない。

各学科の学習成果の査定(アセスメント)は、生活科学学科の各専攻における学習成果は免許・資格の取得者数で具体的に示されており、取得率は2年間でいずれも高率であることから、学習成果の達成が一定期間で可能であることを示している。また就職率も高く社会的にも認められている。

幼児教育学科における学びの分野として、子どもの育ち、保育者の役割・仕事、子どもの遊び(保育内容)、教育・福祉などがあり、免許・資格を取得するための科目が学生のしおりに明確に記されており、免許・資格の取得率は高い。レクリエーション・インストラクター資格、リトミック資格は、幼稚園教諭2種、保育士として就職し、保育者として専門性をより高めるものである。学習成果については、幼稚園教諭、保育士としての就職率が高いことから評価できる。

音楽学科では、高度な演奏能力を身に付け、地域社会の音楽文化を創造することの出来る人材の養成に努力しており、卒業生の多くが地域の音楽リーダーとして活躍し、音楽コンクール入賞者、音楽検定合格者、学位取得者などの学習成果を得ている。

学生の卒業後評価への取り組みとしては、毎年行っている「卒業生に関するアンケート」を、平成22年12月2日付にて、平成21年3月卒業学生が就職したとの調査を得ている事業所(公務員として採用されたものを除く201事業所)に依頼した。

(b)改善計画

生活科学学科では、キャリア意識を高めるため進路に対するきめ細かな指導を教員・就職課の連携により実施する。

幼児教育学科では、社会のニーズに合わせながら、仁愛兼済の心を土台に、保育者としての人間性の向上を図り、社会に貢献する視野や姿勢を育て、豊かな専門知識を身につけた保育者を養成する。

音楽学科では、今年度より募集停止を決定したところであるが、今後とも音楽療法士(2種)称号取得者への指導、独立行政法人「大学評価・学位授与機構」学位審査受験者への指導など、怠ることなく実施することがあげられる。

全学的には、平成23年度より学生の地域貢献活動を積極的に支援するために、教養科目に新科目「社会活動実践」を設け単位化した。

入学者受け入れについては入試広報室との連携をとりながら、方針を浸透させたい。

学習成果の査定(アセスメント)については、生活科学学科では、平成22年度の就職率が専攻によっては低下しているので、今後就職指導課と教員が一体となった指導強化が必要である。

幼児教育学科では、専門職の就職率は100%に近い値なので、保育者としての質を高めることが今後の課題である。

音楽学科では、音楽コンクール入賞者、音楽検定合格者、学位取得者などの学習成果を十分に挙げるよう今後も努力を継続していく。

基準Ⅱ-A-1 学位授与の方針を明確に示している

1. 生活科学学科

(a)現状

生活科学学科では、本学の建学の精神並びに教育理念を理解し、幅広い教養と生活

科学に関する基礎および専門的知識と技能を修得し、心豊かでかつ社会に貢献できる能力を身につけたと認められる人に「短期大学士(生活科学)」の学位を授与する。学位の認定にあたっては、卒業要件として教養科目10単位以上、専門科目54単位以上(うち、学科共通科目10単位以上)、合計64単位以上の修得を要する。成績評価は5段階評価で学則で規定し学生のしおりに明記されている。この内容は入学時からMHなどを通して学生に懇切に説明している。各学期末にはMHの時間を設けて、学習成果としての成績を学生に通知し各自の学習成果の把握と指導を実施している。

毎年度の就職率は90%以上を達成してきたので、社会的には通用性があるといえるが、22年度は専攻によっては就職率の低下がみられる。学位授与の方針は定期的に点検している。

(b)課題

技術革新・高度情報化の進展に伴い、生活スタイル、働き方の変化があり、構造的経済不況もあって、社会の要求する人材も変わって来ている。そのため、教養教育を重視しつつ、生活科学の各専攻の教育内容の見直しをしつつ、求められている人材の養成に応じて行かなければならない。加えて、学生に対しては、キャリア教育を強化する必要がある。

2. 幼児教育学科

(a)現状

幼児教育学科では、本学の建学の精神及び教育理念を理解し、幅広い教養と幼児教育並びに保育に関する専門的知識と技能を修得し、心豊かでかつ社会に貢献できる能力を身につけたと認められた人に、「短期大学士(幼児教育)」の学位を授与する。学位の認定にあたっては、卒業の要件として教養科目10単位以上、専門科目54単位以上、合計64単位以上の修得を要する。成績評価は5段階評価で、学生のしおりの学業成績の考査及び評価の項目で詳細に明記している。幼稚園教諭免許等の資格取得は教育職員免許状取得の項目等で、免許法施行規則と本学での開講科目の対応関係を詳細に明記している。また、入学時をはじめ、MH等で十分な説明を行っている。学位授与の方針は、学生のしおりの授業科目の履修方法の項目で規定している。また、学生のしおり、学生募集要項、短大のホームページ等で学内外に表明している。

毎年、幼稚園教諭・保育士の専門職として、100%に近い数値で就職している。この現状から社会的に通用性があると考え。教育職員免許法や児童福祉法施行規則等の改正に伴い、更に保育者としての人間性、専門性の向上のために、より有効なカリキュラムの配置や、内容などを定期的に点検している。

(b)課題

専門職として100パーセントに近い学生が就職することから、社会的な責任は大きい。社会のニーズに合わせながら、仁愛兼済の心を土台に、保育者としての人間性の向上を図り、社会に貢献する視野や姿勢を育て、豊かな専門知識を身につけた保育者を養成する。

Ⅱ-A-1 幼児教育学科の就職状況

	H19 年	H20 年	H21 年	H22 年
卒業生	155 名	155 名	147 名	111 名
保育士	128 名	132 名	127 名	86 名
幼稚園教諭	12 名	13 名	9 名	18 名
施設指導員	2 名	1 名	2 名	
その他	13 名	8 名	4 名	6 名
4年制大学編入	0 名	1 名	5 名	1 名
専門分野就職率	91.6%	94.2%	93.9%	93.7%

3. 音楽学科

(a)現状

幅広い音楽教養を基礎とし、高度の演奏表現技法及び音楽の応用能力を有し、音楽文化を担う心豊で有能であると認めたものに、「短期大学士」の称号を授与する。卒業要件として、教養科目 10 単位以上、専門科目 54 単位以上、合計 64 単位以上を修得する必要がある。また、全日本音楽療法士養成協議会の定めるところに従い、所定の単位 41 単位を修得すれば音楽療法士(2 種)称号取得を、また、所定の単位71単位を修得すれば音楽療法士(1種)称号取得をすることができる。さらに、音楽専攻科に於いては、近年はすべての学生が修了要件の専門科目46単位以上を修得し、独立行政法人「大学評価・学位授与機構」の定める所定の単位を修得し、学位審査に合格すれば、「芸術学」の学位を取得している。

(b)課題

今年度より募集停止を決定したところであるが、今後とも音楽療法士(2 種)称号取得者への指導、独立行政法人「大学評価・学位授与機構」学位審査受験者への指導など、怠ることなく実施する。

基準Ⅱ-A-2 教育課程編成・実施の方針を明確に示している

1. 生活科学学科

(a)現状

生活科学学科では幅広い教養と生活科学に関する基礎および専門的知識と技能を修得するため、教育課程は講義と同等の演習、実験、実習を開講しわかりやすく体系的に学べるよう編成して、学位授与の方針に対応している。成績評価は5段階評価で、質の保証に向け、教務課と連絡を取り厳格に適用している。学生に説明を実施する際にはシラバスを用い、そこには授業のねらい、授業計画、評価方法、教材、参考図書、その他が明示されている。

教育課程の教員はいずれも資格、業績のある教員を配置し、これについても随時教務課と連絡をとりあっている。また教育課程の見直しは定期的、あるいは必要に応じて見直している。

(b)課題

シラバスには授業のねらいは示してあるものの、学習の流れ、科目間のつながり、達成目標が分かりにくいので、改善の必要がある。

(1)生活環境専攻

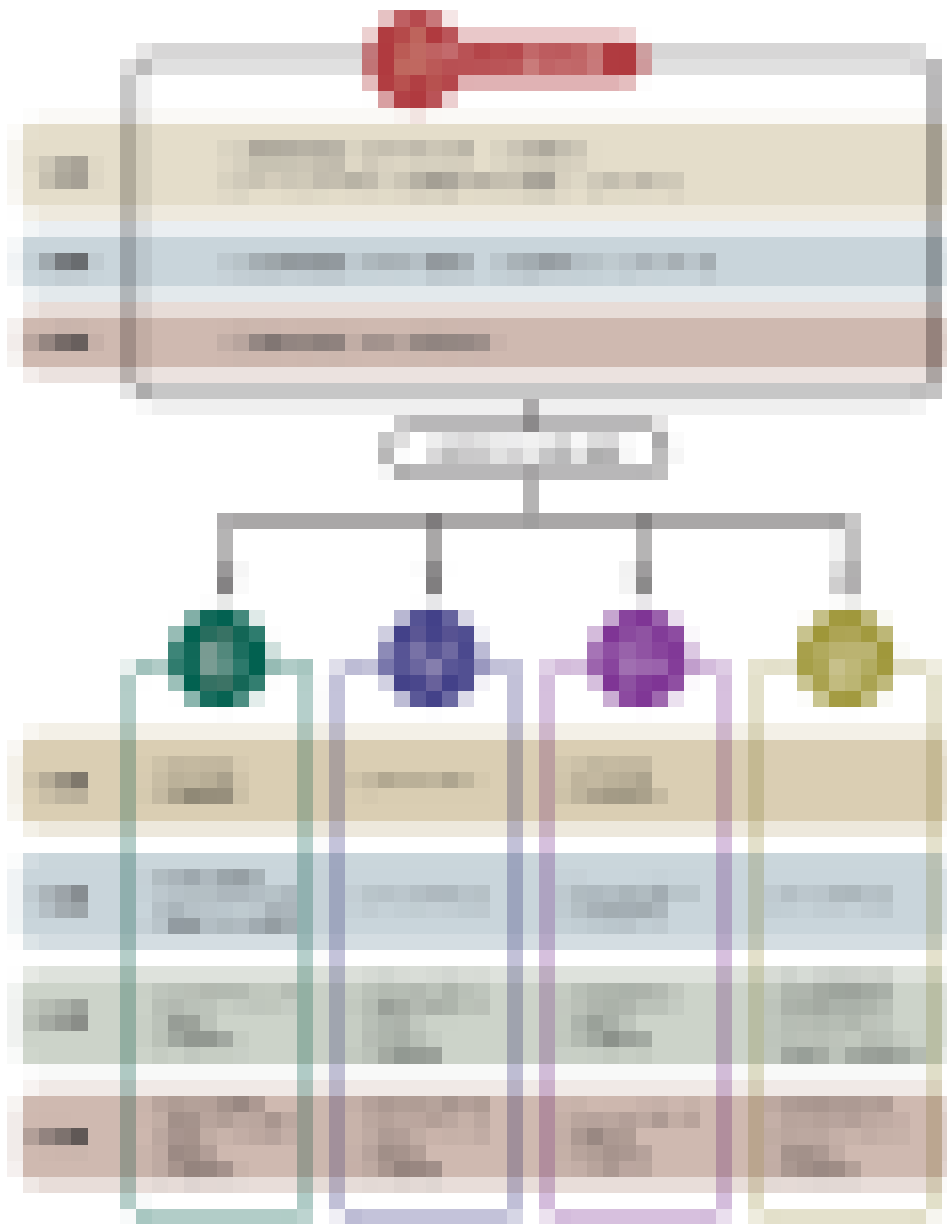
(a)現状

学科の学位授与の方針に則し、「生活環境」を“生活を取り巻く環境や身近なデザイン”ととらえ、デザインの基礎、プロダクト、ビジュアル、ファッション、環境の4つのデザイン分野を柱としたカリキュラムを設定している。教養科目、学科共通科目に加え、専攻専門科目36科目(64単位)、合計43科目(78単位)を開講している。現在のカリキュラムは、上記の4分野について入学生の関心と社会のニーズをふまえて体系的に履修できるよう、2010年度入学生から大幅に見直したものである。

担当教員は常勤教員3名、非常勤教員12名が担当してる。プロダクトデザイン分野の担当教員が全員非常勤となっている。

(b)課題

シラバスの[1]授業のねらいに関しては“授業の達成目標、到達目標”の視点が全体的に弱い。また、プロダクトデザイン分野の教員が全員非常勤でバランスに欠けている。



図Ⅱ-A-2 生活環境専攻の学びのステップ

(2)生活情報専攻

(a)現状

学科の学位授与の方針に則し、情報基礎科目群を核に、希望の進路につながるよう、情報、コミュニケーション、オフィスの3つに関連した専門科目を開講している。教養科目、学科共通科目に加え、専攻専門科目 32 科目(63 単位)、合計 39 科目(77 単位)を開講している。また、全国大学実務教育協会の「情報処理士資格認定に関する規定」及び「ビジネス実務士資格認定に関する規定」に従い、専門科目を修得することで、資格が取得可能としている。本資格認定のため、先の専門科目以外に、実務教育に関する科目 2 科目(4 単位)を特設している。

常勤教員 7 名、非常勤教員 17 名が担当している。教育課程の見直しについては、平成 23 年度入学生からのカリキュラムを変更するため、毎月1回以上の専攻会議にて検討を行い、次年度よりカリキュラムの変更することとした。

(b)課題

学生の希望する就職分野に対応して選択すべき科目が明確でなかったため、2011 年度より卒業時の6つのゴールを設定し、ゴールごとの履修モデル案を示しながら進める新たな教育課程に変更することとしたが、学生や社会求める学習成果が得られるよう取り組む必要がある。

II-A-3 生活情報専攻の学習の フロー(平成 23 年度入学生より)



(3)食物栄養専攻

(a)現状

学科の学位授与の方針に対応して、学科共通科目7科目(14単位)、専攻専門科目40科目(70単位)、合計47科目(84単位)を開講している。専門科目は、栄養士法施行規則に定める科目に準拠し、講義と実験・実習をバランスよく開講し、さらに、フードスペシャリスト資格に必要な科目を加え、専門性の強化を図っている。

教員の資格は本学の「教員選考基準」、「仁愛女子短期大学教員選考規程」に明示されており、各授業科目の担当教員はこれらの基準・規程と厚生労働省の「栄養士養成施設指導要領」に照らし合わせて学内の審査会を経て選考された常勤教員8名、非常勤教員13名が担当している。

教育課程の見直しについては、毎年10月頃の専攻会議で検討をしている。

(b)課題

シラバスの達成目標を明確にして、さらに学習成果の向上に努める必要がある。

(4)専攻科食物栄養専攻(学科長)

(a)現状

平成22年度は本専攻科最後の学生である2回生のみが在籍し、年度末に全員卒業し、廃止した。

(b)課題

—

2. 幼児教育学科

(a)現状

幼児教育学科では、幅広い教養と幼児教育並びに保育に関する専門的知識と技能の修得のため、保育士資格、幼稚園教諭2種免許状等の取得のための教育・教職課程が設置されている。保育者としての教養・専門性をより身につけるために、教養科目・専門科目、演習・講義・実習、科目の配置等にスムーズに専門性等を体得できるように編成し、乳幼児の理解、実践に直結する授業内容を編成している。23年度入学生からは、授業科目の名称をより分かりやすいように改正する。

成績は5段階で評価されるが、再試の制度を設けてより厳格に適用している。各学期末の試験のみならず、臨時に試験を実施したり、課題レポート、授業態度等で総合的に評価し、客観性と公平性を確保している。

シラバスには、授業の種類、単位数、配当学年、時期、必修・選択、担当教員、授業の目的・ねらい、概要、到達目標、授業の計画、評価の方法、教材、参考図書の項目で明示されている。また、教務課と常時連携し、適正な教員配置となっている。毎年、学科会議、教育課程委員会などで定期的の実施している。

(b)課題

多様な学生に対応し、学生の学ぶ意欲とコミュニケーション能力を育てるために、「英語会話」「情報メディア入門」について習熟度別に応じた授業を展開しているが、その成果を検証することが課題である。

平成23年度入学生より、保育士養成課程の科目改正に伴い、教養科目、専門科目の科目名、開講時期、単位数、授業の形態などあらゆる角度から教育課程を体系的で分かりやすい授業科目に編成したので、より一層学生の理解を深め、学習成果を高めることが課題である。

音楽表現

幼児の音楽活動は情操教育の大切な分野のひとつです。「音楽表現」のプログラムでは、ピアノ演奏技術はもちろん、伴奏付け、歌あそび、楽器あそびなど、幅広い音楽技能・技術を学びながら、保育現場における音楽活動をアクティブにサポートできる魅力的な保育者を目指します。また、発表会などの演奏活動をとおり、音楽能力を高め、音楽することの楽しさを体験します。

授業科目

- 保育内容(コース)
- 1年次後期/1単位/演習
- 保育内容(キーボード)
- 2年次前期/1単位/演習
- 表現総合演習(音楽)
- 2年次通年/2単位/演習



造形表現

絵や製作物は子どもの心の現れです。「造形表現」のプログラムでは、平面または立体作品の製作をとおして、保育者に求められる表現力と感性を高めます。子どもたちが扱うクレヨンなどの描画材や、紙などの材料についての知識を学び、表現技法を習得します。エプロンシアター、大型の壁面構成、幼児対象の劇の舞台背景や大道具など、さまざまな作品を製作し、作品展示を行います。

授業科目

- 保育内容(平面造形)
- 1年次後期/1単位/演習
- 保育内容(立体造形)
- 2年次前期/1単位/演習
- 表現総合演習(造形)
- 2年次通年/2単位/演習



身体表現

子どもたちが感動し、心とからだを解放しながら、他人と共有して身体表現活動を行うことは、子どもの感性を育み、育ちに大きく影響を与えます。「身体表現」のプログラムでは、ミュージカル、創作ダンスを中心に展開し、仲間と共に創りあげていく過程を楽しみながら、作品を子どもたちの前で発表する喜び、充実感などを体験し、これらの実践を通して、保育者としての資質の向上に努めます。

授業科目

- 保育内容(ミュージカル)
- 1年次後期/1単位/演習
- 保育内容(ダンス)
- 2年次前期/1単位/演習
- 表現総合演習(身体)
- 2年次通年/2単位/演習



言語表現

「言語表現プログラム」では、絵本や物語の読み聞かせをしたり、乳幼児期にふさわしい絵本や学校教育につながる物語の分析をします。また、オリジナルの教材作りにも挑戦。たとえば、劇の脚本や童話を作って発表したり、絵本を手作りしたりします。他にも、ペープサート・手人形・パネルシアターなど、仲間と話し合いながら工夫して実演することで、その表現の効果を確認し合い、よい表現方法を探索します。

授業科目

- 保育内容(保育の文化)
- 1年次後期/1単位/演習
- 保育内容(ことばの文化)
- 2年次前期/1単位/演習
- 表現総合演習(言語)
- 2年次通年/2単位/演習



図Ⅱ-A-4
幼児教育学科 選択履修プログラム(平成23年度入学生より)

3. 音楽学科

(a)現状

音楽専門科目 68 科目、100 単位を開講しており、演奏コース・音楽療法コース・デジタル音楽創作コース及び専攻科音楽専攻の3分野、1専攻に分かれて、夫々の学習成果・学習意欲に応じた授業科目を編成している。評価に当たっては、学期末試験のほか年間数回の実技テストや小テストを実施し、文化講座などでは毎回のレポート提出を義務付けるなど、授業科目・授業形態に併せた評価を行っている。特に、実技科目においては個々の学生の到達度目標(グレード)を設け、学生が得るべき学習成果を具体的、且つ明確に示している。授業内容に関してシラバスにおいて、[1]授業のねらい、[2]授業の計画、[3]評価の方法、[4]教材、[5]参考図書を明示している。

(b)課題

平成23年度の学生募集を停止したので、学科・教育課程の見直しについてはこれを行わないが、現行の教育課程に沿って学習成果を高めるように、教育活動を展開する。

表Ⅱ-A-2 全学共通（教養科目）教育課程(2010 年度)

科目の種類	授業科目名	授業形態	単位			教員配置			履修人員	備考
			必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
教 養 科 目	人間と仏教Ⅰ	講義	2			○			284	
	人間と仏教Ⅱ ★	演習	1			○			293	
	人間と哲学	講義							-	開講せず
	人間と文学 ★	講義		2			○		36	
	人間と教育	講義							-	開講せず
	行動と心理 ☆	講義		2			○		70	
	ヒトの生物学	講義		2				○	10	
	環境の化学 ☆	講義		2				○	5	
	変動する社会 ☆	講義		2				○	85	
	日本の憲法	講義		2				○	109	
	日本の文化	講義		2			○		55	
	昭和の歴史	講義							-	開講せず
	教養基礎演習	演習		1				○	261	
	運動と健康 ★	講義		1		○		○	123	
	スポーツ実技 ★	実習		1		○		○	144	
	英語	演習		2			○	○	93	
	ドイツ語	演習		2				○	21	
	中国語	演習		2				○	53	
	フランス語	講義							-	開講せず
	英語会話Ⅰ ★	演習		2			○	○	230	
	英語会話Ⅱ ☆	演習		2				○	7	
	英語表現Ⅰ	演習		2				○	4	
	英語表現Ⅱ ☆	演習		2				○	8	
	比較文化 ★	講義		2			○		0	
	国際理解 ★	演習		2			○		0	
	情報メディア入門	講義		2		○	○	○	200	
	野外運動Ⅰ	演習		1		○			0	
	野外運動Ⅱ ★	演習		1		○			0	

・授業科目名欄の☆印は2回生に開講。★印は1、2回生に開講。

・履修人員は、2009年度入学生の2回生と2010年度入学生の1回生の受講者である。

表Ⅱ-A-3-1 生活科学学科（生活環境専攻1回生）教育課程（2010年度）

科目の種類	授業科目名	授業形態	単位			教員配置			履修人員	備考
			必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門科目	生活科学論	講義	2			○			35	学科共通科目
	衣生活論	講義		2		○			33	〃
	住生活論	講義		2		○			35	〃
	人間関係論	講義		2				○	33	〃
	生活環境論	講義	2			○			35	
	色彩学Ⅰ	演習	2					○	35	
	デッサンⅠ	演習	2				○		35	
	デッサンⅡ	演習		2			○		31	
	ベーシックデザインⅠ	演習	2					○	34	
	ベーシックデザインⅡ	演習	2					○	34	
	ベーシックデザインⅢ	演習	2			○			34	
	グラフィックデザインⅠ	演習		2		○			34	
	ファッションデザインⅠ	演習		2		○			9	
	生活造形Ⅰ	演習		2		○			27	
	生活造形Ⅱ	演習		2		○			19	
	地域環境論	講義	2			○			35	
	環境デザイン概論	講義		2		○			22	
	インテリアデザイン	講義		2				○	29	
	すまいの計画	講義		2		○			22	
	住環境論	講義		2				○	27	

・授業科目名欄の☆印は2回生に開講。★印は1、2回生に開講。

・履修人員は、2009年度入学生の2回生と2010年度入学生の1回生の受講者である。

表Ⅱ-A-3-2 生活科学学科（生活環境専攻2回生）教育課程（2010年度）

科目の種類	授業科目名	授業形態	単位			教員配置			履修人員	備考
			必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門科目	食生活論 ☆	講義	2					○	36	学科共通科目
	生活経営学 ☆	講義		2				○	11	〃
	保育学 ☆	講義		2			○		12	〃
	生活造形Ⅱ ☆	演習		2		○			26	
	クラフトデザインⅠ ☆	演習		2				○	29	
	クラフトデザインⅡ ☆	演習		2				○	11	
	グラフィックデザインⅠ ☆	演習		2		○			33	
	グラフィックデザインⅡ ☆	演習		4		○		○	18	
	プロダクトデザインⅠ ☆	演習		2				○	24	
	プロダクトデザインⅡ ☆	演習		4				○	12	
	環境デザイン ☆	講義		2		○			11	
	インテリアプランニング ☆	演習		2				○	25	
	インテリア設計 ☆	演習		2				○	9	
	ファッションデザイン ☆	演習		2		○			11	
	消費環境論 ☆	講義		2				○	3	
	環境色彩論 ☆	講義		2				○	33	
	住環境と法 ☆	講義		2		○			8	
	生活情報処理 ☆	演習		1				○	19	
	演習Ⅱ ☆	演習		2		○		○	36	
	卒業研究 ☆	演習	2			○		○	36	

・授業科目名欄の☆印は2回生に開講。★印は1、2回生に開講。

・履修人員は、2009年度入学生の2回生と2010年度入学生の1回生の受講者である。

表Ⅱ-A-4 生活科学学科（生活情報専攻）教育課程(2010年度)

科目の種類	授業科目名	授業形態	単位			教員配置			履修人員	備考
			必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門科目	生活科学論	講義	2					○	77	学科共通科目
	衣生活論	講義	2					○	76	〃
	食生活論	講義		2			○		54	〃
	住生活論	講義		2			○		75	〃
	生活経営学 ☆	講義		2				○	61	〃
	保育学	講義		2			○		90	〃
	人間関係論	講義		2				○	73	〃
	生活情報論	講義	2			○			93	
	情報システムⅠ	講義	2			○			79	
	情報システム演習Ⅰ	演習		2		○	○		76	
	情報システムⅡ	講義	2				○		76	
	情報システム演習Ⅱ	演習		2		○			76	
	情報ネットワーク	講義		2			○		15	
	情報メディア	講義		2		○			43	
	情報表現法	講義		2				○	49	
	情報管理	講義		2			○		65	
	情報数学 ☆	講義		2				○	55	
	情報処理演習	演習	2			○			76	
	基礎プログラミングⅠ ☆	演習	2					○	93	
	応用プログラミングⅠ ☆	演習		2		○			80	
	基礎プログラミングⅡ ☆	演習		2		○			32	
	応用プログラミングⅡ ☆	演習		2			○		33	
	文章・言語表現 ☆	講義		2				○	91	
	文書処理演習	演習		2				○	76	
	コミュニケーション演習	演習		2				○	8	
	プレゼンテーション演習 ☆	演習		2		○			82	
	ドキュメンテーション演習 ☆	演習		2		○		○	60	
	マルチメディア演習Ⅰ	演習		2		○		○	65	
	マルチメディア演習Ⅱ	演習		2		○			8	
	生活会計学Ⅰ	講義		2		○		○	75	
	生活会計学演習Ⅰ	演習		2		○		○	73	
	生活会計学Ⅱ ☆	講義		2		○			12	
	生活会計学演習Ⅱ ☆	演習		2		○		○	30	
	生活商品学 ☆	講義		2				○	85	
	生活管理	演習		1				○	66	
	事務管理 ☆	講義		2				○	76	
	演習Ⅰ ☆	講義		2		○			51	
	演習Ⅱ ☆	講義		2		○		○	93	
	卒業研究 ☆	講義	2			○		○	93	
	ビジネス実務総論 ☆	講義			2	○			76	
	ビジネス実務演習 ★	演習			2			○	86	

・授業科目名欄の☆印は2回生に開講。★印は1、2回生に開講。

・履修人員は、2009年度入学生2回生と2010年度入学生1回生の受講者である。

表Ⅱ-A-5 生活科学学科（食物栄養専攻）教育課程(2010年度)

科目の 種類	授業科目名	授業 形態	単位			教員配置			履修 人員	備考
			必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門 科目	生活科学論	講義	2					○	45	学科共通科目
	衣生活論	講義	2					○	45	〃
	食生活論	講義		2		○			45	〃
	住生活論 ☆	講義		2			○		6	〃
	生活経営学 ☆	講義		2				○	0	〃
	保育学	講義		2			○		45	〃
	人間関係論	講義		2				○	45	〃
	食品学総論	講義	2					○	45	
	食品学各論	講義		2				○	45	
	食品化学実験Ⅰ	実習		1				○	45	
	食品化学実験Ⅱ	実習		1		○			45	
	食品加工学	講義		2		○			45	
	食品加工実習 ☆	実習		1		○			40	
	栄養学総論	講義	2			○			45	
	栄養学各論	講義		2				○	45	
	栄養学実習	実習		1				○	48	
	臨床栄養学 ☆	講義		2				○	41	
	臨床栄養学各論 ☆	講義		2				○	41	
	臨床栄養学実習 ☆	実習		1				○	40	
	公衆栄養学	講義		2				○	45	
	調理学	講義	2			○			45	
	調理学実習Ⅰ	実習	2			○		○	45	
	調理学実習Ⅱ ☆	実習		2		○			40	
	食品衛生学	講義	2			○			45	
	食品衛生学実験	実習		1				○	45	
	食品検査法	演習		1				○	43	
	公衆衛生学 ☆	講義	2					○	41	
	公衆衛生学各論 ☆	講義		2				○	40	
	栄養指導論Ⅰ	講義		2		○			45	
	栄養指導論Ⅱ ☆	演習		2		○			41	
	栄養指導実習 ☆	実習		2		○		○	40	
	給食管理	講義		2		○			45	
	給食管理実習 ☆	実習		2		○			40	
	解剖生理学実験 ☆	実習		1				○	40	
	生化学Ⅰ ☆	講義		2				○	41	
	生化学Ⅱ ☆	講義		2				○	41	
	生化学実験 ☆	実習		1				○	40	
	運動生理学 ☆	講義		2				○	41	
	社会福祉 ☆	講義		2				○	41	
	食料経済 ☆	講義		2				○	41	
	有機化学	講義		2				○	43	
	栄養情報処理	演習		1				○	45	
	フードスペシャリスト論	講義		2				○	43	
	フードコーディネーター論 ☆	講義		2		○			40	
	学校食教育	講義		2					-	開講せず
	演習Ⅰ ☆	演習		2		○			41	
	卒業研究 ☆	演習	2			○			41	

・授業科目名欄の☆印は2回生に開講。★印は1、2回生に開講。

・履修人員は、2009年度入学生の2回生と2010年度入学生の1回生の受講者である。

表Ⅱ-A-6 幼児教育学科 教育課程(2010年度)

科目の種類	授業科目名	授業形態	単位			教員配置			履修人員	備考
			必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門科目	社会福祉	講義	2					○	112	
	社会福祉援助論 ☆	演習		2		○		○	110	
	児童福祉	講義		2		○			110	
	小児保健	講義		4				○	112	
	小児保健実習	実習		1				○	110	
	精神保健 ☆	講義		2		○			111	
	小児栄養	演習		2			○		109	
	家族援助論 ☆	講義		2		○			110	
	音楽Ⅰ	演習	2				○	○	111	
	音楽Ⅱ ☆	演習		2				○	9	
	音楽(器楽Ⅰ)	演習		2		○	○	○	126	
	音楽(器楽Ⅱ) ☆	演習		2		○	○	○	92	
	図画工作	演習	2			○			109	
	体育Ⅰ ☆	演習	2			○			110	
	体育Ⅱ	演習		1					-	開講せず
	国語 ☆	講義	2			○			110	
	教育原理	講義	2			○			110	
	教育社会学 ☆	講義		2		○			109	
	保育原理Ⅰ ☆	講義	4			○			111	
	保育原理Ⅱ ☆	講義		2		○			10	
	養護原理Ⅰ	講義	2			○			109	
	養護原理Ⅱ ☆	講義		2		○			0	
	教育心理学	講義	2			○			110	
	発達心理学Ⅰ	講義	2			○			110	
	発達心理学Ⅱ	講義		2		○			109	
	発達心理学Ⅲ ☆	演習		2		○			30	
	臨床心理学 ☆	演習		2		○		○	110	
	教育の方法と技術	講義		2			○		109	
	教育課程総論	講義	2			○			111	
	保育内容総論	演習		1				○	110	
	保育内容研究ⅠA(健康Ⅰ)	演習		1				○	110	
	保育内容研究ⅠB(健康Ⅱ) ☆	演習		1		○			0	
	保育内容研究Ⅱ(人間関係)	演習		1		○			109	
	保育内容研究Ⅲ(環境)	演習		1				○	109	
	保育内容研究Ⅳ(言葉)	演習		1		○			110	
	保育内容研究ⅤA(表現Ⅰ)	演習		1		○			110	
	保育内容研究ⅤB(表現Ⅱ)	演習		1				○	108	
	保育内容研究ⅤC(表現Ⅲ) ☆	演習		1				○	110	
	保育内容研究Ⅵ(子どもの文化)	講義		2				○	110	
	教育職の研究 ☆	講義		2		○			107	
	乳児保育Ⅰ	演習		2				○	110	
	乳児保育Ⅱ ☆	演習		2				○	45	
	障害児保育 ☆	演習		1		○			110	
	児童文化 ☆	演習		2				○	35	
	養護内容 ☆	演習		1				○	110	
	保育総合演習 ☆	演習		2		○		○	110	
	教育実習Ⅰ ★	実習		4		○			109	
	教育実習Ⅱ ★	実習		1		○			109	
	保育実習Ⅰ ★	実習		5		○			110	
	保育実習Ⅱ ☆	実習		2		○			109	
	保育実習Ⅲ ☆	実習		2		○			1	
	卒業研究 ☆	演習	2			○			110	
	レクリエーション理論 ☆	講義			2			○	30	
	レクリエーション実技 ☆	実習			1			○	30	
	レクリエーション現場実習 ☆	実習			1	○			30	

・授業科目名欄の☆印は2回生に開講。★印は1、2回生に開講。

・履修人員は、2009年度入学生の2回生と2010年度入学生の1回生の受講者である。

表Ⅱ-A-7 音楽学科 教育課程(2010年度)

科目の種類	授業科目名	授業形態	単位			教員配置			履修人員	備考
			必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門科目	音楽通論	講義		2		○			11	
	音楽理論	講義	2			○			10	
	作曲法	☆ 講義		2		○			9	
	和声学Ⅰ	講義	2			○			11	
	和声学Ⅱ	講義		2		○			9	
	応用和声	☆ 講義		2		○			12	
	音楽史Ⅰ	講義	2					○	11	
	音楽史Ⅱ	講義		2				○	9	
	楽式論	講義		2				○	10	
	日本伝統音楽演習	☆ 演習		1				○	8	
	音楽文化Ⅰ	演習	1			○			12	
	音楽文化Ⅱ	☆ 演習		1		○			10	
	ソルフェージュⅠ	演習	1					○	11	
	ソルフェージュⅡ	演習	1					○	11	
	ソルフェージュⅢ	☆ 演習		1				○	12	
	ソルフェージュⅣ	☆ 演習		1				○	7	
	学内演奏Ⅰ	演習	1			○			12	
	学内演奏Ⅱ	☆ 演習		1		○			10	
	学外演奏実践Ⅰ	演習	1			○			12	
	学外演奏実践Ⅱ	☆ 演習		1		○			10	
	合唱Ⅰ	演習	1					○	11	
	合唱Ⅱ	演習	1					○	11	
	合唱Ⅲ	☆ 演習		1				○	12	
	合唱Ⅳ	☆ 演習		1				○	11	
	幼児音楽演習	☆ 演習		1				○	7	
	ピアノアンサンブルⅠ	☆ 演習		1		○	○		4	
	ピアノアンサンブルⅡ	☆ 演習		1		○	○		4	
	室内楽基礎演習	☆ 演習		1		○			5	
	室内楽研究	☆ 演習		1		○			5	
	電子音楽研究	☆ 演習		1				○	1	
	ポピュラー音楽演習	☆ 演習		1				○	1	
	歌曲基礎演習	☆ 演習		1				○	0	
	歌曲研究	☆ 演習		1				○	0	
	音響基礎演習	演習		1				○	1	
	音響楽実践	演習		1				○	1	
	音楽心理学	☆ 講義		2				○	5	
	主科実技Ⅰ	実習		2		○	○	○	10	
	主科実技Ⅱ	実習		2		○	○	○	9	
	主科実技Ⅲ	☆ 実習		2		○	○	○	10	
	主科実技Ⅳ	☆ 実習		2		○	○	○	10	
	デジタルパフォーマンスⅠ	実習		2				○	0	
	デジタルパフォーマンスⅡ	実習		2		○			0	
	デジタルパフォーマンスⅢ	実習		2				○	1	
	デジタルパフォーマンスⅣ	実習		2		○			1	
	音楽療法概論Ⅰ	講義		2		○			10	
	音楽療法概論Ⅱ	☆ 講義		2				○	3	
	音楽療法基礎演習Ⅰ	演習		1		○			9	
	音楽療法基礎演習Ⅱ	演習		1		○			6	
	音楽療法実践Ⅰ	演習		1		○			1	
	音楽療法実践Ⅱ	演習		1		○			1	
	音楽療法各論	講義		2				○	1	
	音楽療法総合演習	☆ 演習		2		○		○	3	
	音楽療法技法各論	演習		1		○		○	1	
	障害児音楽療法論	講義		2		○			1	
	副科鍵盤Ⅰ	演習		1		○	○	○	8	
	副科鍵盤Ⅱ	演習		1		○	○	○	8	
	副科鍵盤Ⅲ	☆ 演習		1		○	○	○	8	
	副科鍵盤Ⅳ	☆ 演習		1		○	○	○	8	
	副科声学Ⅰ	演習		1				○	8	
	副科声学Ⅱ	演習		1				○	7	
	副科声学Ⅲ	☆ 演習		1				○	12	
	副科声学Ⅳ	☆ 演習		1				○	12	
	副専楽器奏法Ⅰ	演習		1				○	11	
	副専楽器奏法Ⅱ	演習		1				○	10	
	合奏Ⅰ	☆ 演習		1		○		○	12	
	合奏Ⅱ	☆ 演習		1		○		○	12	
	音楽社会活動実践	★ 演習		1		○			12	
	卒業研究	☆ 演習		2		○	○		12	
	教育心理学	講義		2				○	10	
	障害児保育	演習		1				○	0	
	精神保健	☆ 講義		2				○	9	
	社会福祉	☆ 講義		2				○	6	
	公衆衛生学	講義		2				○	0	
	養護原理Ⅰ	講義		2				○	9	
	臨床心理学	演習		2				○	1	
	発達心理学Ⅰ	講義		2				○	11	
	音楽療法実習Ⅰ	★ 実習		3		○			3	
	レクリエーション理論	講義		2				○	6	
	レクリエーション実技	実習		1				○	0	
	レクリエーション現場実習	実習		1		○			0	

・授業科目名欄の☆印は2回生に開講。★印は1、2回生に開講。

・履修人員は、2009年度入学生と2010年度入学生の1回生の受講者である。

表Ⅱ-A-8 専攻科（音楽専攻）教育課程（2010年度）

科目の種類	授業科目名	授業形態	単位			教員配置			履修人員	備考
			必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専攻科	作品研究特講Ⅰ	講義	2			○			8	
	作品研究特講Ⅱ ☆	講義		2				○	12	
	楽式研究	講義		2				○	8	
	作曲理論 ☆	講義		2				○	12	
	音楽史特講	講義		2				○	8	
	日本音楽特講 ☆	講義		2				○	12	
	演奏解釈論 ☆	講義	2					○	12	
	比較演奏論	講義		2				○	8	
	演奏法研究Ⅰ	演習	1			○			8	
	演奏法研究Ⅱ ☆	演習		1		○			12	
	リート	演習		2				○	6	
	重唱	演習		2				○	4	
	オペラ研究 ☆	演習		2				○	0	
	重奏	演習		2		○			4	
	アンサンブル ☆	演習		2		○			12	
	即興演奏技法 ☆	演習		1		○			12	
	歌唱指導法	演習		1				○	8	
	音楽療法特論	講義		2				○	0	
	臨床音楽療法論	講義		2				○	0	
	コーラス演習Ⅰ	演習		2				○	8	
	コーラス演習Ⅱ ☆	演習		2				○	12	
	演奏研究 ☆	演習		2		○			12	
	学外演奏Ⅰ	演習		2		○			8	
	学外演奏Ⅱ ☆	演習		2		○			12	
	鍵盤楽器AⅠ	実習		2		○			4	
	鍵盤楽器AⅡ	実習		2		○			5	
	鍵盤楽器AⅢ ☆	実習		2		○			8	
	鍵盤楽器AⅣ ☆	実習		2		○			8	
	管楽器AⅠ	実習		2				○	0	
	管楽器AⅡ	実習		2				○	0	
	管楽器AⅢ ☆	実習		2				○	6	
	管楽器AⅣ ☆	実習		2				○	0	
	弦楽器AⅠ	実習		2				○	0	
	弦楽器AⅡ	実習		2				○	0	
	弦楽器AⅢ ☆	実習		2				○	1	
	弦楽器AⅣ ☆	実習		2				○	1	
	声楽AⅠ	実習		2				○	4	
	声楽AⅡ	実習		2				○	4	
	声楽AⅢ ☆	実習		2				○	0	
	声楽AⅣ ☆	実習		2				○	0	
	声楽BⅠ	演習		2				○	4	
	声楽BⅡ ☆	演習		2				○	12	
	鍵盤楽器BⅠ	演習		2				○	6	
	鍵盤楽器BⅡ ☆	演習		2				○	4	
	管弦合奏Ⅰ	演習		2				○	8	
	管弦合奏Ⅱ ☆	演習		2		○			12	
	ヨーロッパの近代美術	講義		2				○	8	
	基礎イタリア語	演習		2				○	8	
	音楽表現研究 ☆	講義		2				○	12	
	演奏特修	演習	2			○			8	
	修了演奏 ☆	演習	2			○			12	
	教育原理 ☆	講義		2			○		0	
	小児保健	講義		4				○	0	
	発達心理学Ⅱ	演習		2			○		0	
	発達心理学Ⅲ ☆	演習		2			○		0	
	音楽療法実習Ⅱ	実習		2		○			0	

・授業科目名欄の☆印は2回生に開講。★印は1、2回生に開講。

・履修人員は、2009年度入学生と2010年度入学生の1回生の受講者である。

表Ⅱ-A-9 専攻科（食物栄養専攻）教育課程(2010年度)

科目 の 種類	授業科目名	授業 形態	履修 人員	主な単位 認定の 方法	単位 取得率 %	最終の評価 (%)			
						A	B	C	不可
	栄養学特論Ⅲ ☆	講義	8	筆記試験	100.0	12.5	75.0	12.5	0.0
	栄養学実験 ☆	実習	3	レポート	66.7	66.7	0.0	0.0	33.3
	病理学特論Ⅰ ☆	講義	9	筆記試験	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	病理学特論Ⅱ ☆	講義	9	筆記試験	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	食品学特論Ⅱ ☆	講義	9	筆記試験	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	調理科学演習 ☆	演習	8	課題, レポート	100.0	87.5	12.5	0.0	0.0
	臨床栄養学実習Ⅰ ☆	実習	8	筆記試験, レポート	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	公衆栄養学特論Ⅱ ☆	講義	9	筆記試験	88.9	0.0	77.8	11.1	11.1
	公衆栄養学実習 ☆	実習	8	課題, レポート	100.0	87.5	12.5	0.0	0.0
	公衆衛生学特論Ⅱ ☆	講義	9	筆記試験, レポート	100.0	77.8	11.1	11.1	0.0
	食品衛生学特論 ☆	講義	8	レポート	100.0	37.5	62.5	0.0	0.0
	栄養教育演習 ☆	演習	8	レポート	100.0	87.5	0.0	12.5	0.0
	特別研究 ☆	演習	8	研究報告	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	生命科学特論Ⅱ ☆	講義	8	レポート	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	臨床心理学特論 ☆	講義	9	筆記試験	100.0	55.6	44.4	0.0	0.0
	社会福祉特論 ☆	講義	7	筆記試験	85.7	85.7	0.0	0.0	14.3
	生活環境特論 ☆	講義	6	レポート	100.0	33.3	66.7	0.0	0.0

・数値は小数点第2位を四捨五入したもの。

基準Ⅱ-A-3 入学者受け入れの方針を明確に示している

1. 生活科学学科

(a)現状

生活科学学科では「人々の生活について科学的な理解を深めながら、生活環境、生活情報、食物栄養において専門的な知識技能を学ぶ意欲のある人」と募集要項で明示している。入学前の学習成果の把握・評価は学生から提出された調査書、並びに学力、面接試験で行っている。入学選抜の方法は入学者受け入れの方針に対応している。

(b)課題

高校生やその保護者、進路指導の高校教員に対して、生活科学学科の教育内容、卒業生の進路や活躍ぶり、社会への貢献等について理解を深めてもらうためのきめ細かな活動がまだ不足している。

2. 幼児教育学科

(a)現状

幼児教育学科では、「子どもが好きで、幼児の保育や教育、福祉に関心があり、幅広い視野と実践をそなえた保育士や幼稚園教諭を目指す人」と学生募集要項に明示している。出願書類の中に調査書があり、入学前の学習成果の把握・評価を行っている。AO入試では、「音楽」に高い能力を有していて、保育士や幼稚園教諭として意欲的な人を対象に実施している。推薦は、公募制推薦Ⅰ期、Ⅱ期、指定校制推薦があり、専願の希望者対象である。

(b)課題

「選択履修プログラム」のパンフレットの作成を入試広報室と連携をとりながら作成することによって、入学者受け入れの方針を高校生や社会に浸透させる。高校訪問や、オープンキャンパス、高校生説明会、進学相談会、高校教員対象説明会などの場で、パンフレットを利用して受け入れの方針をより強調する必要がある。

3. 音楽学科

(a)現状

AO 入試においては複数の面談を実施して、入学希望者の学習意欲等の把握に努めている。推薦、一般入試においては、音楽実技テストを行い入学前の学習成果を把握すると同時に、出身学校等の推薦書を元に学習意欲等を把握している。23年度よりは、音楽学科の学生募集停止を決定したため、入学試験は行わない。

(b)課題

—

基準Ⅱ-A-4 学習成果の査定(アセスメント)は明確である

1. 生活科学学科

(a)現状

生活科学学科の各専攻で設定している教育課程の学習成果は、成績評価をもって表している。客観的な成果の一部は、生活科学に関わる免許・資格の取得者数で具体的に示されている、これらの免許や資格取得率は2年間でいずれも高率であり、学習成果の達

成が一定期間で可能であることを示している。また就職率も高く社会的にも認められている。

(b)課題

平成22年度の就職率が専攻によっては低下しているので、今後就職課と教員が一体となった指導強化が課題である。

(1)生活環境専攻

(a)現状

本専攻で得るべき専門分野の学習成果は「基礎的能力」、「専門的能力」に分けられる。

「基礎的能力」として、①総合的なデザイン知識、②表現力、創造力、③IT を使った造形力、描写力を学ぶこととしており、具体的には1年次前期で手作業による緻密な作業を習得後、後期にはデザイン業界で定番とされている Photoshop や Illustrator の基礎を学ぶ教育課程を構築している。

「専門的能力」については、より女性らしいデザイン感覚をプラスした豊かな生活環境」を創造するための心構えが身についた人材を育成するため、2010 年度入学生より、学生と社会のニーズ層応えるべく、デザインの基礎、プロダクト、ビジュアル、ファッション、環境の各デザイン分野の教育課程を拡充した。

以上の段階的な学びのステップに基づく各授業科目について成績評価を厳格に行うことを学習成果の査定の基本としている。加えて、色彩能力検定、リビングスタイリスト、ファッションビジネス能力検定をはじめとする各種デザイン関連資格の取得、各種コンクールへのチャレンジも積極的に支援しており、これも学習成果の査定の一つとして位置づけている。また、良いものを見る機会、地域社会での実践機会を通じて、学習意欲、専門意識の向上にも力を入れており、デザイン研修旅行、地元地区のまちづくり活動への参加、美術館、ギャラリー、デザイン関連イベント等への参加奨励などに取り組んでいる。さらに、2年間の集大成として県内の公共美術館で2月に卒業制作展を開催しており、その企画、準備、実施プロセスへの主体的参画を通じて学習成果を高めている。

キャリア教育、就職支援に関して、インターンシップへの参加促進、コミュニケーション力の向上策としての面談ラリーの実施、ポートフォリオの作成指導などを行い、より一層学習成果を向上させている。

専門科目は、専門共通科目 20 コマ、4分野の専門科目:各11コマと、バランスよく開講されており、学年の偏りも少なく、1 回生前期 19 コマ、後期 17 コマ、2 回生前期:18 コマ、後期 17 コマと開講時期のバランスにも配慮しており、2年間で基礎から応用までの知識や技術を習得しやすくしてある。

基礎的資質、基礎的能力を向上した上で、専門的能力の向上策として、カリキュラムの充実、各種資格へのチャレンジ、地域からの学び、卒業制作への主体的取り組み、キャリア教育などを用意し、実質的な価値を付与している。さらに、推奨する資格試験は、国が認定する機関が実施するもので、いずれもそれぞれの分野で実質的な価値を有する。

学習成果の測定については、各科目の成績評価、各種コンクールの入賞、資格取得状況、充実した自己目標と評価「学生生活を送るために」、授業アンケートの「授業を通して得られた成果」、専門分野への就職率などで断片的には測定可能であるが、総合的な測定方法が確立しているとはいいがたい。

(b)課題

現時点において学習成果とその査定方法については十分とはいえないため、デザイン分野別、学びのステップ別に獲得すべき学習成果とその査定方法を明確にし、学生に意識付ける必要がある。

また、産業構造の変化や地域経済の低迷により、近年はせっかく身につけた専門能力

を活かせるデザイン関連分野への就職が困難な状況にあるため、教育内容や学習成果を社会や企業にもっとアピールして理解と周知を深める必要がある。

(2)生活情報専攻

(a)現状

2年間の学習の結果高度情報化社会で活躍出来る基本的な情報活用能力を得ている。例を挙げると、生活情報専攻の教育課程を履修すると取得可能な報処理士・ビジネス実務士の資格取得率が高い。その他、社会が求めている情報系・簿記系・英語系の資格を受験・合格する学生も多い。

(b)課題

キャリア意識の希薄な学生の増加、就職戦線の激化に対応したキャリア教育・キャリア支援に取り組む必要がある。

(3)食物栄養専攻

(a)現状

栄養士養成課程である本専攻では、栄養士法施行規則に定められた専門科目に準拠して開講されている科目を確実に履修している。学習の成果の査定(アセスメント)として、筆記試験のみならず課題提出や実験・実習におけるレポート、小テストなど、各科目でその特性に応じた成績評価をしている。さらに、2年次の12月に実施される栄養士養成施設協会による栄養士実力認定試験により、全国における評価ができる。他にはフードスペシャリスト資格取得率、栄養士免許取得率、栄養士としての就職率により、定量的に学習成果を査定(アセスメント)できる。平成22年度は栄養士実力認定試験におけるA判定の割合は63%、フードスペシャリスト資格取得率は84%である。

キャリア教育、就職支援に関しては、現職の管理栄養士を招聘して職場の実情や栄養士としての心構えについての講義により意識づけをしている。また、2週間の臨地実習で現場体験をすることにより、理解を深めている。さらに、本専攻の教員による面談ラシーを実施し、コミュニケーション力の向上に努めている。

栄養士免許取得率は100%、就職指導課との連携により就職率は100%であり、そのうち栄養士希望者は全員栄養士の職に就いている。

(b)課題

フードスペシャリスト資格取得率(資格試験合格率)、栄養士実力認定試験のA判定割合が低下していることから、補習等で関係科目をさらに強化して、質の低下を抑える。

2. 幼児教育学科

(a)現状

幼児の保育・教育に関する理論と実践を学び、幼児教育のエキスパートを養成している。学びの分野、子どもの育ち、保育者の役割・仕事、子どもの遊び(保育内容)、教育・福祉などであり、それらの学習成果の査定である単位認定が学生のしおりに明確に記されている。

教育職員免許法、児童福祉法施行規則等を中心に、教育課程は組まれている。幼稚園教諭、保育士としての専門性を体得し、資格獲得が可能である。2年間の教育課程の学習成果は、保育者としての知識、スキル、態度などが獲得され、保育士、幼稚園教諭2種等が取得可能である。さらに幼稚園教諭1種を取得希望などのときは、大学編入などにつながる。

幼稚園教諭2種、保育士として就職に就き、レクリエーション・インストラクター資格、リトミック資格は保育者として専門性をより高めるものである。学習成果は、幼稚園教諭、保育

士としての就職率で測定可能である。

(b)課題

専門職の就職率は100%に近い値なので、保育者としての質を高めることが今後の課題である。卒業研究ゼミなどでは、自ら「考え、表現し、行動できる」主体的な人材を育てている。「実習委員会」を設置し、現場の先生との「実習反省会」を開催し、現場の生の声を聞いて、フィードバックした授業を展開している。「非常勤懇話会」なども開催し、常勤・非常勤教員の連携をより密にし、学生のフォローに努めるためのさまざまな方策を展開しているが、より有意義な成果を得ることが今後の課題である。

3. 音楽学科

(a)現状

高度な演奏能力を身に付け、音楽指導者としての高い能力を身に付ける演奏コース、幅広い音楽的教養と、福祉、教育・心理・医療の知識を身に付け、音楽療法士を目指す音楽療法コース、幅広い音楽教養とデジタル音楽の知識を身に付け、商業音楽のスペシャリストを目指すデジタル音楽創作コースの3コースを設け、地域社会の音楽文化を創造することの出来る人材の養成に努力しており、卒業生の多くが地域の音楽リーダーとして活躍している。個々の学生の基礎能力にはバラツキがあるが、夫々の2年間の目標を設けて十分な学習成果が上がるよう厳格な指導体制で臨んでおり、音楽コンクール入賞者、音楽検定合格者、学位取得者などの学習成果を得ている。

(b)課題

平成23年度よりの学生募集を停止し、今年度末を持って音楽学科本科は廃止となるが、音楽コンクール入賞者、音楽検定合格者、学位取得者などの学習成果を十分に挙げるよう今後も努力をする。

表Ⅱ-A-10 教養科目の単位認定の状況(2010年度)

科目 の 種類	授業科目名	授業 形態	履修 人員	主な単位 認定の 方法	単位 取得率 %	最終の評価 (%)			
						A	B	C	不可
教 養 科 目	人間と仏教Ⅰ	講義	284	筆記試験	95.8	35.6	31.3	28.9	4.2
	人間と仏教Ⅱ ★	演習	293	課題提出	0.0	単位認定科目(ABC評価なし)			
	人間と哲学	講義	—	—	—	—	—	—	—
	人間と文学 ★	講義	36	試験・課題	—	72.2	27.8	0.0	0.0
	人間と教育	講義	—	—	—	—	—	—	—
	行動と心理 ☆	講義	70	筆記試験	95.7	34.3	27.1	34.3	4.3
	ヒトの生物学	講義	10	筆記試験	80.0	40.0	30.0	10.0	20.0
	環境の化学 ☆	講義	5	筆記試験	100.0	60.0	40.0	0.0	0.0
	変動する社会 ☆	講義	85	筆記試験	81.2	37.6	24.7	18.8	18.8
	日本の憲法	講義	109	課題提出	99.1	88.1	11.0	0.0	0.9
	日本の文化	講義	55	筆記試験	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	昭和の歴史	講義	—	—	—	—	—	—	—
	教養基礎演習	演習	261	筆記試験	98.1	59.8	27.2	11.1	1.9
	運動と健康 ★	講義	123	筆記試験	88.6	25.2	18.7	44.7	11.4
	スポーツ実技 ★	実習	144	実技試験	100.0	21.5	75.7	2.8	0.0
	英語	演習	93	筆記試験	97.8	28.0	21.5	48.4	2.2
	ドイツ語	演習	21	筆記試験	76.2	23.8	14.3	38.1	23.8
	中国語	演習	53	筆記試験	92.5	47.2	34.0	11.3	7.5
	フランス語	講義	—	—	—	—	—	—	—
	英語会話Ⅰ ★	演習	230	筆記試験	99.1	34.3	50.0	14.8	0.9
	英語会話Ⅱ ☆	演習	7	筆記試験	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	英語表現Ⅰ	演習	4	筆記試験	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	英語表現Ⅱ ☆	演習	8	筆記試験	100.0	62.5	37.5	0.0	0.0
	比較文化 ★	講義	0	課題提出	—	—	—	—	—
	国際理解 ★	演習	0	課題提出	—	—	—	—	—
	情報メディア入門	講義	200	課題提出	97.5	76.0	16.5	5.0	2.5
	野外運動Ⅰ	演習	0	実技試験	—	—	—	—	—
	野外運動Ⅱ ★	演習	0	実技試験	—	—	—	—	—

・数値は小数点第2位を四捨五入したもの。

・履修人員の中には、再履修生を含む。

表Ⅱ-A-11-1 生活科学学科（生活環境専攻1回生）の単位認定の状況(2010年度)

科目の種類	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得率 %	最終の評価 (%)			
						A	B	C	不可
専門科目	生活科学論	講義	35	筆記試験	100.0	48.6	28.6	22.9	0.0
	衣生活論	講義	33	課題提出	100.0	39.4	42.4	18.2	0.0
	住生活論	講義	35	筆記試験	97.1	17.1	34.3	45.7	2.9
	人間関係論	講義	33	筆記試験	84.8	33.3	39.4	12.1	15.2
	生活環境論	講義	35	作品提出	97.1	85.7	11.4	0.0	2.9
	色彩学Ⅰ	演習	35	作品提出	97.1	11.4	62.9	22.9	2.9
	デッサンⅠ	演習	35	作品提出	100.0	34.3	54.3	11.4	0.0
	デッサンⅡ	演習	31	作品提出	96.8	32.3	32.3	32.3	3.2
	ベーシックデザインⅠ	演習	34	作品提出	100.0	32.4	55.9	11.8	0.0
	ベーシックデザインⅡ	演習	34	作品提出	97.1	11.8	70.6	14.7	2.9
	ベーシックデザインⅢ	演習	34	作品提出	97.1	67.6	29.4	0.0	2.9
	グラフィックデザインⅠ	演習	34	作品提出	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	ファッションデザインⅠ	演習	9	作品提出	66.7	44.4	22.2	0.0	33.3
	生活造形Ⅰ	演習	27	作品提出	96.3	33.3	55.6	7.4	3.7
	生活造形Ⅱ	演習	19	作品提出	89.5	42.1	47.4	0.0	10.5
	地域環境論	講義	35	課題提出	100.0	17.1	37.1	45.7	0.0
	環境デザイン概論	講義	22	課題提出	95.5	9.1	45.5	40.9	4.5
	インテリアデザイン	講義	29	作品提出	100.0	65.5	27.6	6.9	0.0
	すまいの計画	講義	22	課題提出	95.5	13.6	40.9	40.9	4.5
	住環境論	講義	27	筆記試験	96.3	33.3	37.0	25.9	3.7

・数値は小数点第2位を四捨五入したもの。

・履修人員の中には、再履修生を含む。

表Ⅱ-A-11-2 生活科学学科（生活環境専攻2回生）の単位認定の状況(2010年度)

科目の種類	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得率 %	最終の評価 (%)			
						A	B	C	不可
専門科目	食生活論 ☆	講義	36	課題提出	100.0	22.2	36.1	41.7	0.0
	生活経営学 ☆	講義	11	課題提出	90.9	27.3	18.2	45.5	9.1
	保育学 ☆	講義	12	筆記試験	91.7	41.7	25.0	25.0	8.3
	生活造形Ⅱ ☆	演習	26	作品提出	96.2	46.2	26.9	23.1	3.8
	クラフトデザインⅠ ☆	演習	29	作品提出	100.0	27.6	58.6	13.8	0.0
	クラフトデザインⅡ ☆	演習	11	作品提出	81.8	45.5	27.3	9.1	18.2
	グラフィックデザインⅠ ☆	演習	33	作品提出	100.0	42.4	48.5	9.1	0.0
	グラフィックデザインⅡ ☆	演習	18	作品提出	100.0	61.1	38.9	0.0	0.0
	プロダクトデザインⅠ ☆	演習	24	作品提出	83.3	29.2	50.0	4.2	16.7
	プロダクトデザインⅡ ☆	演習	12	作品提出	100.0	25.0	58.3	16.7	0.0
	環境デザイン ☆	講義	11	課題提出	90.9	0.0	18.2	72.7	9.1
	インテリアプランニング ☆	演習	25	課題提出	96.0	84.0	12.0	0.0	4.0
	インテリア設計 ☆	演習	9	作品提出	100.0	44.4	11.1	44.4	0.0
	ファッションデザイン ☆	演習	11	作品提出	100.0	63.6	36.4	0.0	0.0
	消費環境論 ☆	講義	3	作品提出	100.0	66.7	33.3	0.0	0.0
	環境色彩論 ☆	講義	33	筆記試験	93.9	18.2	30.3	45.5	6.1
	住環境と法 ☆	講義	8	課題提出	75.0	0.0	25.0	50.0	25.0
	生活情報処理 ☆	演習	19	作品提出	84.2	15.8	36.8	31.6	15.8
	演習Ⅱ ☆	演習	36	作品提出	97.2	47.2	41.7	8.3	2.8
	卒業研究 ☆	演習	36	研究報告	97.2	52.8	36.1	8.3	2.8

・数値は小数点第2位を四捨五入したもの。

・履修人員の中には、再履修生を含む。

表Ⅱ-A-12 生活科学学科（生活情報専攻）の単位認定の状況(2010年度)

科目 の 種類	授業科目名	授業 形態	履修 人員	主な単位 認定の方法	単位 取得率 %	最終の評価 (%)			
						A	B	C	不可
専 門 科 目	生活科学論	講義	77	筆記試験, レポート	100.0	53.2	31.2	15.6	0.0
	衣生活論	講義	76	筆記試験, 課題	100.0	22.4	53.9	23.7	0.0
	食生活論	講義	54	筆記試験, レポート	83.3	18.5	44.4	20.4	16.7
	住生活論	講義	75	筆記試験, 課題	98.7	22.7	49.3	26.7	1.3
	生活経営学 ☆	講義	61	レポート	90.2	47.5	21.3	21.3	9.8
	保育学	講義	90	筆記試験	98.9	65.6	23.3	10.0	1.1
	人間関係論	講義	73	レポート, 筆記試験	100.0	39.7	32.9	27.4	0.0
	生活情報論	講義	93	筆記試験, 課題	100.0	21.5	41.9	36.6	0.0
	情報システムⅠ	講義	79	筆記試験, レポート	94.9	21.5	22.8	50.6	5.1
	情報システム演習Ⅰ	演習	76	筆記試験, 課題	100.0	38.2	31.6	30.3	0.0
	情報システムⅡ	講義	76	筆記試験, レポート	100.0	21.1	27.6	51.3	0.0
	情報システム演習Ⅱ	演習	76	課題	98.7	44.7	36.8	17.1	1.3
	情報ネットワーク	講義	15	筆記試験, 課題	86.7	20.0	26.7	40.0	13.3
	情報メディア	講義	43	課題, レポート	100.0	65.1	20.9	14.0	0.0
	情報表現法	講義	49	レポート	100.0	36.7	51.0	12.2	0.0
	情報管理	講義	65	筆記試験, レポート	98.5	64.6	30.8	3.1	1.5
	情報数学 ☆	講義	55	筆記試験, 課題, レポート	92.7	67.3	21.8	3.6	7.3
	情報処理演習	演習	76	筆記試験, 課題, 実技試験	100.0	36.8	35.5	27.6	0.0
	基礎プログラミングⅠ ☆	演習	93	実技試験	100.0	52.7	29.0	18.3	0.0
	応用プログラミングⅠ ☆	演習	80	課題	73.8	30.0	15.0	28.8	26.3
	基礎プログラミングⅡ ☆	演習	32	実技試験, 課題, レポート	90.6	71.9	6.3	12.5	9.4
	応用プログラミングⅡ ☆	演習	33	筆記試験, 課題	100.0	30.3	48.5	21.2	0.0
	文章・言語表現 ☆	講義	91	筆記試験, 課題	96.7	28.6	45.1	23.1	3.3
	文書処理演習	演習	76	筆記試験, 課題	100.0	75.0	21.1	3.9	0.0
	コミュニケーション演習	演習	8	筆記試験, 実技試験	87.5	75.0	12.5	0.0	12.5
	プレゼンテーション演習 ☆	演習	82	実技試験, 課題, 筆記試験	100.0	59.8	24.4	15.9	0.0
	トクメンテーション演習 ☆	演習	60	筆記試験, レポート	100.0	76.7	16.7	6.7	0.0
	マルチメディア演習Ⅰ	演習	65	課題, レポート, 筆記試験	98.5	32.3	33.8	32.3	1.5
	マルチメディア演習Ⅱ	演習	8	筆記試験, レポート, 実技試験	100.0	62.5	12.5	25.0	0.0
	生活会計学Ⅰ	講義	75	筆記試験, 課題	93.3	24.0	14.7	54.7	6.7
	生活会計学演習Ⅰ	演習	73	筆記試験, 課題	94.5	32.9	27.4	34.2	5.5
	生活会計学Ⅱ ☆	講義	12	筆記試験, 課題	100.0	83.3	8.3	8.3	0.0
	生活会計学演習Ⅱ ☆	演習	30	筆記試験, 課題	63.3	26.7	23.3	13.3	36.7
	生活商品学 ☆	講義	85	筆記試験	96.5	32.9	34.1	29.4	3.5
	生活管理	演習	66	レポート, 実技試験	100.0	31.8	45.5	22.7	0.0
	事務管理 ☆	講義	76	筆記試験	93.4	14.5	28.9	50.0	6.6
	演習Ⅰ ☆	講義	51	筆記試験, 実技試験	100.0	51.0	41.2	7.8	0.0
	演習Ⅱ ☆	講義	93	課題, 実技試験	100.0	88.2	10.8	1.1	0.0
	卒業研究 ☆	講義	93	課題, 実技試験, レポート	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	ビジネス実務総論 ☆	講義	76	筆記試験, レポート	97.4	46.1	21.1	30.3	2.6
	ビジネス実務演習 ★	演習	86	筆記試験	96.5	34.9	31.4	30.2	3.5

・数値は小数点第2位を四捨五入したもの。

・履修人員の中には、再履修生を含む。

表Ⅱ-A-13 生活科学学科（食物栄養専攻）の単位認定の状況(2010年度)

科目の種類	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得率 %	最終の評価 (%)			
						A	B	C	不可
専 門 科 目	生活科学論	講義	45	小テスト,課題	100.0	51.1	26.7	22.2	0.0
	衣生活論	講義	45	筆記試験,課題	100.0	26.7	44.4	28.9	0.0
	食生活論	講義	45	筆記試験,課題	100.0	22.2	48.9	28.9	0.0
	住生活論 ☆	講義	6	筆記試験,課題	66.7	33.3	16.7	16.7	33.3
	生活経営学 ☆	講義	0		—	—	—	—	—
	保育学	講義	45	筆記試験	100.0	86.7	8.9	4.4	0.0
	人間関係論	講義	45	小テスト,レポート	100.0	51.1	35.6	13.3	0.0
	食品学総論	講義	45	筆記試験	100.0	37.8	22.2	40.0	0.0
	食品学各論	講義	45	筆記試験	100.0	35.6	40.0	24.4	0.0
	食品化学実験Ⅰ	実習	45	筆記試験,レポート	97.8	37.8	31.1	28.9	2.2
	食品化学実験Ⅱ	実習	45	筆記試験,レポート	95.6	66.7	20.0	8.9	4.4
	食品加工学	講義	45	筆記試験,レポート	95.6	17.8	17.8	60.0	4.4
	食品加工実習 ☆	実習	40	筆記試験	100.0	12.5	87.5	0.0	0.0
	栄養学総論	講義	45	筆記試験	100.0	55.6	31.1	13.3	0.0
	栄養学各論	講義	45	筆記試験,レポート	95.6	8.9	42.2	44.4	4.4
	栄養学実習	実習	48	筆記試験,課題	95.8	50.0	14.6	31.3	4.2
	臨床栄養学 ☆	講義	41	筆記試験,レポート	100.0	85.4	4.9	9.8	0.0
	臨床栄養学各論 ☆	講義	41	筆記試験	100.0	82.9	17.1	0.0	0.0
	臨床栄養学実習 ☆	実習	40	筆記試験,課題	100.0	57.5	20.0	22.5	0.0
	公衆栄養学	講義	45	筆記試験	100.0	42.2	20.0	37.8	0.0
	調理学	講義	45	筆記試験	97.8	24.4	37.8	35.6	2.2
	調理学実習Ⅰ	実習	45	筆記試験,レポート	100.0	42.2	42.2	15.6	0.0
	調理学実習Ⅱ ☆	実習	40	筆記試験,レポート	100.0	30.0	40.0	30.0	0.0
	食品衛生学	講義	45	筆記試験,レポート	100.0	15.6	37.8	46.7	0.0
	食品衛生学実験	実習	45	レポート,筆記試験	100.0	31.1	51.1	17.8	0.0
	食品検査法	演習	43	筆記試験,レポート	100.0	27.9	37.2	34.9	0.0
	公衆衛生学 ☆	講義	41	筆記試験	100.0	65.9	22.0	12.2	0.0
	公衆衛生学各論 ☆	講義	40	レポート	100.0	65.0	25.0	10.0	0.0
	栄養指導論Ⅰ	講義	45	筆記試験,小テスト	100.0	51.1	31.1	17.8	0.0
	栄養指導論Ⅱ ☆	演習	41	筆記試験,レポート	97.6	39.0	29.3	29.3	2.4
	栄養指導実習 ☆	実習	40	筆記試験,レポート	100.0	60.0	37.5	2.5	0.0
	給食管理	講義	45	筆記試験,レポート	100.0	26.7	46.7	26.7	0.0
	給食管理実習 ☆	実習	40	レポート	100.0	82.5	17.5	0.0	0.0
	解剖生理学実験 ☆	実習	40	筆記試験,レポート	100.0	27.5	30.0	42.5	0.0
	生化学Ⅰ ☆	講義	41	筆記試験,レポート	100.0	48.8	14.6	36.6	0.0
	生化学Ⅱ ☆	講義	41	筆記試験,レポート	97.6	48.8	19.5	29.3	2.4
	生化学実験 ☆	実習	40	筆記試験,レポート	100.0	42.5	32.5	25.0	0.0
	運動生理学 ☆	講義	41	筆記試験,レポート	97.6	29.3	31.7	36.6	2.4
	社会福祉 ☆	講義	41	筆記試験,レポート	97.6	9.8	41.5	46.3	2.4
	食料経済 ☆	講義	41	小テスト,レポート	100.0	65.9	34.1	0.0	0.0
	有機化学	講義	43	筆記試験,レポート	97.7	11.6	41.9	44.2	2.3
	栄養情報処理	演習	45	課題提出	100.0	55.6	24.4	20.0	0.0
	フードスペシャリスト論	講義	43	筆記試験	100.0	39.5	44.2	16.3	0.0
	フードコーディネーター論 ☆	講義	40	筆記試験,レポート	97.5	17.5	40.0	40.0	2.5
	学校食教育	講義	—	—	—	—	—	—	—
	演習Ⅰ ☆	演習	41	レポート	100.0	70.7	26.8	2.4	0.0
	卒業研究 ☆	演習	41	研究報告	97.6	90.2	7.3	0.0	2.4

・数値は小数点第2位を四捨五入したもの。

・履修人員の中には、再履修生を含む。

表Ⅱ-A-14 幼児教育学科の単位認定の状況(2010年度)

科目の種類	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得率 %	最終の評価 (%)			
						A	B	C	不可
専 門 科 目	社会福祉	講義	112	筆記試験、レポート	97.3	5.4	29.5	62.5	2.7
	社会福祉援助論 ☆	演習	110	レポート	99.1	55.5%	42.7%	0.9%	0.9%
	児童福祉	講義	110	筆記試験、レポート	97.3	30.9%	52.7%	13.6%	2.7%
	小児保健	講義	112	筆記試験	98.2	65.2%	17.9%	15.2%	1.8%
	小児保健実習	実習	110	試験、レポート	100.0	28.2%	38.2%	33.6%	0.0%
	精神保健 ☆	講義	111	筆記試験、課題	100.0	44.1%	47.7%	8.1%	0.0%
	小児栄養	演習	109	筆記試験、レポート	100.0	32.1%	31.2%	36.7%	0.0%
	家族援助論 ☆	講義	110	筆記試験、レポート	100.0	40.9%	39.1%	20.0%	0.0%
	音楽Ⅰ	演習	111	筆記・実技試験	96.4	22.5%	36.9%	36.9%	3.6%
	音楽Ⅱ ☆	演習	9	実技試験	100.0	55.6%	33.3%	11.1%	0.0%
	音楽(器楽Ⅰ)	演習	126	実技試験	76.2	0.8%	46.8%	28.6%	23.8%
	音楽(器楽Ⅱ) ☆	演習	92	実技試験	100.0	18.5%	80.4%	1.1%	0.0%
	図画工作	演習	109	作品評価	100.0	36.7%	59.6%	3.7%	0.0%
	体育Ⅰ ☆	演習	110	実技試験、レポート	100.0	69.1%	30.9%	0.0%	0.0%
	体育Ⅱ	演習	—	—	—	—	—	—	—
	国語 ☆	講義	110	筆記試験	100.0	33.6%	39.1%	27.3%	0.0%
	教育原理	講義	110	ノート、レポート	98.2	37.3%	44.5%	16.4%	1.8%
	教育社会学 ☆	講義	109	ノート、レポート	100.0	21.1%	59.6%	19.3%	0.0%
	保育原理Ⅰ ☆	講義	111	ノート、レポート	100.0	29.7%	64.0%	6.3%	0.0%
	保育原理Ⅱ ☆	講義	10	発表	100.0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	養護原理Ⅰ	講義	109	筆記試験	100.0	54.1%	40.4%	5.5%	0.0%
	養護原理Ⅱ ☆	講義	0	課題発表	—	—	—	—	—
	教育心理学	講義	110	筆記試験	99.1	40.0%	37.3%	21.8%	0.9%
	発達心理学Ⅰ	講義	110	筆記試験	99.1	35.5%	35.5%	28.2%	0.9%
	発達心理学Ⅱ	講義	109	筆記試験	100.0	33.9%	41.3%	24.8%	0.0%
	発達心理学Ⅲ ☆	演習	30	筆記試験、発表	96.7	66.7%	30.0%	0.0%	3.3%
	臨床心理学 ☆	演習	110	筆記試験、課題	99.1	51.8%	36.4%	10.9%	0.9%
	教育の方法と技術	講義	109	課題、レポート	100.0	46.8%	44.0%	9.2%	0.0%
	教育課程総論	講義	111	筆記試験、レポート	99.1	39.6%	22.5%	36.9%	0.9%
	保育内容総論	演習	110	実技試験、レポート	99.1	54.5%	34.5%	10.0%	0.9%
	保育内容研究ⅠA(健康Ⅰ)	演習	110	筆記試験、課題発表	99.1	39.1%	32.7%	27.3%	0.9%
	保育内容研究ⅠB(健康Ⅱ) ☆	演習	0	実技試験、レポート	—	—	—	—	—
	保育内容研究Ⅱ(人間関係)	演習	109	筆記試験、レポート	99.1	52.3%	28.4%	18.3%	0.9%
	保育内容研究Ⅲ(環境)	演習	109	筆記試験、レポート	100.0	33.0%	25.7%	41.3%	0.0%
	保育内容研究Ⅳ(言葉)	演習	110	発表、課題提出	99.1	42.7%	49.1%	7.3%	0.9%
	保育内容研究ⅤA(表現Ⅰ)	演習	110	実技試験、レポート	99.1	50.9%	48.2%	0.0%	0.9%
	保育内容研究ⅤB(表現Ⅱ)	演習	108	実技試験	100.0	38.0%	54.6%	7.4%	0.0%
	保育内容研究ⅤC(表現Ⅲ) ☆	演習	110	作品評価	100.0	40.9%	59.1%	0.0%	0.0%
	保育内容研究Ⅵ(子どもの文化)	講義	110	筆記試験、発表	93.6	29.1%	38.2%	26.4%	6.4%
	教育職の研究 ☆	講義	107	ノート、レポート	100.0	52.3%	36.4%	11.2%	0.0%
	乳児保育Ⅰ	演習	110	筆記試験、レポート	99.1	90.0%	7.3%	1.8%	0.9%
	乳児保育Ⅱ ☆	演習	45	レポート、小テスト	100.0	51.1%	37.8%	11.1%	0.0%
	障害児保育 ☆	演習	110	筆記試験、レポート	100.0	30.9%	40.0%	29.1%	0.0%
	児童文化 ☆	演習	35	レポート、実践発表	100.0	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	養護内容 ☆	演習	110	レポート	100.0	80.9%	12.7%	6.4%	0.0%
	保育総合演習 ☆	演習	110	レポート、発表	99.1	55.5%	39.1%	4.5%	0.9%
	教育実習Ⅰ ★	実習	109	実習評価表・ノート	100.0	50.5%	29.4%	20.2%	0.0%
	教育実習Ⅱ ★	実習	109	レポート	100.0	92.7%	7.3%	0.0%	0.0%
	保育実習Ⅰ ★	実習	110	実習評価表・ノート	99.1	80.9%	18.2%	0.0%	0.9%
	保育実習Ⅱ ☆	実習	109	実習評価表・ノート	100.0	65.1%	26.6%	8.3%	0.0%
	保育実習Ⅲ ☆	実習	1	実習評価表・ノート	0.0	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	卒業研究 ☆	演習	110	論文、レポート、作品	100.0	99.1%	0.9%	0.0%	0.0%
	レクリエーション理論 ☆	講義	30	筆記試験、レポート	100.0	40.0%	33.3%	26.7%	0.0%
	レクリエーション実技 ☆	実習	30	実技試験、レポート	96.7	86.7%	10.0%	0.0%	3.3%
	レクリエーション現場実習 ☆	実習	30	レポート	100.0	63.3%	36.7%	0.0%	0.0%

- ・数値は小数点第2位を四捨五入したもの。
- ・履修人員の中には、再履修生を含む。

表Ⅱ-A-15 音楽学科の単位認定の状況(2010年度)

科目の種類	授業科目名	授業形態	履修人員	主な単位認定の方法	単位取得率 %	最終の評価 (%)			
						A	B	C	不可
専門科目	音楽通論	講義	11	筆記試験	90.9	54.5	36.4	0.0	9.1
	音楽理論	講義	10	筆記試験	90.0	60.0	10.0	20.0	10.0
	作編曲法 ☆	講義	9	筆記試験	88.9	33.3	44.4	11.1	11.1
	和声学Ⅰ	講義	11	筆記試験	90.9	54.5	36.4	0.0	9.1
	和声学Ⅱ	講義	9	筆記試験	88.9	55.6	22.2	11.1	11.1
	応用和声 ☆	講義	12	筆記試験	100.0	41.7	33.3	25.0	0.0
	音楽史Ⅰ	講義	11	筆記試験	90.9	63.6	9.1	18.2	9.1
	音楽史Ⅱ	講義	9	筆記試験	66.7	55.6	11.1	0.0	33.3
	楽式論	講義	10	筆記試験	60.0	50.0	10.0	0.0	40.0
	日本伝統音楽演習 ☆	演習	8	筆記試験	87.5	37.5	50.0	0.0	12.5
	音楽文化Ⅰ	演習	12	レポート	75.0	66.7	8.3	0.0	25.0
	音楽文化Ⅱ ☆	演習	10	レポート	100.0	20.0	30.0	50.0	0.0
	ソルフェージュⅠ	演習	11	実技試験	90.9	36.4	9.1	45.5	9.1
	ソルフェージュⅡ	演習	11	実技試験	81.8	36.4	18.2	27.3	18.2
	ソルフェージュⅢ ☆	演習	12	実技試験	100.0	41.7	33.3	25.0	0.0
	ソルフェージュⅣ ☆	演習	7	実技試験	100.0	14.3	71.4	14.3	0.0
	学内演奏Ⅰ	演習	12	演奏発表	91.7	75.0	8.3	8.3	8.3
	学内演奏Ⅱ ☆	演習	10	演奏発表	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	学外演奏実践Ⅰ	演習	12	演奏発表	83.3	58.3	16.7	8.3	16.7
	学外演奏実践Ⅱ ☆	演習	10	演奏発表	100.0	60.0	20.0	20.0	0.0
	合唱Ⅰ	演習	11	演奏発表	90.9	54.5	18.2	18.2	9.1
	合唱Ⅱ	演習	11	演奏発表	81.8	54.5	18.2	9.1	18.2
	合唱Ⅲ ☆	演習	12	演奏発表	100.0	33.3	25.0	41.7	0.0
	合唱Ⅳ ☆	演習	11	演奏発表	100.0	63.6	0.0	36.4	0.0
	幼児音楽演習 ☆	演習	7	筆記試験	100.0	85.7	14.3	0.0	0.0
	ピアノアンサンブルⅠ ☆	演習	4	実技試験	100.0	25.0	75.0	0.0	0.0
	ピアノアンサンブルⅡ ☆	演習	4	実技試験	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	室内楽基礎演習 ☆	演習	5	実技試験	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	室内楽研究 ☆	演習	5	実技試験	80.0	60.0	20.0	0.0	20.0
	電子音楽研究 ☆	演習	1	実技試験	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	ポピュラー音楽演習 ☆	演習	1	実技試験	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	歌曲基礎演習 ☆	演習	0	実技試験	—	—	—	—	—
	歌曲研究 ☆	演習	0	実技試験	—	—	—	—	—
	音響基礎演習	演習	1	実技試験	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	音響楽実践	演習	1	実技試験	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	音楽心理学 ☆	講義	5	レポート	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	主科実技Ⅰ	実習	10	実技試験	100.0	0.0	80.0	20.0	0.0
	主科実技Ⅱ	実習	9	実技試験	88.9	22.2	44.4	22.2	11.1
	主科実技Ⅲ ☆	実習	10	実技試験	100.0	30.0	70.0	0.0	0.0
	主科実技Ⅳ ☆	実習	10	実技試験	90.0	30.0	40.0	20.0	10.0
	デジタルパフォーマンスⅠ	実習	0	実技試験	—	—	—	—	—
	デジタルパフォーマンスⅡ	実習	0	実技試験	—	—	—	—	—
	デジタルパフォーマンスⅢ	実習	1	実技試験	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	デジタルパフォーマンスⅣ	実習	1	実技試験	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	音楽療法概論Ⅰ	講義	10	レポート	100.0	60.0	10.0	30.0	0.0
	音楽療法概論Ⅱ ☆	講義	3	レポート	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	音楽療法基礎演習Ⅰ	演習	9	レポート	100.0	66.7	11.1	22.2	0.0
	音楽療法基礎演習Ⅱ	演習	6	レポート	83.3	83.3	0.0	0.0	16.7
	音楽療法実践Ⅰ	演習	1	レポート	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	音楽療法実践Ⅱ	演習	1	レポート	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	音楽療法各論	講義	1	レポート	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	音楽療法総合演習 ☆	演習	3	レポート	100.0	66.7	33.3	0.0	0.0
	音楽療法技法各論	演習	1	レポート	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	障害児音楽療法論	講義	1	レポート	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	副科鍵盤Ⅰ	演習	8	実技試験	100.0	62.5	37.5	0.0	0.0
	副科鍵盤Ⅱ	演習	8	実技試験	100.0	25.0	62.5	12.5	0.0
	副科鍵盤Ⅲ ☆	演習	8	実技試験	100.0	50.0	25.0	25.0	0.0
	副科鍵盤Ⅳ ☆	演習	8	実技試験	87.5	37.5	37.5	12.5	12.5
	副科声学Ⅰ	演習	8	実技試験	100.0	0.0	50.0	50.0	0.0
	副科声学Ⅱ	演習	7	実技試験	85.7	14.3	28.6	42.9	14.3
	副科声学Ⅲ ☆	演習	12	実技試験	100.0	25.0	50.0	25.0	0.0
	副科声学Ⅳ ☆	演習	12	実技試験	91.7	8.3	75.0	8.3	8.3
	副専楽器奏法Ⅰ	演習	11	実技試験	90.9	72.7	0.0	18.2	9.1
	副専楽器奏法Ⅱ	演習	10	実技試験	90.0	30.0	40.0	20.0	10.0
	合奏Ⅰ ☆	演習	12	演奏発表	100.0	41.7	41.7	16.7	0.0
	合奏Ⅱ ☆	演習	12	演奏発表	91.7	33.3	50.0	8.3	8.3
	音楽社会活動実践 ★	演習	12	演奏発表	91.7	50.0	41.7	0.0	8.3
	卒業研究 ☆	演習	12	演奏発表	91.7	33.3	50.0	8.3	8.3
	教育心理学	講義	10	筆記試験	100.0	80.0	10.0	10.0	0.0
	障害児保育	演習	0	筆記試験	—	—	—	—	—
	精神保健 ☆	講義	9	筆記試験	88.9	11.1	22.2	55.6	11.1
	社会福祉 ☆	講義	6	筆記試験	83.3	0.0	0.0	83.3	16.7
	公衆衛生学	講義	0	筆記試験	—	—	—	—	—
	養護原理Ⅰ	講義	9	筆記試験	88.9	55.6	11.1	22.2	11.1
	臨床心理学	演習	1	筆記試験	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	発達心理学Ⅰ	講義	11	筆記試験	100.0	36.4	27.3	36.4	0.0
	音楽療法実習Ⅰ ★	実習	3	実習成果	100.0	66.7	33.3	0.0	0.0
	レクリエーション理論	講義	6	筆記試験	83.3	83.3	0.0	0.0	16.7
	レクリエーション実技	実習	0	レポート	—	—	—	—	—
	レクリエーション現場実習	実習	0	実習成果	—	—	—	—	—

・数値は小数点第2位を四捨五入したものを示す。

・履修人員の中には、再履修生を含む。

表Ⅱ-A-16 専攻科（音楽専攻）の単位認定の状況（2010年度）

科目の 種類	授業科目名	授業 形態	履修 人員	主な単位 認定の 方法	単位 取得率	最終の評価 (%)			
					%	A	B	C	不可
専 門 科 目	作品研究特講Ⅰ	講義	8	課題提出	75.0	50.0	25.0	0.0	25.0
	作品研究特講Ⅱ ☆	講義	12	筆記試験	100.0	8.3	41.7	50.0	0.0
	楽式研究	講義	8	筆記試験	87.5	0.0	37.5	50.0	12.5
	作曲理論 ☆	講義	12	作品提出	100.0	8.3	83.3	8.3	0.0
	音楽史特講	講義	8	レポート	75.0	50.0	12.5	12.5	25.0
	日本音楽特講 ☆	講義	12	レポート	100.0	83.3	16.7	0.0	0.0
	演奏解釈論 ☆	講義	12	レポート	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	比較演奏論	講義	8	レポート	62.5	25.0	25.0	12.5	37.5
	演奏法研究Ⅰ	演習	8	レポート	62.5	12.5	0.0	50.0	37.5
	演奏法研究Ⅱ ☆	演習	12	レポート	100.0	33.3	50.0	16.7	0.0
	リート	演習	6	実技試験	100.0	66.7	16.7	16.7	0.0
	重唱	演習	4	実技試験	75.0	75.0	0.0	0.0	25.0
	オペラ研究 ☆	演習	0	実技試験	—	—	—	—	—
	重奏	演習	4	実技試験	100.0	75.0	0.0	25.0	0.0
	アンサンブル ☆	演習	12	実技試験	100.0	58.3	41.7	0.0	0.0
	即興演奏技法 ☆	演習	12	実技試験	91.7	25.0	33.3	33.3	8.3
	歌唱指導法	演習	8	実習成果	75.0	50.0	12.5	12.5	25.0
	音楽療法特論	講義	0	課題提出	—	—	—	—	—
	臨床音楽療法論	講義	0	レポート	—	—	—	—	—
	コーラス演習Ⅰ	演習	8	演奏発表	87.5	37.5	12.5	37.5	12.5
	コーラス演習Ⅱ ☆	演習	12	演奏発表	100.0	75.0	8.3	16.7	0.0
	演奏研究 ☆	演習	12	演奏発表	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	学外演奏Ⅰ	演習	8	演奏発表	87.5	50.0	0.0	37.5	12.5
	学外演奏Ⅱ ☆	演習	12	演奏発表	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	鍵盤楽器AⅠ	実習	4	実技試験	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	鍵盤楽器AⅡ	実習	5	実技試験	100.0	60.0	40.0	0.0	0.0
	鍵盤楽器AⅢ ☆	実習	8	実技試験	100.0	37.5	50.0	12.5	0.0
	鍵盤楽器AⅣ ☆	実習	8	実技試験	100.0	50.0	37.5	12.5	0.0
	管楽器AⅠ	実習	0	実技試験	—	—	—	—	—
	管楽器AⅡ	実習	0	実技試験	—	—	—	—	—
	管楽器AⅢ ☆	実習	6	実技試験	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	管楽器AⅣ ☆	実習	0	実技試験	—	—	—	—	—
	弦楽器AⅠ	実習	0	実技試験	—	—	—	—	—
	弦楽器AⅡ	実習	0	実技試験	—	—	—	—	—
	弦楽器AⅢ ☆	実習	1	実技試験	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	弦楽器AⅣ ☆	実習	1	実技試験	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	声楽AⅠ	実習	4	実技試験	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0
	声楽AⅡ	実習	4	実技試験	100.0	0.0	75.0	25.0	0.0
	声楽AⅢ ☆	実習	0	実技試験	—	—	—	—	—
	声楽AⅣ ☆	実習	0	実技試験	—	—	—	—	—
	声楽BⅠ	演習	4	実技試験	100.0	25.0	75.0	0.0	0.0
	声楽BⅡ ☆	演習	12	実技試験	100.0	41.7	58.3	0.0	0.0
	鍵盤楽器BⅠ	演習	6	実技試験	66.7	33.3	33.3	0.0	33.3
	鍵盤楽器BⅡ ☆	演習	4	実技試験	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	管弦合奏Ⅰ	演習	8	演奏発表	62.5	37.5	0.0	25.0	37.5
	管弦合奏Ⅱ ☆	演習	12	演奏発表	100.0	75.0	8.3	16.7	0.0
	ヨーロッパの近代美術	講義	8	筆記試験	75.0	25.0	50.0	0.0	25.0
	基礎イタリア語	演習	8	筆記試験	62.5	50.0	0.0	12.5	37.5
	音楽表現研究 ☆	講義	12	課題提出	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	演奏特修	演習	8	演奏発表	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	修了演奏 ☆	演習	12	演奏発表	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	教育原理 ☆	講義	0	筆記試験	—	—	—	—	—
	小児保健	講義	0	筆記試験	—	—	—	—	—
	発達心理学Ⅱ	演習	0	筆記試験	—	—	—	—	—
	発達心理学Ⅲ ☆	演習	0	筆記試験	—	—	—	—	—
	音楽療法実習Ⅱ	実習	0	実習成果	—	—	—	—	—

・数値は小数点第2位を四捨五入したもの。

・履修人員の中には、再履修生を含む。

表Ⅱ-A-17 専攻科（食物栄養専攻）の単位認定の状況(2010年度)

科目 の 種類	授業科目名	授業 形態	履修 人員	主な単位 認定の 方法	単位 取得率 %	最終の評価 (%)			
						A	B	C	不可
	栄養学特論Ⅲ ☆	講義	8		100.0	12.5	75.0	12.5	0.0
	栄養学実験 ☆	実習	3		66.7	66.7	0.0	0.0	33.3
	病理学特論Ⅰ ☆	講義	9		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	病理学特論Ⅱ ☆	講義	9		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	食品学特論Ⅱ ☆	講義	9		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	調理科学演習 ☆	演習	8		100.0	87.5	12.5	0.0	0.0
	臨床栄養学実習Ⅰ ☆	実習	8		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	公衆栄養学特論Ⅱ ☆	講義	9		88.9	0.0	77.8	11.1	11.1
	公衆栄養学実習 ☆	実習	8		100.0	87.5	12.5	0.0	0.0
	公衆衛生学特論Ⅱ ☆	講義	9		100.0	77.8	11.1	11.1	0.0
	食品衛生学特論 ☆	講義	8		100.0	37.5	62.5	0.0	0.0
	栄養教育演習 ☆	演習	8		100.0	87.5	0.0	12.5	0.0
	特別研究 ☆	演習	8		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	生命科学特論Ⅱ ☆	講義	8		100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	臨床心理学特論 ☆	講義	9		100.0	55.6	44.4	0.0	0.0
	社会福祉特論 ☆	講義	7		85.7	85.7	0.0	0.0	14.3
	生活環境特論 ☆	講義	6		100.0	33.3	66.7	0.0	0.0

・数値は小数点第 2 位を四捨五入した値

表Ⅱ-A-18 生活科学学科(生活環境専攻)の資格取得の状況

*: 調査中

色彩能力検定3級	H19	H20	H21	H22
受験対象者数	*	*	37	36
受験者数	*	*	29	30
受験率	*	*	78.4%	
合格者数	*	*	18	18
合格率	*	*	62.1%	60.0%
全国平均合格率	*	*	71.8%	
色彩能力検定2級	H19	H20	H21	H22
受験対象者数	*	*	33	34
受験者数	*	*	7	2
受験率	*	*	21.2%	
合格者数	*	*	4	1
合格率	*	*	57.1%	50.0%
全国平均合格率	*	*	58.2%	
※色彩検定全国合格率: http://www.aft.or.jp/index.htm				
福祉住環境コーディネーター3級	H19	H20	H21	H22
受験対象者数	*	*	36	27
受験者数	*	*	21	26
受験率	*	*	58.3%	96.3%
合格者数	*	*	13	4
合格率	*	*	61.9%	
全国平均合格率	*	*	68.5%	55.9%
※福祉住環境全国合格 http://www.kentei.org/fukushi/index.html#data				
リビングスタイリスト3級	H19	H20	H21	H22
受験対象者数	*	20	11	25
受験者数	*	18	*	21
受験率	*	90.0%	*	84.0%
合格者数	*	12	*	18
合格率	*	66.7%	*	85.7%
全国平均合格率	*	77.6%	75.5%	71.3%
※LBS全国合格率: http://www.lifestyle.or.jp/lis/outline.html#result				
ファッションビジネス能力検定3級	H19	H20	H21	H22
受験対象者数	*	*	*	43
受験者数	*	*	*	23
受験率	*	*	*	53.5%
合格者数	*	*	*	21
合格率	*	*	*	91.3%
全国平均合格率	*	*	72.2%	67.9%
※FB検定全国合格率: http://www.fashion-edu.jp/bis/bis.html				

表Ⅱ-A-19 生活科学学科(生活情報専攻)の資格取得の状況

	H18	H19	H20	H21	H22
卒業生数	103	87	97	99	93
情報処理士	取得者数	99	82	96	95
	取得率	96.1%	94.3%	99.0%	96.0%
ビジネス実務士	取得者数	92	33	58	58
	取得率	89.3%	37.9%	59.8%	58.6%

表Ⅱ-A-20 生活科学学科(食物栄養専攻)の資格取得の状況
栄養士免許

	H19	H20	H21	H22
卒業者数	53	54	48	40
免許取得者数	53	54	48	40
取得率%	100	100	100	100

認定栄養士実力試験

	H19	H20	H21	H22
受験者数	53	54	48	40
A判定者	43	49	39	25
A判定者率	81.1	90.7	81.3	62.5
仁愛短大平均(点)	40.2	43.9	42.7	40.8
全国大学平均(点)	36.7	40.8	38.7	38.7
全国短期大学平均(点)			34.5	34.8

フードスペシャリスト

	H19	H20	H21	H22
受験対象者数	53	54	48	41
受験数	37	37	33	37
合格者数	36	33	32	31
仁愛短大合格率	97.3	89.2	97.0	83.8
全国平均合格率	79.7	80.2	83.9	81.1

専攻科(食物栄養専攻)大学評価・学位授与機構試験合格

	H19	H20	H21	H22
合格者数	9	6	7	6
合 格 率	100%	75%	100%	75%

表Ⅱ-A-21 幼児教育学科 免許・資格取得者数

幼稚園教諭2種免許

	H19 年	H20 年	H21 年	H22 年
卒業者数	155 名	155 名	147 名	111 名
免許取得者数	147 名	151 名	139 名	106 名
取得率	95%	97%	95%	95%

保育士資格

卒業者数	155 名	155 名	147 名	111 名
資格取得者数	149 名	153 名	143 名	109 名
取得率	96%	99%	97%	98%

レクリエーションインストラクター

卒業者数	155 名	155 名	147 名	111 名
資格取得者数	20 名	49 名	40 名	29 名

幼稚園・保育園のためのリトミック2級

卒業者数	-	155 名	147 名	111 名
資格取得者数	-	138 名	138 名	102 名

表Ⅱ-A-22 音楽学科 受賞者数等

主なコンクール受賞者数

	H19	H20	H21	H22
個 人	10	13	8	5
団 体	0	1	2	0

《コンクール名》

福井県音楽コンクール、福井県新人オーディション、石川県フレッシュコンサートオーディション、全国アンサンブルコンテスト、中部合唱コンクール

専攻科(音楽専攻)大学評価・学位授与機構試験合格者

	H19	H20	H21	H22
合格者数	10	2	10	10
合 格 率	100%	100%	100%	100%

学外コンサート(本学主催)入場者総数

年度	H19	H20	H21	H22
入場者数	1,810	1,314	1,500	1,770

《学外コンサート》

定期演奏会、演奏旅行(サマーコンサート)、デジライブ
アンサンブルの楽しみ、2 台ピアノアンサンブルイコンサート、ボーカルコンサート

音楽療法士称号(1 種、2 種)取得者数

年度	H19	H20	H21	H22
2 種	9	6	6	3
1 種	0	0	2	0

音楽検定

	H19		H20		H21		H22	
	3級	2級	3級	2級	3級	2級	3級	2級
受験者数	—	—	31	1	10	1	10	0
合格者数	—	—	21	1	6	1	7	—
合格率	—	—	67.7%	50%	60%	100%	70%	—

19 年度は実施せず。22 年度は受験希望者が 0

基準Ⅱ-A-5 学生の卒業後評価への取り組みを行っている

(a)現状

卒業生の進路先からの評価について、毎年12月にアンケート調査を実施。前年の3月に卒業し、就業後1年6ヶ月位経過した卒業生を対象に就職先の201事業所(企業119社、幼稚園・保育園64園、施設18園)へ回答を依頼している。過去5年間の回収率も高く50%前後となっていて、記述の項目についても率直で誠意ある回答が得られている。(平成21年12月実施の回収率50.3%、平成22年12月同51.2%)

ちなみに、本学の卒業生への評価の中で、一般企業などへ就職した卒業生について、この3年間では仕事能力を含め勤務態度・責任感・向上心・協調性・誠実性の部分で高い評価を得ている。一方、指摘されている面では、主体性・創造性でやや劣っているとの回答があった。また、コミュニケーション能力についても、短大という面も含めて今後の課題として検討されなければならない点と考える。2年～3年後に飛躍が認められるという事業所訪問の際のダイレクトな声にも、また最初の入社試験の面接での評価も含め、入社当時の問題点として浮き彫りされていると言えよう。また、保育園・幼稚園などへ就職した卒業生についても、ほぼ同ような評価と思える中で、素直で明るい面は全体的に好評価を得る一方、受け身・指示待ち的ではなく積極性と行動力がより求められるとしている。そして、必要最低限のPC(ワード・エクセル)能力は身につけてほしいという意向が示されている。マナー・教養の面についても、一般企業、保育園・幼稚園の全体的評価は良好であるも、より向上を目指して努力してほしい旨の意向が見られる。

次に専門スタッフによる積極的な事業所訪問の展開については、一般企業等においては282社に及んだ。これらの結果及び評価については、各学科においてのカリキュラム検討の中で、バックデータとして活用している。尚、保育園・幼稚園の訪問については、毎年6月～7月にかけて集中して行い、その訪問数は約180事業所になる。(保育園約150・幼稚園約30)必要に応じての訪問数を合わせると200回以上となる。

さらに、これらの分析結果については、全学教授会時において報告、及び「就職指導連絡部会」の中で結果の説明を行い、課題についての検討を行いながら学習成果の点検に活用している。

(b)課題

アンケートの結果及び事業所訪問によるダイレクトな評価について、具体的な検討を進める必要があると考える。それは、全学教授会、各学科会議及び就職指導連絡部会、教員研修会などの中で報告を行い、共通の認識を持つ機会は得ているも、より具体的で前向きな検討の場が必要となっている。

早期化、厳選採用、4大生との競合が続く中、本学及び短期大学としての今後の存在意義また、新たな方向性に向けて社会にアピールすることを積極的に推し進めることが重要とされている。その為の就職支援活動のあり方がますます問われ、1人ひとりへのきめ細かな対応がこれまで以上に求められるものと考ええる。

本学の就職支援について再構築を目指して行きたい。

＜備付資料＞「仁愛女子短期大学卒業生に関するアンケート調査」
「本学出身者に対する受入企業の評価」

基準Ⅱ-B 学生支援

(a)要約

学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて、教員は講義概要で全ての科目の学習目標を明示し、学習内容・成果を向上させるために、授業に取り組んでいる。また、FD委員

会が中心となって準備と結果のデータ化をする体制をととのえた上で、全学的に、前期と後期に期末の授業評価アンケートを実施し、直接学生にフィードバックを行うとともに、評価結果については、各教員がデータ化された結果を分析し授業の改善に利用している。新たに今年度から、授業担当者による中間評価も実施しさらなる授業改善の努力を行っている。

組織的な対応として各学科では、非常勤講師との懇話会などの開催、また各専攻では専攻会議等で授業内容等を検討し、教員間の意思の疎通、協力体制を密にしている。また、クラスアドバイザーが面接などを通して学生の指導・助言を丁寧に行っている。

SD に関しては事務長が中心となり事務職員の業務に必要な研修会の実施及び情報共有のための連絡会を定期的に実施している。

附属図書館は学生の学習向上の支援として、情報検索指導、「リクエスト図書」制度、長期休暇と学外実習期間における特別貸出制度等を実施している。

全学的な組織である情報メディア教育支援室は、学内のコンピュータ設備を有効に利用するために、学内LANの活用、セキュリティにも配慮した教職員相互、教員－学生の情報共有のシステムを構築しており、各学科の学習成果の獲得に向けて学生の支援に努めている。

入学時及び各学期開始時には、学科全体でのガイダンスの後に専攻別にガイダンスを実施し、時間割・講義概要・学生のしおり等の印刷物に加えて、成績一覧表及び単位取得状況確認表を配布し、免許・資格等の説明及び成績・通算取得単位数の確認をさせ、単位数の少ない者・成績不振者に対してはクラスアドバイザーが個別指導等を行っている。また、学生部窓口においても、担当職員が常時学生の相談に応じるなど、全学挙げてのきめ細かい履修指導体制をとっている。学生の質的多様化に対応し基礎学力向上のため「教養基礎演習」を平成 15 年度から教養科目として1回生に開設している。基礎学力不足の学生には各教員が個別に指導を行っているのみであるが、資格取得のための補習授業については上位資格支援も含めて実施している。なお、音楽学科では、音楽基礎力の不足を補うために授業アシスタントによる授業前補習指導を行っている。各学科専攻においてはそれぞれの専門分野に配慮した個別指導や習熟度別授業を実施している。平成 22 年度からは、電子システム『学生カルテ』により、当該学科の履修状況による学生の動向を当該学科教員が情報を共有し把握することができるようになり、よりきめ細かな学習支援が可能となった。なお、留学生については現在在学生在がいないが、受入れ制度は設けている。

学生の生活支援のための教職員の組織として、クラスアドバイザー制度があり、各クラスに教員を配置し、学生の学習・生活・進路の支援にあたっている。また、学生生活課においては、課外活動(学生会活動・サークル活動・大学祭・他大学との交流等)の指導助言も行っている。学生食堂、売店は、学生にとってのより良い環境構築のため、学生ニーズの把握に努めている。宿舎が必要な学生に対しては学校指定マンションサンアベニュー森田への入居の斡旋を行い、年度末にはアンケート調査を行い居住環境の改善に努めている。

本学は車での通学者が多い事への配慮から、毎月1回は説明会及び申請受付を実施し、学内駐車場の申請を受け付け、交通安全教室(年2回)の開催している。また、駐輪場も学内に設置している。学生への経済的支援に関しては、日本学生支援機構奨学金や、本学独自の奨学金として、六葉奨学金、課外活動等奨学金、応急奨学金制度を設けている。

学生の健康管理は、保健室がケガ等に対する応急処置、健康診断、健康相談、AED講習会を実施し、メンタルヘルスケアやカウンセリングの体制として、学生相談室を設置している。学生相談室は、教職員の学生相談に対する意識の向上と、学内情報の共有化をはかるために毎年研修会を開催している。また、毎月1回学生生活課長・保健師・学生相談室長・カウンセラーが集まり、学生相談ミーティングを開催し、連携体制を強化してい

る。

学生生活に関して学生の意見や要望を聴取するために、毎年年度末に学生生活調査アンケートを行い、分析結果を次年度へ反映するようにしている。留学生は、入学が決定した時点で支援を検討している。社会人入学生に対しては、入学金半額、授業料 75% の減免措置がある。長期履修生に対しては、受け入れる体制は現段階では構築できていない。障がい者の受け入れに関しては、本学施設の一部では車椅子が通れない所などあるが、バリアフリー化等一通りの支援体制は整えている。

就職内定率低下の傾向が続き、「就職大氷河期」突入の懸念が高まる中、学生への就職支援については、面談による「個別対応」の徹底が本学の最も特色ある取り組みである。また、2010 年 4 月より専門スタッフ 1 名を増員し各企業・事業所訪問の徹底を図った。

当学卒業生の評価については、就職先企業へのアンケートを毎年実施し、「就職指導連絡部会」の中で全学的に情報共有と結果の検討を行っている。さらに、今年度は新たに「就活ハンドブック A5 版」を製作し、学生支援の更なる充実を行った。その他、夏休み期間中を利用し、資格取得のための各種講座(医療事務・ホームヘルパー・販売士)の開催、公務員試験対策講座をはじめ就職模擬試験の実施、就職ガイダンス時を利用した常識問題・適性検査も実施した。尚、インターンシップについては 20% 以上の参加を目標に積極参加を目指す。

入学者受け入れの方針については、募集要項及び入試ガイドに「本学の入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)」として、「本学の入学者受入方針」、「各学科の入学者受入方針」「入試制度ごとの入学者受入方針」を記載し、受験生に対して明確に示している。

受験の問い合わせには、入試広報室が窓口となるよう、パンフレットなどの刊行物には必ず問い合わせ先を明記している。全学的な組織として学生募集広報活動に関しては学生募集委員会を設置し、入試事務については、入試事務局を組織し、公正かつ正確な業務の実施に努めている。入試制度は、AO 入試、推薦入試、一般入試、大学センター試験利用入試、社会人入試、外国人入試を設けて、多様な選抜を行っている。入学手続者への情報提供としては、合格者には「入学手続のご案内」、入学手続者には、「ウォーミングアップ BOOK」を送付して入学後の学生生活及び入学までの準備についての情報提供を行い、入学予定者に対しては「入学生のみなさんへ」を送付している。また、入学式後に学科別ガイダンスを学生本人及び保護者に対して行い、翌日には、新入生オリエンテーションを 2 日間行っている。

(b)改善計画

教員へのフィードバックをスムーズにするために、教員対象のアンケート項目の再検討、より多くの非常勤教員に打ち合わせ会に参加していただくこと、教養課程に於ける各科目の目標を遂行するために責任者が必要であることなどが考えられる。また、附属図書館主催の「インターネットによる情報検索指導」の受講者数を増やすことがあげられる。

学習成果の獲得に向けた資源の有効活用については、蓄積された教育資産をさらに有効に活用するためのしくみ及び新たな情報環境をどのようにうまく教育の場に取り入れていくかが大きな課題である。

学生支援については毎年増えてきている質的多様な学生への対応及び基礎学力が不足している学生への補習が必要だと考える。

学生生活の支援については、学生生活調査アンケートなど学生の意見を反映させ、学生が安心して学生生活を送れるように、なお一層の改善、努力をして行きたい。

就職支援については更なる厳しい就職戦線にあって、情報提供の方法、事業所対策、就職試験対策などが課題としてあげられる。

学生募集においては、これまで同様受験生とのマッチングを図るため、入学者受け入れ方針の周知を行って行きたい。これに加え、本学で学びたいという意欲のある学生を募

集するため、入学後の教育課程や卒業後の進路についての周知にも力を入れたい。

基準Ⅱ-B-1 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用している

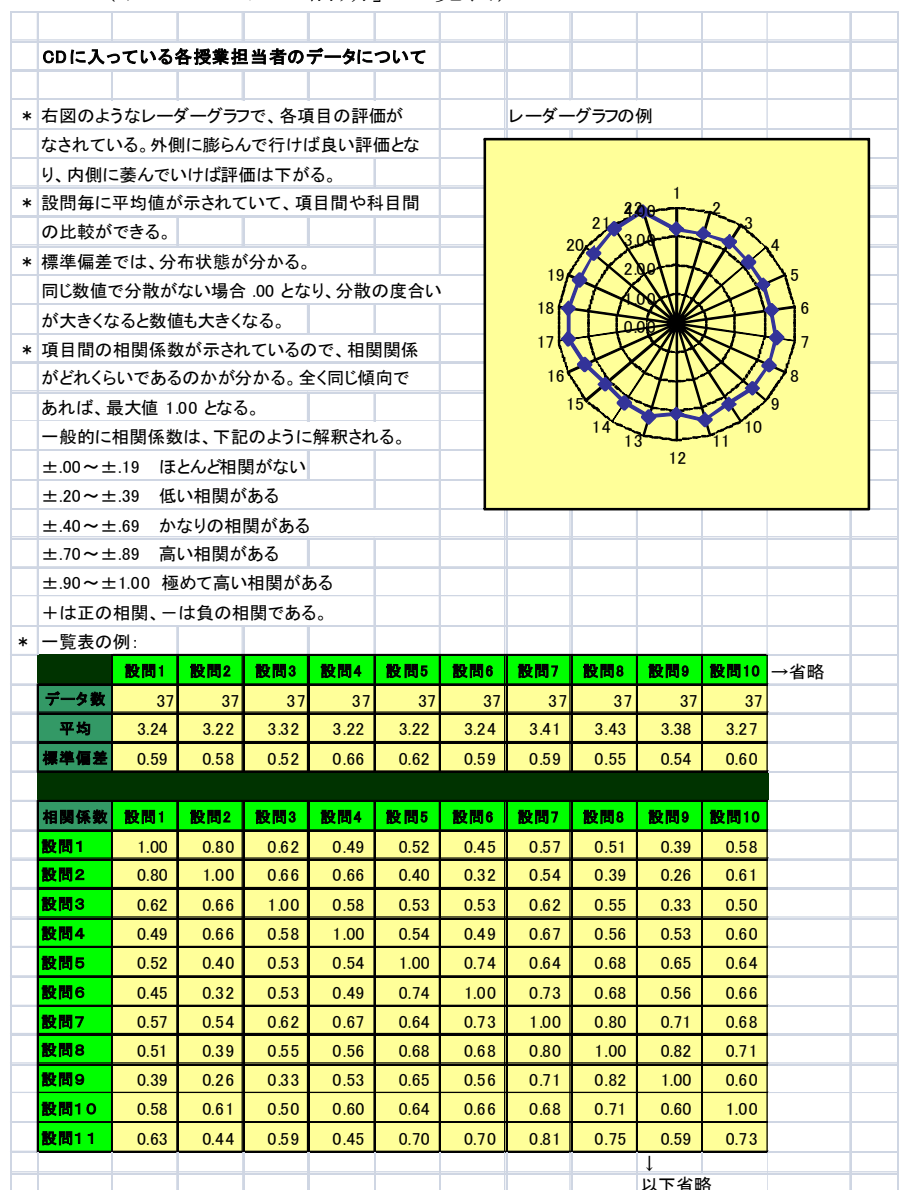
(1)FD活動

(a)現状

講義概要で全ての科目の学習目標を明示し、学科・専攻で学位授与の方針に沿う評価基準等について話し合い、横の連携を密にして、学習内容・成果を向上させてきている。学科、専攻毎には授業の工夫をし、資格取得や検定なども勧めている。また、全学的に、前期と後期に中間と期末の授業評価アンケートを実施し、その結果を実際に確認し、得られた授業評価に対し、説明等をおして直接学生にフィードバックを行っている。そして、分析したデータを通して教員自身にもフィードバックをしている。アンケートとフィードバック、全教員の公開授業、学内の研修会、学外での研修会等への参加を積極的に行っている。また学外研修の報告会も全学教授会後に全教員に対して行っている。

各学科では非常勤講師との懇話会等で、また各専攻では専攻会議等で授業改善や具体的な目的や目標等について研修会などをもち、検討し、教員間の意思の疎通、協力体制を密にしている。また、全教員が、クラスアドバイザー制を生かし、面接などを通して学生の指導・助言を行っている。

図Ⅱ-B-1 授業評価データの説明文と授業評価一覧表
(サンプルは「前期」一覧表)



(b)課題

教員へのフィードバックをしやすくするために、教員対象のアンケート項目を再検討する。

また、常勤・非常勤教員との相互の授業をスムーズにするために、より多くの非常勤教員に打ち合わせ会に参加して戴く必要がある。さらに、主に教養課程に於ける各科目の目標を遂行するために、教員間の連携が必要と考えられる。

表Ⅱ-B-1 授業評価一覧表（「前期」一覧表の例）

学年／専攻		平均/標準偏差	設問1	設問2	設問3	設問4	平均	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	平均	設問13	設問14	設問15	設問16	平均	設問17	設問18	設問19
2年生 生活環境	mean	3.47	3.44	3.51	3.52	3.49	3.40	3.43	3.63	3.50	3.61	3.61	3.51	3.34	3.50	3.40	3.50	3.43	3.58	3.48	3.56	3.36	3.51	
	sd	0.56	0.58	0.57	0.57	0.57	0.58	0.65	0.51	0.60	0.55	0.53	0.58	0.72	0.59	0.67	0.57	0.58	0.51	0.58	0.54	0.75	0.60	
2年情報メディア	mean	3.18	3.21	3.35	3.25	3.25	3.05	3.10	3.12	3.18	3.13	3.12	3.09	3.09	3.11	3.03	2.96	3.05	3.15	3.05	3.38	3.32	3.38	
	sd	0.60	0.57	0.56	0.60	0.58	0.70	0.67	0.66	0.65	0.68	0.63	0.66	0.67	0.67	0.74	0.76	0.71	0.63	0.71	0.60	0.65	0.59	
2年食物栄養	mean	3.23	3.37	3.40	3.26	3.32	3.27	3.34	3.37	3.46	3.46	3.37	3.33	3.24	3.36	3.48	3.38	3.37	3.51	3.44	3.58	3.51	3.61	
	sd	0.48	0.57	0.62	0.57	0.56	0.58	0.59	0.62	0.57	0.65	0.61	0.62	0.64	0.61	0.59	0.63	0.62	0.57	0.60	0.50	0.55	0.49	
2年幼児教育	mean	3.32	3.40	3.60	3.34	3.42	3.44	3.51	3.55	3.55	3.57	3.59	3.59	3.51	3.54	3.59	3.43	3.46	3.57	3.51	3.75	3.55	3.67	
	sd	0.61	0.64	0.54	0.66	0.61	0.61	0.61	0.61	0.61	0.61	0.59	0.59	0.63	0.61	0.58	0.66	0.63	0.60	0.62	0.46	0.68	0.55	
2年音楽	mean	2.63	2.56	3.13	2.44	2.69	2.88	2.94	2.69	3.06	2.94	2.88	3.25	3.00	2.96	2.67	2.60	2.67	2.73	2.67	3.14	3.00	3.00	
	sd	0.50	0.51	0.62	0.63	0.57	0.50	0.68	0.48	0.68	0.77	0.81	0.68	0.97	0.70	0.72	0.74	0.72	0.80	0.75	0.38	0.58	0.58	
2年	mean	3.26	3.33	3.48	3.30	3.34	3.28	3.34	3.37	3.40	3.40	3.39	3.37	3.32	3.36	3.37	3.26	3.30	3.42	3.34	3.56	3.43	3.53	
	sd	0.59	0.61	0.57	0.63	0.60	0.66	0.66	0.66	0.64	0.67	0.64	0.66	0.68	0.66	0.70	0.72	0.68	0.64	0.69	0.55	0.67	0.58	
1年生 生活環境	mean	3.09	3.21	3.40	3.02	3.18	3.13	3.12	3.16	3.20	3.15	3.26	3.14	3.20	3.17	3.19	3.12	3.16	3.24	3.18	3.58	3.29	3.44	
	sd	0.74	0.66	0.61	0.69	0.68	0.63	0.67	0.67	0.66	0.73	0.68	0.69	0.63	0.67	0.72	0.73	0.68	0.69	0.71	0.58	0.71	0.66	
1年情報メディア	mean	2.98	3.14	3.33	2.94	3.10	2.96	3.00	2.97	3.10	3.01	3.04	3.03	3.00	3.01	3.05	2.98	3.02	3.13	3.05	3.38	3.27	3.36	
	sd	0.72	0.66	0.67	0.75	0.70	0.78	0.77	0.78	0.75	0.86	0.76	0.83	0.73	0.78	0.81	0.80	0.78	0.75	0.79	0.71	0.77	0.69	
1年食物栄養	mean	2.94	3.17	3.26	2.91	3.07	2.99	3.07	2.99	3.16	3.05	3.12	2.88	3.01	3.03	3.25	3.06	3.04	3.15	3.13	3.41	3.18	3.39	
	sd	0.66	0.65	0.66	0.70	0.67	0.73	0.70	0.72	0.66	0.77	0.67	0.79	0.65	0.71	0.74	0.75	0.73	0.68	0.73	0.62	0.74	0.60	
1年幼児教育	mean	3.12	3.24	3.39	3.16	3.23	3.12	3.16	3.19	3.29	3.23	3.29	3.29	3.18	3.22	3.32	3.12	3.22	3.31	3.24	3.50	3.33	3.50	
	sd	0.62	0.63	0.58	0.66	0.62	0.71	0.70	0.69	0.64	0.70	0.66	0.68	0.68	0.68	0.69	0.77	0.69	0.65	0.70	0.61	0.67	0.60	
1年音楽	mean	3.05	3.05	3.38	3.00	3.12	3.00	2.95	3.14	3.10	3.19	3.10	3.33	3.05	3.11	3.10	2.95	3.00	3.14	3.05	3.00	3.00	3.00	
	sd	0.59	0.67	0.50	0.84	0.65	0.63	0.59	0.57	0.54	0.60	0.54	0.58	0.59	0.58	0.62	0.67	0.63	0.57	0.62	0.00	0.00	0.00	
1年	mean	3.05	3.20	3.35	3.04	3.16	3.06	3.10	3.10	3.21	3.13	3.19	3.13	3.11	3.13	3.22	3.07	3.13	3.22	3.16	3.47	3.27	3.43	
	sd	0.67	0.65	0.62	0.70	0.66	0.73	0.72	0.72	0.68	0.77	0.70	0.76	0.69	0.72	0.74	0.77	0.73	0.69	0.73	0.63	0.72	0.64	
全体	mean	3.14	3.26	3.41	3.16	3.24	3.16	3.20	3.22	3.30	3.25	3.28	3.24	3.20	3.23	3.29	3.16	3.21	3.31	3.24	3.51	3.34	3.47	
	sd	0.65	0.63	0.61	0.68	0.64	0.71	0.70	0.71	0.67	0.74	0.68	0.73	0.69	0.70	0.73	0.75	0.71	0.67	0.72	0.60	0.70	0.61	
meanは平均、sdは標準偏差																								

meanは平均、sdは標準偏差

表Ⅱ-B-2 過去3年間のFD活動

☆平成20年

- ・前期授業アンケート調査を行い、結果を各教員にフィードバック。
- ・後期授業アンケート調査を行い、結果を各教員にフィードバック。
- ・教員アンケート調査を行い、記録。
- ・FD講演会を実施。
- ・学外研修会に出席。
- ・Fレックス大学連携に参加。
- ・公開授業を実施。
- ・年度末に、記録としてのFD冊子を発行。

☆平成21年

- ・前期授業アンケート調査を行い、結果を各教員にフィードバック。
- ・後期授業アンケート調査を行い、結果を各教員にフィードバック。
- ・教員アンケート調査を行い、記録。
- ・FD 講演会を実施。
- ・学外研修会に出席。
- ・F レックス大学連携に参加(2年目)。
- ・公開授業を実施
- ・年度末に、記録・まとめとしての FD 冊子を発行。

☆平成22年

- ・前期中間アンケート調査(記述式)を行い、学生に担当教員からフィードバック。さらに、各学科・専攻で話し合い記録。
- ・前期授業アンケート調査を行い、結果を各教員にフィードバック。結果を各学科・専攻で話し合い記録。
- ・後期中間アンケート調査(記述式)を行い、学生に各担当教員からフィードバック。さらに、各学科・専攻で話し合い記録。
- ・後期授業アンケート調査を行い、結果を各教員にフィードバック。結果を各学科・専攻で話し合い記録。
- ・教員アンケート調査を行い、記録。結果を FD 冊子に掲載。
- ・FD 学内シンポジウム「私の授業の工夫」を実施(本学全教員と F レックス参加校の教員 5 名が参加)。
- ・学外研修会に出席。
- ・F レックス大学連携に参加(3年目)。
- ・公開授業週間(10/25-10/30)を設け全教員による公開授業を実施。撮影希望者の DVD 記録もあり。
- ・F レックス第 20 回研究会が本学・会議室で行われ、各高等教育機関に TV 会議式で配信される。テーマ:「学習評価・GPA の導入と学士力保証」講演者: 圓月勝博・同志社大教授。
- ・年度末に、記録・まとめとしての FD 冊子を発行。

(2)図書館

(a)現状

附属図書館は学生の入館者数及び貸出冊数の減少傾向がみられるので、学生への学習向上の支援として、インターネットによる情報検索指導(2 回生対象)、学生の希望する図書を購入する制度「リクエスト図書」、利便性の向上を図るため、長期休暇と学外実習期間における貸出冊数無制限・貸出期間延長している。

また、「学生にぜひ読んでほしい本」とそのコメントを教職員から募集しコーナーを設置して、学生の読書活動の推進を図っている。さらに附属図書館を身近に感じてもらえるよう音楽学科の協力を得て「図書館コンサート」を 5 回開催し、256 名の聴衆を得た。

(b)課題

附属図書館は、学生の読書活動を活性化し、図書館利用者数、図書貸出冊数の増加を図りたい。そのため次のことを行う。①教員に対してレポートの作成の際には図書利用を奨励してもらう。②講義概要(シラバス)に掲載されている参考図書等を収集し、より授業と連携した資料収集に努める。③「図書館利用講習会」を新規に開催し、図書館利用法の周知に努める。④「インターネットによる情報検索指導」に、もっと多くの受講者数を募るよう努める。⑤図書館サポーターを導入し、学生目線での図書選定と図書館広報の一助として図書館サポーター通信を発行する。⑥教職員から学生に読んで欲しい本を定期的に推薦してもらい、図書館にコーナー展示する。

表Ⅱ-B-2 学生への図書貸出冊数

	H19	H20	H21	H22
在籍者数	835	828	742	612
貸出冊数	15,933	13,802	10,743	8,333
学生1人当たりの貸出冊数	19.1	16.7	14.5	13.6

表Ⅱ-B-3 文献検索指導受講者数

	H20	H21	H22
2回生	72	84	45
専攻科	5	0	9
教員	8	9	6
計	85	93	60

表Ⅱ-B-4 学生リクエスト図書購入

	H20	H21	H22
冊数	29	20	34
金額	45,354	30,723	93,867



(3) I T 環境

(a)現状

学内LANを活用し、セキュリティにも配慮した教職員相互、教員－学生の情報共有のシステムを構築しており、利用促進に努めており、次のようなことが実現している。

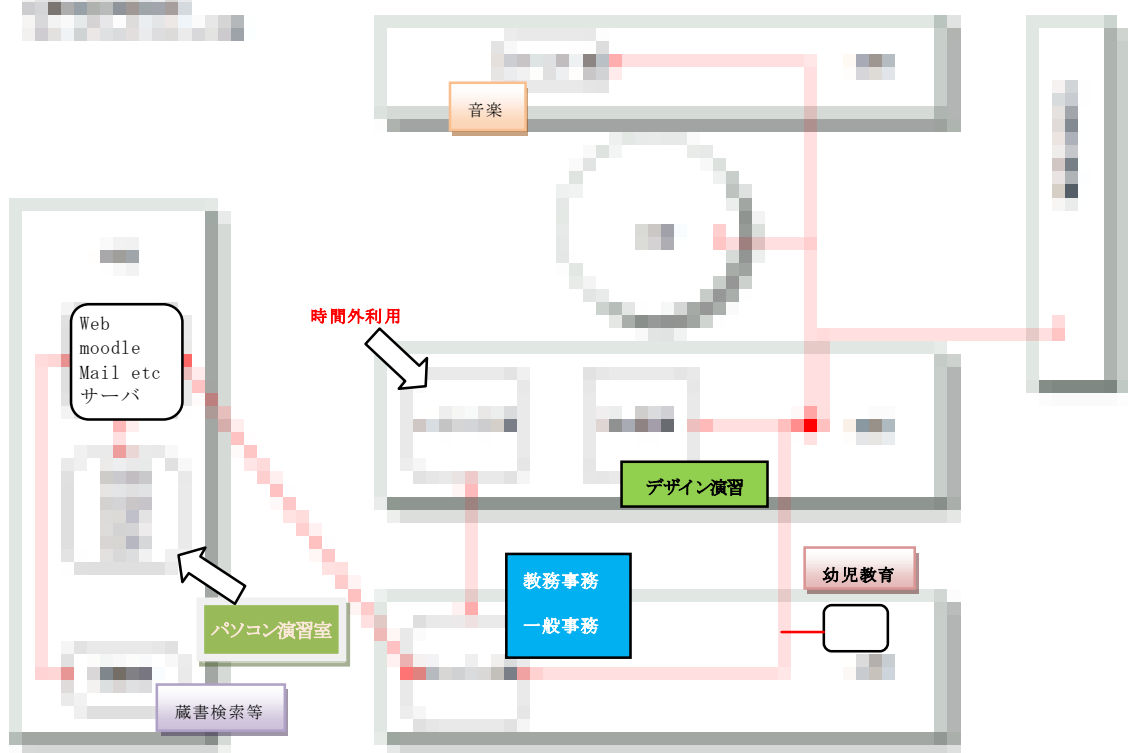
1. 教職員が教育支援のための情報を蓄積し、共有し、様々な問題の解決に活用している。
2. 学生の授業理解を支援するために、学生が閲覧出来る共有フォルダを設定し、科目ごとに教員が教材等を蓄積している。
3. 学生は、学習成果、課題を提出することができる。
4. 情報メディア教育支援室は、情報通信技術を活用した種々の問題解決法の研修会の開催や具体的な相談や技術支援を行っている。
5. パソコン・情報通信技術を活用した各学科および4つの視聴覚設備の整った演習室、時間外も自由に利用出来る共通の演習室(e-Learning 室)と生活環境専攻にはデザイン分野必須の Mac パソコンを設置しており、活用されている。
6. 5. を活用するための情報リテラシー教育を行なっている。
7. LMS(Learning Management System)として、moodle が稼動している。
8. 教職員、学生はフレックス(福井県学習コミュニティ推進協議会)の情報基盤を活用したインフォーマルな学習を行っている。

9. パソコン・情報通信技術を活用した教育を行なうための研修会を行っている。
10. 情報メディア教育支援室はそのための日常的な相談・支援を行っている。
11. Fレックス(福井県学習コミュニティ推進協議会)の情報基盤を活用した教育・学習方法についてマニュアルを配布している。
12. FレックスSNS上のコミュニティにおいて、学生支援を充実させるために、コンピュータ利用技術の向上について議論している。

(b)課題

蓄積された教育資産をさらに有効に活用するためのしくみを考える必要がある。情報通信技術の目覚ましい進展に伴い、モバイルコンピューティングの普及に見られるようにICTを活用した教育、学習スタイルも多様化、変化しつつある。これらの情報環境をどのようにうまく教育の場に取り入れていくかが大きな課題である。

図Ⅱ-B-3 システム構成図(全学)



- *学外とはSINETと繋がっている
- *無線LAN環境も整備されている
- *情報基礎、専門教育のためのソフトウェアは充実している
- *学内LANを活用した情報の共有が可能となっている
- *教育利用の状況は「FD広報」に報告している

2008年度 pp. 14～18 2009年度 pp. 52～56 2010年度 pp. 113～116

基準Ⅱ-B-2 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に行っている

(a)現状

入学時・各学期開始時に、学科全体でのガイダンスの他に専攻別にクラスアドバイザーがクラス学生の学習支援にあたりきめ細かい履修指導を行っている。時間割・講義概要・学生のしおり等をもとに受講登録、免許・資格等の説明を行い、登録ミスによる卒業延期及び免許・資格がとれないということにならないよう指導している。

1 年後期以降は、成績及び取得単位の状況がわかる「成績通知書」を配布し、通算取得単位数の確認をさせ、取得単位数の少ない学生や成績の不振者には、クラスアドバイザーが個別指導を実施している。また、登録期間終了後には、MHにおいて個別の登録一覧表を配布し、学生自身に確認作業をさせている。この時にもクラスアドバイザーが指導を行ない学生のうっかり登録ミスを防止している。また、学生部においても、担当職員が個別の相談に応じるなど、全学あげてのきめ細かい履修指導を行っている。

基礎学力が不足している学生に対する補習授業の組織的な実施は行っていない。しかし、オフィスアワーなどを利用して各教員が個別に指導を行っている。また、学生の質的多様化に対応し基本的な文章表現力を高める内容を含めた「教養基礎演習」を平成 15 年度から教養科目として 1 回生に開設し、基礎学力の向上を図っている。

なお、音楽学科では、多様な入試制で入学する学生の音楽基礎力の不足を補うために、授業アシスタントによる「プレ視唱」等の授業前補習指導を行って、「ソルフェージュ」教科における習熟度別授業につなげている。

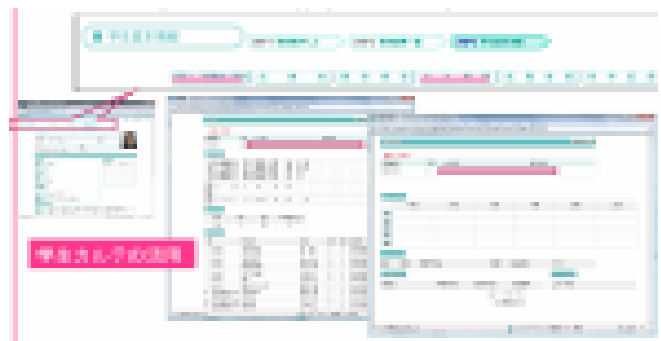
学習上の悩みなどの相談については、学生部履修相談窓口での履修アドバイスをはじめ、学科会議・専攻会議・等で情報交換を行い、問題のある学生にはクラスアドバイザーが指導助言を行っている。また、学生相談室・保健室とも連携を取って悩み等の支援にあたっている。

平成 22 年度からは、電子システム『学生カルテ』により、当該学科の履修状況による学生の動向を当該学科教員が把握できるようになった。

進度の早い学生や優秀学生に対する学習支援については、時間外や休暇中を使って上位資格取得に向けての学習支援を行っている。

食物栄養専攻では、調理実習の技術の向上を目的に 2 回生が 1 回生の模範となる技術指導を個別に両者の空き時間を利用しておこなっている。

幼児教育学科の「器楽Ⅰ・Ⅱ」についてはピアノ実技修得度に応じて、短期間で実力が身につくようにグレードに分けて少人数で指導しているほか、「英語会話」「情報メディア入門」についても習熟度別の対応を行っている。



図Ⅱ-B-4 電子システム「学生カルテ」



図Ⅱ-B-5 新入生オリエンテーションの様子

音楽学科では、併設校音楽科や他校の芸術コース出身生に多く見られる、音楽基礎力の高い学生に対して、より高度な音楽力を養成するために、習熟度別授業体制を実施して対応している。

留学生については現在在学生在がいないが、受入れ制度は設けている。

(b)課題

入試制度の多様化により、毎年増加傾向にある基礎学力が不足している学生への学習支援が必要だと考える。

基準Ⅱ-B-3 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて学生の生活支援を組織的に行っている

(a)現状

学生の生活支援のための教職員の組織としては、本学ではクラスアドバイザー制度を設け、各クラスに教員を配置し、学生の学習、生活、進路の支援にあたっている。また学生生活課では、学生会活動の運営管理支援、その他、奨学金の事務手続き、駐車場の管理、学生生活に関する様々な情報提供、生活指導等を行っている。教職員による組織として、学生生活支援部会を形成し、その他、学生相談室、保健室、セクシャルハラスメント相談員を設置し、学生に対応している。

式典及び諸行事に関する事、課外活動(学生会活動・サークル活動・大学祭・他大学との交流等)に関しては、学生が主体的に参画する活動が行われるよう、指導助言を行っている。

学生食堂、売店の設置等、学生のキャンパス・アメニティに関しては、学生にとってのより良い環境構築のため、学生ニーズを検討している。

宿舎が必要な学生に支援に関しては、学校指定マンションサンアベニュー森田への入居の斡旋を行い、入学前よりオープンキャンパス等で紹介している。

入居者への補助としては、サンアベニュー森田の4月初めに新入居者向けの歓迎会の補助を行い、また、入居者へ年度末にアンケート調査を行い、居住環境の改善に努めている。

通学の交通手段に関しては、JRや路線バスのほかに、本学は車での通学者が多いため、学内駐車場を十分に設置している。毎月1回は説明会及び申請受付を実施し、学生部にて個別に申請を受け付けている。また、警察の協力を得て、交通安全教室(年2回)の開催しており、学生の交通安全への意識を高めている。駐輪場も学内に設置している。

奨学金等、学生への経済的支援制度に関しては、日本学生支援機構奨学金の事務手続きや、本学独自の奨学金として、1回生時成績優秀者に対する六葉奨学金、学外にて優秀な成績を収めた者に対する課外活動等奨学金、緊急時の奨学金として応急奨学金制度を設けている。また、その他各種奨学金の情報収集にも努めている。

学生の健康管理、メンタルヘルスケアやカウンセリングの体制に関しては、保健室主管により、ケガ等に対する応急処置、健康診断、健康相談、AED講習会を実施し、また健康教育(たばこ・薬物)の啓発講座を毎年開催している。

入学者には入学時に学生教育研究災害傷害保険の受付を行っている。

メンタルヘルスケアやカウンセリングの体制として、クラスアドバイザー制度、学生相談室を設置している。教職員の学生相談に対する意識の向上と、学内情報の共有化から学生相談研修会を開催している。また、カウンセリングの啓発として、新入生オリエンテーションでのクラスアドバイザー制度、学生相談室の周知、学生相談室でのティーアワーを定期的に開催し、それらの情報共有として、毎月1回、学生生活課長・保健師・学生相談室長・

カウンセラーが集まり、学生相談ミーティングを開催し、連携体制を強化している。

学生生活に関して学生の意見や要望の聴取に関しては、年度末に学生生活調査アンケートを行い、分析を行い次年度へ生かしている。

留学生の学習(日本語教育等)及び生活支援に関しては、本学では通常の入学生と同等の扱いとしているが、入学が決定した時点で支援を検討している。社会人入学生に対しては、入学金半額、授業料 75%の減免措置、以前の大学で取得した単位の認定を行っている。長期履修生に対しては、受け入れる体制は課題であるが現段階では構築できていない。

障がい者の受け入れのための施設整備に関しては、本学の一部では車椅子が通れない所などあるが、バリアフリー化等ひと通りの支援体制は整えている。

学生の社会的活動(地域活動、地域貢献、ボランティア活動等)に対する評価に関しては、学生の優れた社会的活動に対して、課外活動等奨学金を交付している。また、学生の積極的な社会的活動を促し、学生会における社会的活動や、ボランティアサークルに対する助成などを行っている。

(b)課題

本学における職員数が少ないため、上記の現状の業務を確実に遂行する事を重視している。

学生の意見を反映させる事が「学生のための高等教育機関」という理想像へより近づく道であり、学生生活調査アンケートなど学生の意見を反映させ、学生が安心して学生生活を送れるように、なお一層の改善、努力をして行きたい。

基準Ⅱ-B-4 進路支援を行っている

(a)現状

就職内定率低下傾向が続き、「就職大氷河期」突入の懸念が高まる中、今、本学が果たすべき役割に向けて、更なる取り組みが必要とされている。

その取り組みの1つ、各企業・事業所との信頼関係の新たな構築である。2010年4月より専門スタッフを1名増員し、各企業・事業所訪問の徹底を図ってきた。

今年度の事業所訪問の内容の結果と課題については、全学教授会場で報告を行い、共通の認識と今後の取り組みへの理解を求めた。今後、更に全クラスアドバイザーで構成する「就職指導連絡部会」の中で、具体的に検討課題についての取り組みを行い就職支援につなげたい。

次に、学生への就職支援については、「個別対応」の徹底が本学の最も特色ある取り組みである。その目的は就職内定の確保のための支援のみならず、実務社会への適応能力の向上を最大の意図として、“実務社会への理解と自己理解”に始まり、“職業観・社会観の養成と仕事に対する目標設定(自己実現)”“将来に向けての考え方・生き方(将来設計)”まで、仁愛兼済への理解に結ぶための就職のキャリア支援を1人ひとりの個性・適性・考え方に合わせて個別対応を行っている。短大という性質上、難しさにも直面しながら、“2年間だからこそ夢中になれる、一生懸命に集中出来る”という、本学学生特有の持ち味を高めることが出来ていると確信している。(表Ⅱ-B-5 平成21年度個別面談回数…1386回(生活科学学科のみ)参照)別表は生活科学学科のみの個別面談の回数であるが、幼児教育学科における面談回数は就職内定が順調に進んだこともあり、概数ではあるが約230～250回位と推定している。

就職ガイダンスでは、毎月1回のペースで実施している中で、独自のガイダンスの他に外部講師を招いてのセミナーを開催。厳しい現状の中での全体の就職実態を知る機会となり、以後の就職活動への刺激など効果的なものとなった。

さらに、今年度は早期化が依然として進む中での支援の一環として、携行しやすく利用しやすい「就活ハンドブック-A5版」を製作した。就活スケジュールや就職試験に特化した内容は、学生からの評価も良く、多くの学生が活用している様子も見え成果が認められた。(図Ⅱ-B-7 作成した就活ハンドブック 参照)

特に、生活科学学科では早期化対策のための支援として取り入れた面接試験対策講座(2月15日・16日・17日の3日間)は個別及びグループ面接を主体として実施。学生達の意識と行動及び自らへの課題発見につながり、以後の個別対応にも結びつけることが出来た。より実践に向けての効果が認められ、今後においても継続すべき支援対策の1つと考える。尚、インターンシップへの参加については、平成21年度は14名(1回生一般事業所への就職見込者の10%)、平成22年度は23名(同21%)で今後も20%以上の参加を目標に積極参加を目指す。また、夏休み期間中を利用し、資格取得のための各種講座(医療事務・ホームヘルパー・販売士)の開催は定着した感がある。また、公務員試験対策講座をはじめ就職模擬試験の実施、就職ガイダンス時を利用した常識問題・適性検査も取り入れ対応を行ったが、上記全てにおいての課題もそれぞれに生じている。

その他、恒例となった「学内企業合同説明会-3月7日実施」は29社の事業所と150名近くの学生が参加し、これからの就職活動に拍車がかかる機会となった。また、積極的に真剣な学生達に対し、各事業所からの評価も高まったものと思われる。

稀に見る厳しい就職戦線が続く中、本年度の就職状況は全体として3月末現在での就職率は98.46%で、昨年 of 同時期の実績(95.16%)を上回った。内訳では、幼児教育学科・音楽学科は共に全員の就職達成で100%、生活科学学科は97.3%であったが、3月末時点の未内定者4名については、4月20日時点をもって決定し全員の就職が達成出来た。特に専門分野への就職については、栄養士(1名の調理員を含み)として83%、保育士・幼稚園教諭として97.2%の就職率は特筆に値する。また、音楽学科は本学専攻科への進学

を中心に、音楽教室の講師などに就いた。

尚、幼児教育学科では近年の傾向として、求人及び採用試験の時期が早まってきていることへの対応及び1人ひとりの学生に早めの動機づけを行い、効を奏したと言えよう。また今年度は、私立幼稚園教諭採用統一試験が2ヶ月半早まった為、4月21日これまでにない早い時期に「幼稚園教諭を目指す人へ」と題し、幼稚園協会長を招いての講座を実施した。平成22年度の幼稚園教諭としての就職が18名と前年の倍増となり成果に結びつけた。

各年度の就職状況については、その内容の分析・検討を行い「進路状況」の詳細についての資料を作成。学科・専攻ごとに明示した資料は教職員に周知し、また保護者宛に「就職・進路情報」として周知を図るなど、就職支援のために活用している。

進学・留学については、資料や情報を提供しながら、希望者への支援を行っている。



図Ⅱ-B-6 面接試験対策講座の様子

(b)課題

東日本大震災発生により、その影響は計り知れなく大きく、雇用環境は深刻な事態を迎えている。更なる厳しい就職戦線にあって、最も大きな課題として以下の3点に対策の重点を置き局面打開を図りたい。

第1点は、情報提供の方法についてである。高い就職内定率を維持しつつも、決して順調な展開ではなく、最後まで厳しい就職戦線ではあった。さまざまな要因がある中で改善可能な課題として、終盤(12月～翌3月初旬頃迄)の未内定者対策がある。数少ない求人情報(ハローワーク情報を含めて)を如何なる方法で情報提供を行い、就職指導課との接点を見出すかである。

特に2月中旬以降における未内定者対策が課題となる。次に、事業所対策であるが、平成22年度は厳しい状況の中、明確な成果は示せないが、大きな今後における方向性への道筋と本学に対する理解は進むものと思われる。専門スタッフの配置により信頼関係の構築と求人開拓において、より継続的で積極的な展開が必要と思われる。

そして第3点は就職試験対策への課題である。早期化対応に伴う2月実施の「面接試

「就職対策講座」は良い成果を期待出来る内容と実感出来るも、筆記試験対策については不十分であったと思われる。外部機関の活用も含め SPI 対策やさまざまな適性検査に対する取り組みを進めたいと考える。

次に幼児教育学科については、民営化が進み新設園をはじめ「認定こども園」を含め求人数が増え、一方で卒業生が前年比約 40 名の減少となり、園の要望に応えられない状況となった。卒業生の紹介と合わせて、信頼を損うことのないように誠実な対応が必要とされる。

表Ⅱ-B-5 月別就職個人面談人数
【生活科学学科 平成 22 年度卒業生】 (単位:人)

	全体	環境	情報	メディア	栄養	専攻科
12 月	2	0	1	0	1	0
1 月	18	3	9	0	0	6
2 月	71	6	56	2	2	5
3 月	117	20	84	6	4	3
4 月	102	17	75	4	1	5
5 月	147	40	90	9	5	3
6 月	131	7	55	55	8	6
7 月	115	14	82	7	4	8
8 月	91	22	41	10	17	1
9 月	62	9	37	2	13	1
10 月	183	22	35	1	121	4
11 月	110	24	21	6	54	5
12 月	91	13	20	1	45	12
1 月	83	5	33	1	29	15
2 月	46	8	24	3	10	1
3 月	17	5	11	0	1	0
合計	1386	215	674	107	315	75

※幼児教育学科…約 230～250 回実施。



図Ⅱ-B-7 作成した就活ハンドブック

＜備付資料＞「仁愛女子短期大学卒業生に関するアンケート」(平成 22 年 12 月)
「『学内企業合同説明会』アンケート調査 (平成 23 年 3 月)」
「就職指導課に対するアンケート調査」(平成 23 年 2 月)

基準Ⅱ-B-5 入学者受け入れの方針を受験生に対して明確に示している

(a)現状

入学者受け入れの方針は、募集要項及び入試ガイドに「本学の入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)」として、「本学の入学者受入方針」、「各学科の入学者受入方針」「入試制度ごとの入学者受入方針」を記載し、受験生に対して明確に示している。

受験の問い合わせには、入試広報室が窓口となり、他部署とも連携を取りながら適切かつ迅速に対応している。問合せ先がわかるように、パンフレットなどの刊行物には必ず問い合わせ先を明記している。また、県内で実施される進学相談会等には積極的に参加し、受験生からの問い合わせに直接回答している。その他、オープンキャンパス等を開催し、受験生が本学に対して理解を深める機会を設けている。

学内体制としては、学生募集委員会をおき、入学試験制度に関する事項や学生募集・広報活動に関する事項、募集広報活動資料の編集・作成等を所管している。学生部内には、入試広報室を設置し、学生募集委員会の事務的事項や、広報及び入試関係の事務的事項を所管している。入試事務は、入試事務局を組織して全学体制で入試業務を実施している。

入試制度は、AO 入試、推薦入試、一般入試、大学センター試験利用入試、社会人入試、外国人入試を設けて、多様な選抜を行っている。公正かつ正確に実施するため、入試ミス防止のためのガイドラインを設けている。

入学手続者への情報提供としては、合格者には「入学手続のご案内」を送付し、入学手続のほか、入学当初のスケジュール等についても連絡している。入学手続者には、「ウォーミングアップ BOOK」を発行し、入学後の学生生活及び入学までの準備についての情報提供を行っている。3 月上旬には、入学予定者に対して、「入学生のみなさんへ」を発行し、入学当初の連絡を行っている。

入学者に対しての情報提供としては、入学式後に学科別ガイダンスを実施し、学生本人及び保護者に対して入学後の学生生活についての説明を行っている。4 月当初には、オリエンテーション日を 2 日間設け、学科ガイダンスや学生部ガイダンス等を実施している。

(b)課題

これまで同様、受験生とのマッチングを図るため、入学者受け入れ方針の周知を行っていきたい。これに加え、本学で学びたいという意欲のある学生を募集するため、入学後の教育課程や卒業後の進路についての周知にも力を入れたい。

＜提出資料＞「仁愛女子短期大学 大学案内 2010」

◇基準Ⅱについての特記事項

特になし

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

(a)要約

人的資源については、設置基準、各種養成課程の基準を満たす教員組織が編成されており、必要に応じて補助職員も配置されている。教員の採用・昇格手続きについては、教員選考委員会を経て規程に即して適正に行われている。教育研究活動についても研究室や研修時間の確保のほか、共同研究費などの教員への支援策も準備されている。教育研究支援のための事務組織は、事務局、学生部を中心として連携して取り組まれている。物的資源についても、校地・校舎等の施設基準を十分に満たしているほか、ICT利用の教育資源も整備されている。その維持管理についても適切に行われているが、定員規模の減少や施設の老朽化への対処について、今後の計画が必要となっている。財的資源についても、大学の学部増と音楽学科の定員未充足により帰属収入は減少しているが、理事会で決定される事業計画と予算に基づき適切に執行され、客観的な財務状況の把握にも努めている。

(b)行動計画

仁愛大学への改組転換、音楽学科の廃止予定など、本短期大学としては過渡的な状況にあるが、引き続き適切な教員組織の維持に努めるとともに、年齢や専門分野のバランスを考慮した、採用計画を推進する。また、施設整備についても、新たに策定される中長期計画を斟酌しつつ、経済・社会状況を勘案した予算管理のもとに計画し、教育資源や財的資源を有効活用した経営基盤の確立を目指す。

基準Ⅲ-A 人的資源

(a)要約

教員組織については、設置基準及び各種資格課程を充足する教員が配置されている。また教員の採用及び昇任については、「教員選考規程」に基づき教員選考委員会が設置され、提出された履歴書、研究業績書をもとに「教員選考基準」に即した審査を行ったうえで、教授会、理事会での手続きを経て適正に行われている。主たる科目については、極力専任教員をもって充てるよう努めているが、音楽学科のように個人指導が多い学科においては、非常勤教員の比率が高くならざるを得ない現実もある。実験実習等の補助体制については、食物栄養専攻に助手3名を配置しているほか、メディア支援室に専任職員2名、ほかに各学科に兼務職員1名ずつを配置している。

教育研究活動については、研修時間、個人研究室の確保及び個人研究費、共同研究費に加え、学園後援会による海外研修助成、研究成果発表経費助成など、支援体制は概ね確立しているといえる。また、毎年「仁愛女子短期大学紀要」を発行し、学外での発表を含め、研究成果の公表を行っている。

ただ、科研費を含め外部資金の獲得については、さらに努力が望まれる。

FDについては、従来の授業評価を中心とした取組から、授業公開や外部と連携したFD活動の取組や、研修の充実など、改善が進んでおり、研修の参加報告会の実施、FD報告書のとりまとめなど、教員全体でのFD活動に対する共有が広がってきた。

事務組織及び適切な運営のための職員配置や業務環境の整備はされている。また、外部研修や内部研修も適宜実施されており、日常的な業務改善についても取組はなされているが、組織的なSD活動としての位置づけは、まだ不十分な点がある。

就業に関する規程は概ね整備されており、その周知についても「職員のしおり」として、建学の精神の解説を含め、規程集として配布されており、変更のあった場合も職員用の共有サーバにアップし、タイムリーにメンテナンスされるように配慮している。人事異動についても、毎年本人からの申告、また部局管理者とのヒヤリングに基づいて行われている。

(b)改善計画

設置基準をはじめ、各種養成課程としての基準を満たす教員配置を引き続き維持するとともに、年齢や分野バランスを踏まえた、採用計画を検討する。

研究費等の助成体制についてはかなり整備されているが、その運用については留学等の取り扱いに関する規程は未整備のものがあり、整備を進めていく。また、科研費をはじめとする外部研究費の獲得に向けた努力を呼びかけていく。

事務組織についても概ね整備されているが、部署間の問題意識や情報の共有をさらに図りつつ、SD活動を促進していく。

引き続き、合理的な人事制度の在り方の研究を進めるほか、各人の希望と能力を活かして、効率的な組織運営について検討をすすめる。

基準Ⅲ-A-1 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて教員組織を整備している

(a)現状

教員組織は、短期大学設置基準上、全体として30名の専任教員が必要であるが、総数37名で、各学科・専攻毎の基準も満たしている。また、生活科学学科食物栄養専攻については、栄養士養成施設としての教員及び助手の配置基準も満たしており、幼児教育学科においても、教員養成課程としての基準、保育士養成施設としての基準いずれも満たしている。専任教員及び非常勤教員の配置状況は、生活科学学科（専任18、非常勤54（本学園内設置校からの兼任者12名を含む））、幼児教育学科（専任11、非常勤26（同、5名を含む））、音楽学科（専任5、非常勤42名（同、2名を含む））となっており、特に音楽学科については個人レッスンのため非常勤教員への依存度が高くなっている。各学科は、前・後期の始めに専任教員と非常勤教員が懇談会を開催しながら、学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいた連携が取れている。専任教員は、採用・昇任時に教員選考委員会において、設置基準に準拠した選考基準に基づき審査の上任用されており、短期大学教育を担当するにふさわしい資格と資質を有している。補助教員等は、養成基準で指定されている助手3名のほか、情報メディア教育支援室及び各学科に実習支援のための職員を配置している。

(b)課題

諸基準を満たしながら、学科再編計画に係る教員組織の整備を進めるとともに、年齢バランスの取れた教員構成を目指していく。

＜基礎資料＞(7)の①教員組織の概要(人)参照

基準Ⅲ-A-2 専任教員は、学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて教育研究活動を行っている

(a)現状

専任教員には研究活動に必要な研究室が与えられ、週1日以内の研修時間が取得できる。また、年1回発行する研究紀要に研究成果を発表でき、他の成果については研究紀要の巻末に研究成果一覧を設け記載し公表している。

平成21年の四大新学部開設に伴い、教員数は50名から37名に減少し教員の入れ替わりも多かった。しかし、平成22年の研究紀要は11編で、教員1人当たり0.3編（H20年12編、0.24）研究成果53件で教員1人当たり1.43件（H20年62件、1.24）など個人の研究活動は活発になっているといえよう。

表Ⅲ-A-1 研究費申請状況（括弧内数字：採択数）

項目	H19	H20	H21	H22
仁愛短大共同研究費	4(4)	5(5)	2(2)	4(3)
学園後援会成果発表経費	3(3)	2(2)	0	3(3)
科研費申請	0	3(1)	1(1)	2(1)
他機関からの研究助成	2(2)	6(6)	2(2)	3(1)

研究活動費用の面では、科研費申請数は伸び悩み、2件の申請に対して1件の採択にとどまっている。また、外部研究資金の獲得は年度による増減はあるが、毎年2～3件は確保している。一方、共同研究費や仁愛学園後援会による研究成果発

表経費の助成などの研究支援体制もできていて活用されている。研究活動に対する制度面では、留学、海外派遣、国際会議出席等の規程については未整備である。

FDについては、FD委員会を編成し、組織的に活動を行っている。本委員会の所管事項は、1) 教育内容・教授法の改善・向上についての研究と研修、2) 授業評価の企画・実施、3) 授業等におけるIT活用などである。FD活動としては、1) 全教員対象の公開授業週間、2) 中間アンケート、期末アンケート、3) ICTを用いた授業の支援等を行っている。FD活動は、自己点検評価委員会、教務課などとの連携も密にしている。学外ではフレックス(福井県内大学等によるICT利用の学習コミュニティ)に参加し、福井県内の他大学と連携したFD活動にも取り組んでいる。

(b)課題

留学、海外派遣、国際会議出席等に対する規定を検討し、専任教員の研究環境のグローバル化に対応する必要がある。

フレックスの国庫補助が本年度3月までであるが、次年度以降については各大学間で検討、調整のうえ、維持発展を図る。

基準Ⅲ-A-3 学習成果を向上させるための事務組織を整備している

(a)現状

事務職員は、「事務組織及び事務分掌規程」に基づき、配置されている。事務処理のための必要な機器は整備され、専門的な知識の習得及び能力の開発に努めるため、積極的に外部研修に参加しながら、教員・学生との信頼関係を深める努力をしている。SDの規程は整備されていないが、年度当初に実施する「理事長との意見交換会」を契機に研修・報告会を実施している。大学が組織として活動していくための担い手である職員(①実践に移すことのできる専門知識、②専門外の人に対する説明能力、③他の専門に対する理解力)をめざし、また、学生の変化に対応するため、各部署の係長以上の職制により月1回の連絡・検討会を実施している。

(b)課題

職員の能力をあげる努力とともに、組織的なSD活動についての検討をする。また、FD活動との連携により、より一層の学習成果の向上に努力する。

基準Ⅲ-A-4 人事管理が適切に行われている

(a)現状

「仁愛女子短期大学就業規則」を基本として勤務体制は整備され、適切な就業環境の維持に努めている。諸規程については、サーバにて管理し、常に最新の諸規程がアップされており、改定時には学内メールで教職員へ周知することとしている。

(b)課題

諸規程の改正があった場合の周知をより迅速かつ確実に行えるよう努める。教員の勤務体系について、法令に基づく検討が必要である。

基準Ⅲ-B 物的資源

(a) 要約

校地・校舎面積は、短期大学設置基準を十分満たしており、十分な広さの運動場、体育館を有している。授業にふさわしい講義室、演習室、実験・実習室、パソコン室、学習自習室等が整備されている。校舎の安全性、障害者への配慮をした耐震補強改修等も計画的に遂行しているが、一部校舎がまだ未実施のため早急な対応が必要である。

講義室等には、授業用機器・備品等、情報関連機器等も整備され、図書館の蔵書充実にも力を注ぎ、サービス体制の確保や図書館活用を奨める取り組みも積極的に実施している。

施設設備に関する基本的なものは整備されているが、一部整備されていない規程があり、対応が必要である。火災・地震対策、防犯対策についても、規程を整備し、定期的な機器点検、訓練の実施もされている。情報ネットワークのセキュリティ対策も管理組織が確立し、機能している。省エネ対策も同窓会との連携をとりながら積極的な取り組みが実施されている。

(b) 改善計画

施設については、随時補修等を実施しているが、学科再編計画に沿った施設の用途変更計画の検討をする。設備については、授業用機器により耐用年数、使用頻度が様々であるため、機器自体の状態を常に把握して点検、更新計画を策定する。資産管理規程が一部整備されていないため、整備する。

図書館については、十分な資料点数を確保する中で、教科専門分野の図書の充実を図る。

基準Ⅲ-B-1 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて校地、校舎、施設設備、その他の物的資源を整備、活用している

(a) 現状

現有校地は、44,918.08 m²あり、短期大学設置基準 6,000 m²を十分に満たしている。校舎についても、14,381.68 m²あり、短期大学設置基準 5,900 m²を十分満たしている。屋外運動場の面積も 21,275.12 m²あり十分な広さを確保しており、体育館も 887.04 m²の面積を有している。

現有校舎は、一部の棟を除き、エレベーターの設置（3基）、障害者用トイレ（3ヶ所）も設置しており障害者に対して配慮している。校舎は、学科・専攻、共通施設の棟ごとに区分されており、講義室 16 室、演習室 13 室、実験実習室 44 室、情報処理室 3 室、語学演習室 1 室、学習自習室 4 室を有し、専任教員に対する研究室も 56 室を有している。また、これらの各室には、学科・専攻課程の教育課程に基づいて授業を行うための授業用マルチメディア機器や、情報関連機器、備品等も設置され活用している。

附属図書館は館内面積 789.7 m²、座席数 118 席（充足率 19%）あり、資料として図書 87,104 点、学術雑誌 120 種、視聴覚資料 4,792 点を蔵しており、短期大学として必要な資料数、座席数が確保されている。図書購入に関しては、各学科・専攻選出の運営委員を通じて、全教員（非常勤教員も含む）から学生用図書を推薦してもらうことで、学科、教科に関する専門資料の充実を図っている。また、「図書廃棄要綱」に基づいて、本年度は図書等 561 点（約 200 万円相当）を廃棄した。

表Ⅲ-B-1 校地の基準面積 [学生 1 人あたり 10 m²]

区 分	基準面積	収容定員	現有面積
校地面積	6,000.00 m ²	600 人	44,918.08 m ²

表Ⅲ-B-2 校舎の基準面積 [設置基準第 31 条]

学科	収容定員	基 準 面 積		現有面積
生活科学学科	340 人	3,100 m ²	基準校舎(家政 350 人まで)	14,381.68 m ²
幼児教育学科	200 人	1,550 m ²	加算校舎(保育 200 人まで)	
音 楽 学 科	60 人	1,250 m ²	加算校舎(音楽 100 人まで)	
計	600 人	5,900 m ²		14,381.68 m ²

(b)課題

情報関連機器の充実のため、IT機器の計画的更新を図る。また、翌年度以降の学科再編に係る施設、設備全般の用途変更を含めた改修計画の検討を進める。

図書・資料に関しては、学生が必要とする資料等の充実を図るため、非常勤講師にもっと多くの資料を推薦してもらうよう周知が必要と思われる。

<基礎資料>P. 4 提出資料・備付資料一覧(7)短期大学設置基準を上回っている状況・短期大学の概要 ⑦図書・設備及びバックデータを参照)(7)の⑦参照

基準Ⅲ-B-2 施設設備の維持管理を適切に行っている

(a)現状

施設・設備に係る諸規程は、一部未整備であるが、経理規程を基に適切に管理されている。数年前に耐震調査を一早く実施し、計画的に耐震補強に取り組んでおり、現在は一部の校舎を除き補強工事は終了している。

火災・地震、防犯対策についての諸規程は整備されている。

防犯対策は、女子短大、附属幼稚園が隣接していることから、敷地内に警備員を配置し外来者の確認をするとともに、夜間は機械警備や警備員の巡回等を実施している。

防災（火災・地震）対策は、消防設備の年1回の点検や緊急地震速報装置の設置、学生・教職員における避難訓練はそれぞれ年1回実施している。

コンピュータシステム関連のセキュリティ対策は、規程の整備もされており、毎年4月の全学会議で教職員に対し、個人情報、情報資産の部外流失等の注意喚起について周知している。

省エネ等対策は、クールビズ・ウォームビズの積極的な取り組みや、デマンド監視制御装置を設置し学生や教職員の省エネに対する意識向上に努めている。また、同窓会が中庭にゴーヤカーテンを設置し、学生への地球環境保全への意識向上に協力いただいている。

(b)課題

資産管理関係規程の整備が未整備であるので、整備に取りかかる。省エネ対策にてデマンド監視装置を導入したが、機器の機能等を使ってより効率に取り組める具体的対策を考える。

基準Ⅲ-C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源

(a) 要約

教育研究およびそれを支える技術資源として、ICT活用基盤(学内LAN、学術ネットワーク等のインターネット接続環境、教職員全員が情報機器端末使用可能)が整備され活用されている。それらを各部署において日常的に、組織的に活用している。

(b) 改善計画

情報量の多い映像などが手軽に取り扱える情報環境への改善が必要である。

デジタル放送、デジタル出版、書類の電子化などへの対応など教育の情報化の計画の立案と実行への体制が課題である。

基準Ⅲ-C-1 短期大学は、学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて学習成果を獲得させるために技術的資源を整備している

(a) 現状

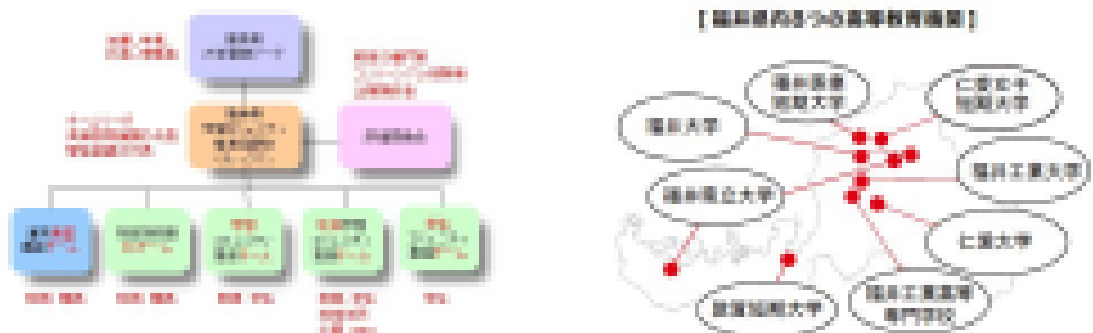
学内全体の教育施設・設備等環境は、教育部門(講義室・演習室)には、マイク常設に加え、マルチメディア機器(プロジェクタ、スクリーン、ビデオ、DVD等)が設置されている。実験・実習室には実験機器等が設置され、情報処理室(3室)にはパソコン118台完備しており、e-Learning室(学習支援室)も学科ごとに規模の大小はあるが設置されている。また、事務部門(学生部・事務局・図書館・情報メディア教育支援室・地域活動実践センター)には、職員に1台ずつ専用パソコンを整備し、業務の効率化に寄与している。情報メディア支援室は、機器における技術的サポートのみならず、学生の授業サポートも行っている。

教職員が学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて、各部署の意見を聴取し、情報メディア教育支援室運営委員会における議論も踏まえて、授業や学校運営に活用できるよう、学内の情報ネットワークの整備を行っている。

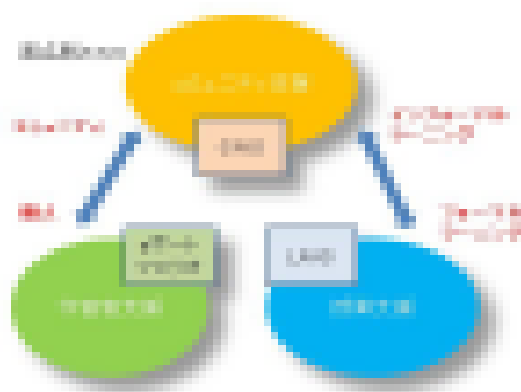
e-Learning(moodle)システム、学内LANによる共有フォルダの活用により、教員は時間と空間を超えた「学びの場」を提供しており、学生への充実した学習支援を行っている。一人1台パソコンが利用できる視聴覚設備も兼ね備えた教室(4教室)、各学科には各分野の専門教育のためのパソコン演習室、放課後等自由に学生が利用できる環境が整っており、有効に利用されている。

他に文部科学省の戦略的大学連携支援事業の補助金を受けて、ハード面、ソフト面の充実を図り、福井県内の7つの高等教育機関との連携により、様々な形の学習環境を構築し、学習成果を得つつある。

その組織図、大学等の連携図、学習情報基盤を図で示す。



Ⅲ-C-1 福井県学習コミュニティ組織図、連携している福井県内の高等教育機関



インターネットを活用した教育環境が整備されており、大学等の枠を超えた教員、学生の交流を通して、いろいろな形での学びの場が提供されている。

【参考資料】

平成22年度福井県大学間連携取組活動&自己評価報告書

*本資料はFレックスWebサイト(<http://f-leccs.jp>)からダウンロード可能

Ⅲ-C-2 ICTを活用した学習環境

(b) 課題

学科再編後の規模に応じた施設・設備環境の検討を進める。

各部署がセキュリティも考慮した情報の発信、共有が可能なグループウェア等のシステムの導入によるインテリジェントキャンパス化による組織的な情報活用機能が求められている。

まだ、「ICTを活用した学び」が学内全体に普及しているとは言い難い。教員向けの講習会等を開催し、活用法等について議論し、教育の実をあげていく必要がある。

基準Ⅲ-D 財的資源

(a) 要約

理事会で承認された事業計画及び予算に基づき適正に執行されている。予算は、入学者数、収容実員数を根拠に、教育資源（施設・設備）及び学習資源（図書）等に配分される。経営の健全化と将来的投資のための財源確保等をはじめ、短期大学の継続的維持のための予算構造となるようつとめており、執行も、規程に基づき適切に処理されている。

本学の収入構造は、年度によりばらつきはあるが、学費に依存している割合の高い状況で推移している。

学園としては、定量的なデータを基に短期大学の経営実態等の把握に努めているが、新たに中長期計画策定室を発足させたのを機に、将来の学園・短期大学像についての中長期ビジョンを策定しようとしているが、現時点では、短期大学の教職員が財政的な危機意識を共有できるための努力も必要である。

(b) 改善計画

学校法人における収入構造を考えると、収入源は大きく分けて三つに分類することができる。一つは学生負担（学納金・手数料）、二つ目は社会負担（補助金・寄付金）、そして三つ目が学校稼得（事業収入・資産運用収入）である。

これらの収入の全体収入に対する割合は、表Ⅲ-D-1-1の3ヶ年平均では、学生負担約72%、社会負担約15%、学校稼得約9%となっており、いかに学費に依存しているかが理解できる。ただ、消費収支上の学納金比率は3ヶ年平均で、70.8%（表Ⅲ-D-2-1）で、やや全国大学法人平均を下回る状態にはあるが、財的資源の確保には、学生確保対策に併せて学費依存から脱却し外部資金獲得の具体的施策（競争的資金の獲得・資産運用の積極的展開等）を講じる必要を痛感しており、低金利等で厳しい経済情勢の中、有効な方策を見出すことには困難さはあるが、早急に取り組みを検討しなければならない。

なお、教職員へ経営実態等の開示をし、実態や危機意識の共有が必要であり中長期計画策定室を中心に開示方法、意識の醸成方法に取り組む。

表Ⅲ-D-1 資金収支内訳表における収入構造

（単位：千円・%）

区分	科目	平成19年度		平成20年度		平成21年度	
学生負担	学生生徒等納付金	889,210	71.9	876,489	73.5	760,472	70.8
	手数料	16,933		12,901		11,438	
社会負担	寄付金	0	13.7	500	15.5	0	16.0
	補助金	173,149		186,508		174,870	
学校稼得	資産運用収入	88,119	11.3	67,469	9.7	18,625	7.0
	資産売却収入	1,718		0		0	
	事業収入	52,487		49,641		57,265	
その他	雑収入	39,412	3.1	15,406	1.3	67,411	6.2
計		1,261,028	100.0	1,208,914	100.0	1,090,081	100.0

基準Ⅲ-D-1 財的資源を適切に管理している

(a) 現状

3ヶ年の消費収支の状況（表Ⅲ-D-2）をみると、平成20年度はE号館（音楽棟）に耐震補強工事とエレベータ・トイレ棟の増築工事をしたことへの基本金組入の増加により、支出超過になっている。

これを除くと、予算を各年度の入学定員、収容定員に相応した予算編成につとめておりここ数年は、学生数に応じた均衡のとれた収支状況である。教育研究に必要な教育研究経費も、帰属収入の20.0%を超えており、学納金に対して教育研究費が概ね還元されている。

3ヶ年の貸借対照表（表Ⅲ-D-3）からは、平成20年度の固定資産取得により資産の部、基本金の部が増額しているが、財政構造における安全性の確保を表す正味財産が安定的に保有されている。

(b) 課題

予算の厳正な執行管理体制を維持するとともに、少子化の進展にも対応できる財務体質の強化に努め、策定中の中長期計画に沿った健全な予算計画の策定に取り組む。

表Ⅲ-D-2 消費収支計算書

（単位：千円）

区 分	平成19年度	平成20年度	平成21年度
学生生徒等納付金	889,210	876,489	760,473
補助金	173,149	186,508	174,870
資産運用収入	88,119	67,468	18,625
その他収入	110,357	81,992	138,261
帰属収入	1,260,835	1,212,457	1,092,229
基本金組入額	△ 11,284	△ 154,411	△ 806
消費収入	1,249,551	1,058,046	1,091,423
人件費	690,316	672,396	632,182
教育研究経費	281,159	312,237	266,014
管理経費	114,504	117,821	117,592
その他経費	109,427	121,423	2,102
消費支出	1,195,406	1,223,877	1,017,890
消費収支差額	54,145	△ 165,831	73,533

表Ⅲ-D-3 貸借対照表

（単位：千円）

区 分	平成19年度	平成20年度	平成21年度
固定資産	6,636,516	6,695,278	6,689,057
流動資産	493,690	348,690	392,591
資産の部	7,130,206	7,043,968	7,081,648
固定負債	618,522	618,041	625,188
流動負債	328,187	253,849	224,116
負債の部	946,709	871,890	849,304
基本金の部	3,149,992	3,304,403	3,291,137
収支差額の部	3,033,505	2,867,675	2,941,207
正味財産（資産－負債）	6,183,497	6,172,078	6,232,344

表Ⅲ-D-4 教育研究経費の帰属収入に対する構成比率

区 分	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
帰属収入	1,260,835	1,212,457	1,092,229
教育研究経費	281,159	312,237	266,014
比率	22.29%	25.75%	24.35%

基準Ⅲ-D-2 量的な経営判断指標等に基づき実態を把握し、財政上の安定を確保するよう計画を策定し、管理している

(a)現状

短期大学を取り巻く環境、とりわけ財務状況の悪化が懸念される中、本学は経営判断指標として日本私立学校振興・共済事業団の自己点検チェックリストを利用し、財務比率データ表 - I による定量的な判断を行い、本学の経営状態および財務状態を認識することに着手している。この比率分析は内部のみならず、他校や学園全体での比較が可能である。また、分析を複数年間にわたり趨勢傾向を検証も行っている。このデータは学園全体のホームページ上の事業報告書に掲載している。

平成 21 年度は、仁愛大学の人間生活学部設置に伴う 95 名の定員減により大きく帰属収入が減少することとなったが（表Ⅲ-D-1-2）、平成 19・20 年度と 2 年続いた特定資産の評価損も整理され、それに応じて消費支出も削減され収支バランスを維持してきた。予想以上の音楽学科の入学者減があり、学科ごとの収支については均衡が取れない状況にある。このため音楽学科については、23 年度から募集停止を決定し、その定員の一部 20 名を幼児教育学科に定員移動することで、収支の改善に取り組むこととなった。

(b)課題

財務状況を理解しやすい説明資料の作成につとめ、役員、教職員が財政状況の共通理解と問題点の共有を図れるような工夫を進める。

2 学科体制に対応した、経営環境、人事計画、施設計画の推進を図る。

表Ⅲ-D-5 財務比率の状況

(単位：％)

区 分		計算式	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	全国大学 法人平均 比 率 ※
消費 収 支 計 算 書	学 納 金 比 率	学 生 生 徒 等 納 付 金 帰 属 収 入	70.5	72.2	69.6	72.7
	人 件 費 比 率	人 件 費 帰 属 収 入	54.7	55.4	57.8	52.6
	教 育 研 究 経 費 比 率	教 育 研 究 経 費 帰 属 収 入	22.2	25.7	24.3	30.9
	消 費 支 出 比 率	消 費 支 出 帰 属 収 入	95.6	115.6	93.2	110.8
貸 借 対 照 表	消費収支差額 構 成 比 率	消 費 収 支 差 額 総 資 金	42.5	40.7	41.5	△ 8.1
	固 定 長 期 適 合 率	固 定 資 産 自己資金+固定負債	72.7	61.8	65.3	92.0
	負 債 率	総 負 債 自 己 資 金	15.3	14.1	13.6	15.2

※平成 22 年度版「今日の私学財政」（医療系法人を除く）より

<備付資料> 「平成 22 年度決算書 平成 23 年度予算書」

選択的評価基準 3. 地域貢献の取り組みについて

基準(1) 地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等を実施している

(a)現状

生活科学学科においてはまちづくり活動・連携事業を促進し、特に森田地区に関しては継続的な支援・連携を行っている。その他生活科学に関する市民講座を継続的に実施している。食物栄養専攻においては、食育講座を開催している。22年度は6月5日（中華料理）、7月3日（日本料理）、9月25日（西洋料理）、10月30日（日本料理）、11月20日（中華料理）の講座をそれぞれ行った。またデザインの領域に係る公開講座を開催している。22年度においては、23年2月12日（土）に福井市美術館での卒業制作展に併せて、生活と環境セミナー「ファッションとは？」を開催した。

幼児教育学科においては幼児教育公開講座、パソコン講座、保育者ワークショップ、新人保育者スキルアップ講座を実施している。その中でも新人保育者スキルアップ講座では、実践力の向上に資する実技を提供するとともに、今後の実践に向けての意欲向上に繋がる話し合いの場となっている。22年度は講座参加の対象となった、21年度卒業生になじみのある仁愛大学の伊東知之先生を迎えて、製作に関する理論の講義と風鈴や団扇などの演習が行われた。参加者は前年度より6名減の27名であった。

音楽学科においてはピアノ教育研究会、声楽研究セミナー、音楽療法研究会をそれぞれ定期的に実施している。特にピアノ教育研究会においては7月25日に開催した「土田英介ピアノ講座」における広報活動を充実させるため、新聞に広告を載せるなど広報活動に積極的に取り組んだ。

(b)課題

生活科学学科においては各講座実施に当たっての学内関係者との連絡調整を密にすることが課題となっている。

幼児教育学科においては新人保育者スキルアップ講座での実践力向上と公開講座の広報が課題である。

音楽学科においても3つの研究会の参加者増のための広報活動充実が引き続き課題として挙げられる。

(c)改善計画

生活科学学科においては後期開始早々に中間時点での関係者打ち合わせを行い、連絡調整を密にする。

幼児教育学科においては、対象の卒業生に直接はがきを送付することに加えて、卒業研究担当の教員やクラスアドバイザーであった教員に協力してもらい、個人的に声かけをしていく。

音楽学科においても更に新聞などでの広報活動を充実させるなど参加者増を目指すこととする。

基準(2) 地域社会の行政、商工業、教育機関及び文化団体等と交流活動を行っている

(a) 現状

森田地区との連携については8月30日に協定書の締結に至った。この協議組織設立に向け、学内においては5回の協議を経てコンセンサスを図った。森田地区とは5月24日に事務レベル協議を行い、7月27日には本学副学長を交えた責任者レベル協議を行った。そして8月30日の協定書の締結に至った。「森田地区まちづくり協議会と仁愛女子短期大学との連携に関する協定書」は以下の通りである。

また交流活動の一環として、仁愛女子短期大学祭（仁短祭）と森田地区文化祭とを同日開催し、両イベントへの参加を促すため、両会場間を循環するバスを運行させた。

森田地区まちづくり協議会と仁愛女子短期大学との連携に関する協定書

森田地区まちづくり協議会と仁愛女子短期大学とは、相互の人的・知的資源の交流と物的資源の活用を図り、第1条に掲げる目的を推進するために、協定を締結する。

(目的)

第1条 この協定は、森田地区まちづくり協議会と仁愛女子短期大学が、教育、文化、福祉、まちづくり等の分野において相互に協力し、地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的とする。

(協力事項)

第2条 森田地区まちづくり協議会と仁愛女子短期大学は、森田地区に関する次の事項について協力する。

- (1) 教育、文化、福祉の向上のための連携
- (2) まちづくり並びに地域貢献事業に関する連携
- (3) その他必要と認める連携

(期間)

第3条 この協定書の有効期限は、協定締結日から2年間とする。ただし、当事者から異議の申し出がない場合は、2年ごとに自動的に更新される。

(その他)

第4条 この協定に定めるもののほか、連携協議の具体的事項およびその他必要な事項については、協議のうえ別に定めるものとする。

本協定の証として、本書を2通作成し、署名捺印の上、各々1通を保有する。

平成22年8月30日

森田地区まちづくり協議会 会長

㊟

仁愛女子短期大学 学長

㊟

図 選-3-1 地元地区との連携協定書

この森田地区との連携事業として、本学ではもりた夢市、夢駅に参加をしている。7月19日、10時オープンの第6回もりた夢市には、生活環境専攻2回生、食物栄養専攻の学生、約15名と教員4名が参加した。今回からの室内（体育館）での開催に合わせ、店舗のデザイン、デザイングッズ、パウンドケーキの出店など、好評を博した。同日、16時開催のもりた夢駅～夏物語～には、生活環境専

攻、幼児教育学科、音楽学科の学生約60名が参加した。しおり作りコーナー、もりた駅長顔出しパネル、ステージ飾り、紙芝居、軽音楽サークルや音楽学科の演奏会などを行い、いずれも地域住民からは大変好評であった。



デザイングッズの店(ゼミ生)



ファッション関係の店(ゼミ生)



パウンドケーキ・クッキーの店(栄養指導研究サークル)



店舗のデザイン

図 選-3-2 地元森田地区との連携活動(もりた夢市)



もりたんしおり作り(生活環境専攻1回生)



ステージ飾り(同左)と軽音楽サークル



音楽学科ミニコンサート



紙芝居(絵本サークル)

図 選-3-3 地元森田地区との連携活動(もりた夢駅～夏物語)

福井市からの事業委託による子育て・相談事業の連携・協力・運営を AOSSA において本学が行っている。子育て相談事業においては絵本の読み聞かせや歌の会などを行っており、相談事業では医師、弁護士による専門相談を行っている。

(b)課題

夢市、夢駅に関して内山研究室、食物栄養専攻については準備会議に参画し、ポスターや店舗のデザインなど、学生の主体性を喚起することができた。しかし主体的参画というには不十分であり、他学科も含めての検討が必要である。

幼児教育学科 2 回生全員が子育て支援室の一日体験学習に参加し、保護者との接し方や親子への子育て支援の実際について学ぶ機会とすることが課題として挙げられる。

(c)改善計画

次回の夢市、夢駅に向けて、早い時期から準備会議への学生の参画を促すこととする。

幼児教育学科 2 回生全員の参加を達成することが出来た。今後も 2 回生全員の参加を促し、地域の家庭支援の重要性を学ぶ機会とすることを目指す。

基準(3)教職員及び学生がボランティア活動等を通じて地域に貢献している

(a)現状

生活科学学科においては食育ボランティア、パソコンボランティアを行ってい

る。パソコンボランティアにおいては、田中研究室の学生4名が鯖江市社会福祉協議会の障害者対象パソコン相談会のボランティアスタッフとして活動した。また生活環境専攻の学生が、福井市の駅前活性化イベントにボランティア参加し成果をあげた。またNPO法人のロゴマーク制作にも貢献した。

幼児教育学科では保育所、幼稚園、施設などでの「保育ボランティア」、図書館での「読み聞かせ会」などを積極的に行うよう学生に指導している。また授業での学修成果を幼稚園、保育所、図書館などで発表させることにより、学生の地域社会参加を促進している。さらにこれらのボランティア活動の実態を把握するため、月ごとにクラスアドバイザーが調査をし、学生指導の材料としている。

音楽学科においては、「音楽社会活動実践」等の科目を設け、自治体や病院、小学校、施設でのコンサートを積極的に行っている。

3月14日（月）東日本大震災の募金活動（卒業式会場：フェニックスプラザ）を行い、生活環境15名、学生会5名が熱い思いで呼びかけた結果、卒業生、保護者、教職員から約16万円のご協力をいただいた。

卒業記念パーティの取りやめに伴う本学からの寄付とあわせて約102万円を赤十字を通じて被災地に送った。



図 選-3-4 東日本大震災の3日後、募金活動に立ち上がった学生達

その他、学生サークルではそれぞれ以下のようなボランティア活動を行っている。

〈ボランティアサークル〉

毎月第1土曜日に、三国未来館で幼児や小学生、およびその保護者を対象とした絵本の読み聞かせや製作活動、遊びなどを行っている。季節や子どもたちの年齢に応じた制作やゲームが提供できるよう工夫した。

保育所や施設、図書館などからの要請に応じて、誕生会やクリスマス会などに参加している。これらの要請には可能な限り応じられるように努めている。

〈仁愛女子短大ユネスコクラブ〉

仁愛短大ユネスコクラブ（2010年度：部員数37名〔2年12名、1年25名〕）では、福井ユネスコクラブと共に国際活動に参加している。

福井ユネスコクラブの主宰する学習会に積極的に参加している。

福井ユネスコクラブの「ユネスコ祭」に参加し、他大学や他のサークルとの交流をはかっている。

国際的な支援活動として「募金」「書き損じ葉書の回収」「使用済み切手の回収」の活動を行っている。

22年4月30日に行われた、福井ユネスコクラブの総会・研修会に参加し、学生の意識を高めることができた。また募金や回収した葉書、切手などを贈り、総会の式場で仁愛女子短大への感謝状が授与され、更に活動に弾みがついた。

仁愛女子短大・大学祭（仁短祭）では、積極的に募金活動や献血補助活動を行い、学生達の「公に資する意識」を高めることができた。



図 選-3-5 ユネスコ研究会

〈折り紙研究会〉

「福井市消費者まつり」や「福井市子ども大会」などにおいて、折り紙教室を開催している。

5月16日（日）に開催された「いきいき消費者フォーラム」で、2回生部員を中心とした10名が折り紙教室を開催した。

7月3日（土）に福井市安居公民館で行われた「少年学級」で1回生3名が七夕飾り作りの指導を行った。



図 選択-3-6 折り紙研究会

また、教員の約81%にあたる30名が、学識経験者として行政や地域の各種委員会、審議会等に積極的に参画し、社会貢献している。（参照：基礎資料(5)の①教員の研究実績表）

(b)課題

学生のボランティア活動に対する評価が充分ではない。ボランティア活動に対する単位の認定など、ボランティア活動をいかに評価していくかが今後の課題である。

(c)改善計画

建学の精神に基づき、地域等における実践活動を促進させるため、学生によるボランティア活動を単位化することとする。「社会活動実践」という科目を設け、学生が在学中に自ら主体的に取り組んだ活動（ボランティア活動、福祉活動、学習支援活動、NPO活動、国際ボランティア活動など）について30時間以上の活動を行った場合につき、単位を認定する。それにより、学生のボランティア活動への理解や参加をさらに促進させることを目指す。

平成 22 年度 仁愛女子短期大学自己点検評価報告書
－飯田女子短期大学との相互評価－

発行日 平成 23 年 5 月 31 日

発行者 仁愛女子短期大学
禿 正宣
〒910-0124
福井県福井市天池町 43-1-1
電話 (0776) 56-1133